ISSN 1343-439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 15 号

全日本大学ソフトボール連盟

ひと振りで
四重のパワー。
スイング感が異なる
2タイプが新たに登場。
AX4
〈ミズノプロ〉AX4（エーエックスフォー）
【革・ゴムボール用】¥39,900（本体¥38,000）
●カーボン＋グラス ●φ57mm ●中国製
太めのグリップ、パワーの2TP-523
2TP-52340（84cm・平均750g）●グレー（05）／2TP-52360（86cm・平均760g）●グリーン（35）
2011年2月発売
AX4
カウンターバランスも追加、シュアな2TP-519
2TP-51940（84cm・平均700g）●ゴールド（50）／2TP-51940（84cm・平均710g）●パープル（67）
2011年2月発売
AX4
ミズノは、全日本女子ソフトボールチームの
オフィシャルサプライヤーです。
• www.mizuno.co.jp • 0120-320-799
明日は、きっと、できる。
MIZUNO

全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ

全日本大学ソフトボール連盟会長
一　谷　宣　宏

全日本大学ソフトボール連盟が、平成二十三年度の諸活動を滞りなく終え、ここに学連機関誌「ウインドミル」第15号を発行することができ、こうして皆様のお手元にお届けできることを大変嬉しく思っています。一年間の学連の動きとその成果、そしてこれからの学生ソフトボールへの展望が豊富に収録された機関誌*ウインドミル*をどうかご精読いただき、大学ソフトボールのそして日本の大学スポーツの存在意義を充分に認識いただきますこと望んでおります。お楽しみいただければ幸いです。

さて、二十三年度は、全日本大学ソフトボール選手権大会を核にして諸行事が展開されましたが、中でも、「若い選手の夢となる国際大会に参加する土壌を作る」をスローガンとして実施された、女子の東西チームによるシンガポール遠征試合、そして２月に実施される男子のニュージーランド遠征試合は大きな成果を収め、我々大学ソフトボールがこれからも力強く発展するにあたっての大きな推進力になったことは間違いありません。これからの世界を意識したソフトボール競技の展開の原動力として、大学ソフトボール連盟の担う役割の大きさを皆様と共に意識したいと思います。そしてそのことを学連機関誌*ウインドミル*を通じて実現できる事を願っています。

最後になりましたが、第15号の発刊にあたり、情報や記録をお寄せいただきました皆さまをはじめとする、関係各位に深く感謝を申し上げご挨拶といたします。

ウインドミル　第15号

目　　次

ごあいさつ ●会長　一谷　宣宏 ---------- 1

〔巻 頭 言〕●ソフトボールの復興に向けて ---------- 4
副会長　丸山　悟

〔事業報告〕●平成23年度の事業報告と今後の活動方針 ---------- 5
理事長　高橋　伸次

〔退任挨拶〕●顧みて ---------- 6
副会長　武藤　幸政

●50年間を振り返って ---------- 7
副会長　吉野　みね子

●退任にあたり，大学連盟との関わりについて ---------- 8
常任理事　黒田　重靖

〔特　　集〕●2011東西女子代表チームシンガポール遠征 ---------- 9

●シンガポール遠征を引率して ---------- 13
武藤　幸政

●シンガポール遠征記 ---------- 14
立山　利治　　岩間　英明　　逢坂　秀樹

●シンガポール遠征に行って ---------- 17
林　　優貴

●貴重な経験で学んだこと ---------- 17
逢坂　亜依

〔研究ノート〕●捕手の指導について ---------- 19
西村　真由子　　久保田　豊司

〔研究レポート〕●バッティングにおける「体を開く『くせ』」を持った -- 22
プレイヤーへの指導について
森田　啓之

全国大会の記録●文部大臣杯第46回全日本大学男子選手権大会 ---------- 23

●文部大臣杯第46回全日本大学女子選手権大会 ---------- 32

●第57回全日本総合男子選手権大会 ---------- 42

●第63回全日本総合女子選手権大会 ---------- 43

共催大会の記録●第26回東日本大学選手権大会 ---------- 44

●第43回西日本大学選手権大会 ---------- 46
後援大会の結果●第11回「峠のまち」Matsuida Cup ---------- 48
●第８回北信越大学オープン大会 ---------- 49
●第42回関東大学選手権大会 ---------- 50
●藤原初男杯第３回秋季東海オープン ---------- 52
各地区の大会結果●北海道・東北地区　選手権大会 ---------- 53
秋季大会 ---------- 53
●関東地区　春季リーグ戦 ---------- 54
第19回関東学生選手権大会 ---------- 56
秋季リーグ戦 ---------- 58
●北信越地区　選手権大会 ---------- 60
新人選手権大会 ---------- 61
●東京地区　春季リーグ戦 ---------- 61
インカレ２次予選 ---------- 64
秋季リーグ戦 ---------- 64
●東海地区　春季リーグ戦 ---------- 67
第８回東海地域選手権大会 ---------- 71
秋季リーグ戦 ---------- 72
●近畿地区　春季リーグ戦 ---------- 76
秋季リーグ戦 ---------- 81
第28回関西学生新人戦 ---------- 86
●中国地区　インカレ予選会 ---------- 87
第11回中国地区選手権大会 ---------- 88
●四国地区　男子春季大会 ---------- 88
インカレ予選会 ---------- 89
秋季大会 ---------- 89
●九州地区　第29回春季大会 ---------- 90
第11回秋季大会 ---------- 91
事務局●加盟チームによる普及活動の実績報告 ---------- 92
調査研究委員会●原稿等の募集 ---------- 95
●投稿規定 ---------- 96
広報記録委員会●連盟表彰 ---------- 96
●第11回東海オープン出場チーム募集 ---------- 96
●第９回全国国公立大学大会出場チーム募集 ---------- 98
●白馬カップ大学女子ソフトボール大会について ---------- 100
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿 ---------- 101
●平成23年度加盟大学一覧 ---------- 103
編集後記 ---------- 105

【巻頭言】　ソフトボールの復興に向けて

副会長　丸　山　　悟　（日本福祉大学）

2012年はロンドンオリンピックの年。「なでしこジャパン」の昨年のW杯での活躍ぶりをみると（もちろん、「なでしこ」には引き続き頑張ってもらって、できれば金メダルを獲得してほしいが）、北京オリンピックであれだけ我が国の人びとを沸かせたソフトボールがないのがつらい。

女子サッカーにも本当に長い、長い雌伏のときがあった。我が国の「企業スポーツ」全体の宿命ではあるけれども、FIFAランキング４位（2011年12月の時点でひとつ繰り上がって、アメリカ、ドイツに次いでの3位。ちなみに男子は19位）にまで上り詰める実力を持ちながら、長引く不況による景気悪化等で休部・廃部が相次ぎ、選手の待遇も、大多数が同世代のサラリーマンの平均収入を大きく下回るというような状況（端的に言えば〝ワーキングプア〟とも言えるような状態）から這い上がっての快挙であった。

なでしこは、「社会に明るい希望を与えることに顕著な業績があった」という理由で国民栄誉賞を受賞した。それは、世界のトップに立ったという事実の素晴さだけではない。厳しい生活環境にありながら、それを跳ね返し、チームが一致団結して栄誉を物にしたという、長い年月に亘る悪戦苦闘のドラマを想起させることで、国民的な感動をもたらしたことが根拠となっている。もちろん、「最後まであきらめないひたむきな姿勢によって国民に爽やかな感動と東日本大震災で困難に立ち向かう勇気を与えた」と、枝野官房長官（当時）が記者会見で受賞理由を述べたくなるような、賞を出す側の論理、政治的なタイミングがあったことは否めない。しかし、私も素直に受け入れたこの感動は、我々中高年の心理の中に深く内面化された成功物語の現代版でもあるように思える。また、少年時代に、バブル崩壊後の経済的に厳しい後退と停滞の時代を過ごし、現在も決して豊かな境遇にはない「Ｃ世代」（30代を中心とした、20代から40代前半までの社会人若年層）のConnection（つながり）やCommunity（共同社会）に対する希求にも応える要素がそこにあったのだと思う。

グローバルな世界での成功による輝きではあるが、感動の輪の広がりは時代の刻印をしっかり受けているし、極めてナショナルなレベルでの内面の受け皿があってのものである。北京オリンピックでのあの上野由紀子の４１３球も、同じ文脈で理解されるものであったのだ。

原発震災を含めて３．11を経験し、我々は復旧から、長い年月をかけての復興のときを迎えなければならない。放射能汚染という世界的な責任を自覚しながら、ナショナルな文脈の中で、厳しい状況に耐えながら、「共同社会」を守り、「つながり」の中で「幸福」を実感し、ひとつひとつ階段を上るようにして、「希望」を実現していくことが求められている。それを、グローバルなネットの広がりを活用して世界に発信していく中で、いつしか世界が独自の文脈に焼き直しながら「驚きと感動」をもって受け止めてくれるときが来るかもしれない。

野球やソフトボールなどのベースボール系のスポーツは、団体競技としてのチームワークは普遍的に求められるものと推察されるが、１点を守って耐え抜くことに快感を感じるメンタリティが日本人にあるとしても、世界では逆転劇やサヨナラゲームにこそ感動があるのかもしれない。いずれにしても、あの感動を次の世代にも味合わせたい。

【事業報告】　平成23年度の事業報告と今後の活動方針

理事長　髙　橋　伸　次（高崎経済大学）

本学連における唯一の主催事業である「文部科学大臣杯第46回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、“おいでませ！山口国体”の開催を控えた山口県協会のご協力のもと、男子は宇部市、女子は下関市で開催されました。熱中症の発生が心配されるほどの好天に恵まれ、男子は中京学院大学が創部10年目での初優勝、女子は園田学園女子大学が４年ぶり５回目の優勝を飾りました。

近年、男女ともに新興勢力の台頭が目立っていましたが、とくに男子は昨年に続く初優勝校の誕生であり、京都産業大学、日本体育大学、中京大学、立命館大学など優勝経験のある強豪を破っての優勝は見事であったと思います。また女子においても、優勝こそ伝統ある園田学園女子大学に譲ることとなりましたが、創部５年目にして昨年の３位に続く準優勝の鈴鹿国際大学は、今後も目を離すことのできないインカレの台風の目になるのではないかと思います。

また本大会においても、学生役員が開会および閉会の宣言や各会場の運営にあたりました。とくに今大会では、twitterを使った試合速報の配信や大学連盟のHPにインカレ特設サイトを開設して大会レポートや監督インタビューを動画配信するなど、学生ならではのアイデアと技術で、これまでにない革新的な広報活動をすることができました。速報掲示板のアクセス数は17,568件にものぼり、またアメリカ、イギリス、カナダなど海外からのアクセスもありました。インカレへの関心の高さを感じるとともに、改めて広報の重要さを認識させられました。なお、今回の課題としてスタッフ不足や機材の不十分さがあげられました。そこで新たに「インカレ広報委員会」を立ち上げ、広報活動の充実を図っていきたいと考えています。

国際交流事業としては、６月にともに女子の東日本大学選抜チームと西日本大学選抜チームを「アジアパシフィックソフトボール選手権大会」（シンガポール）に派遣しました。参加チームはほかにシンガポール代表、オーストラリア・ノーザンテリトリー、ブルネイ・チカラの５チームでした。結果はともに予選リーグを勝ち上がった東日本チームと西日本チームの決勝戦となり東日本チームが優勝しました。日本の大学チームのレベルの高さを証明したかたちとなりましたが、本年８月にアメリカで開催が予定されている「世界大学女子選手権大会」への良い弾みになったと思います。

また男子では、平成24年２月にニュージーランド（NZ）に選抜チームを派遣する予定です。この遠征ではホームスティや観光のほかNZ国内の全国大会に出場することになっています。世界最高レベルのNZソフトや文化を体感し、多くのものを学んで帰ってきて欲しいと期待しています。

なお、こうした国際交流事業の展開は、将来優秀な競技者や指導者を輩出するという意味からもますます重要なものになってくると思われます。今後とも積極的に推進していく所存です。

共催している東日本・西日本大学選手権大会および後援している大会については、東日本大震災のために３大会が中止になりましたが、５つの地区で10大会が開催されました。こうした選手権大会や地区を越えたオープン大会は、大学ソフトボール界の底辺の拡大やレベルアップに資する重要なコンテンツと考えています。今後も強力に支援していきたいと考えておりますが、学連全体の発展のために、学生側からの積極的な参画にも期待したいところです。

最後になりましたが、この誌面をお借りして報告します。二度のインカレをお世話になっている東松島市と女川町はご案内のように東日本大震災で甚大な被害を受けました。大会会場が仮設住宅になっているニュース映像をご覧になった方も多いと思います。その市町のソフトボール協会へ12月10日に赴き、加盟チームからの義援金を含め、支援金としてそれぞれ50万円をお渡ししました。

【退任挨拶】　顧　み　て

副会長　武藤　幸政（城西大学）

私がソフトボールに携わったのは30数年ですが、実際に大きな大会に出場したのは、第26回（昭和46年）国民体育大会和歌山県で開催された大会への参加だけです。その後、1980年に城西大学男子ソフトボール部を学生有志の呼び掛けにより同好会として活動を開始させました。クラブを作るきっかけは、私が第５回世界男子ソフトボール選手権大会にアスレティクトレーナーとして参加するのを学生が雑誌で見て、作りませんかということでした。そして創部２年目で第16回大学選手権大会（山口県宇部市）に初出場を果たしました。その後も13回の出場を果たしております。

その後は、(財)日本ソフトボール協会のお手伝いをするようになった関係で学連のお手伝いもせず先生方にはご迷惑をかけましたが、1991年頃より学連のお手伝いを率先して協力することを心がけました。

(財)日本ソフトボール協会のお手伝いとは、

1989年　第３回世界ジュニア男子選手権大会
1990年　第７回世界女子選手権大会
1990年　第11回アジア競技大会
1996年　第26回アトランタオリンピック
　　第７回アジア女子選手権大会

以上　ナショナルチームのアスレティクトレーナーとして帯同しました。

このように、最初は男子ナショナルチームのアスレティクトレーナーとして帯同しましたが、後半は女子ナショナルチームのアスレティクトレーナーとして帯同していく中で女子のチームを作りたいと思うようになり、2001年に創部し、３年目で第38回大学選手権大会（山口県宇部市）に初参加してから９年連続で出場をしております。偶然にも男女の初出場は山口県宇部市の大会です。

以上のように、私としては非常に楽しいソフトボール人生であったと思います。

その中で最も印象に残っているのは、アトランタオリンピックに参加できたことです。スポーツを行っている人でしたら、１回はオリンピックに参加（出場）するのが夢だと思います。それが叶えられたわけですが、職場がありますので大変苦労しました。なかなか文章にするのは難しいのですが、1994年に選考会があり、その場で選手を絞り込み、そして沖縄に移動して強化合宿を行うわけですが、私は聞いていなかったので急遽大学に連絡して休講にしましたし、1996年の４月は新学期ですので取りあえず５月より７月までは私の授業は何人かの先生と、さらには大学より非常勤講師を採用していただき行いました。

以上のように状態でしたので学連の先生方には非常に感謝しております。学連の更なるご発展を祈念して、退任挨拶といたします。

50年間を振り返って

副会長　吉　野　みね子（東京女子体育大学）

本学は、明治35年５月に私立東京女子体操音楽学校として創立されてから今年１１０周年を迎えます。

私は学部が開設された昭和37年に入学しました。大学でソフトボールをしたかった私ですが、残念ながら当時はソフトボール部が存在しなかったため、バスケットボール部に入部しました。しかし、どうしてもソフトボールが諦めきれず、翌２年生の時に退部し、ソフトボールの好きな仲間を誘って同好会を立ち上げました。これが、現在のソフトボール部誕生のきっかけとなったのです。しかし、同好会を立ち上げたものの、初めの頃は様々な困難が待ち受けていました。施設も用具ない中で、用具類は授業用の物を借り出し練習後に返却するということでなんとかクリアできましたが、グラウンドは雑草が生い茂り、狭い空き地で十分な練習をすることもできませんでした。時には、戦時中に疎開していた時のように道具をリアカーに積んで、近くの空き地を探し求めて彷徨う風景も今では懐かしい思い出となっています。今から見れば相当大変なことのように思えますが、それほどの辛さは感じませんでした。みんなでリアカーを押すことさえも楽しかったのを覚えています。そして、私が４年生になって、同好会は念願のクラブに昇格し本格的な活動が出来るようになりました。

そして、母校の教員としてスタートした昭和41年、第１回全日本大学ソフトボール選手権大会が東京の駒沢で開催されました。参加大学は、日本体育大学、富山大学、武庫川女子大学、日本女子体育大学、そして東京女子体育大学とわずか５大学でした。試合は、チーム数が少ないためにラウンドロビン方式で行われました。その後、この方式は第８回大会まで続き、昭和49年第９回大会からトーナメント方式を採用することになりました。昭和41年に大学連盟が発足してからのこの10年間は学連の関係者の一人として、何とか加盟大学を増やさなければの一心でした。学連発足から45年経った現在は、加盟大学女子１０７校・男子１４５校、インカレ出場大学も今年からは男女とも32大学になることを思うと時間の流れを感じずにはいられません。学連の発展を心から嬉しく思います。

また、オリンピック競技大会・アジア競技大会・ユニバーシアード・世界大学選手権大会・世界ジュニア選手権大会、また、非公式にはニュージーランド遠征・ブラジル遠征・オーストラリア遠征・台湾遠征など国際大会の機会も与えて頂き、学連登録選手からも日本代表選手を輩出するようになりました。世界の舞台で勝つことの難しさを感じながら、多くの貴重な経験をさせていただきました。こうしたことが、男女の選手の育成・強化また、ソフトボールの普及・発展につながっていると確信しています。

こうして全日本大学ソフトボール連盟の歴史と同時にスタートした、私の教員生活も本年度を以って終了いたします。４年間の学生時代を含め、約半世紀にわたりソフトボールを通じて多くの方々と出会い、そして様々な勉強をさせていただきました。

最後になりましたが、会長の一谷宣宏先生をはじめ、学連の役員の皆様方に感謝を申し上げ、全日本大学ソフトボール連盟の益々のご発展を祈念いたします。

退任にあたり，大学連盟との関わりについて

常任理事　黒　田　重　靖（富山大学）

私が全日本大学ソフトボール連盟に関わりを持つ様になりましたのは昭和59年頃富山大学の女子ソフト部の監督となってからです。体育系の学部でもない私でしたが、たまたま地元のクラブでピッチャーをしていたことから富山大学女子ソフトボール部の学生から依頼され何気なく引き受けたのが始まりでした。当時、北信越地区は小規模で単独では大会が開けない状況でしたので、私達北信越地区は関東地区に組み込まれていて試合は全て関東学連の大会の中で行われていました。関東までの遠征は、雨で延期になって滞在費が底をつく事もあり大変でしたが楽しくもありました。その後、前任の上越教育大学の先生に代わって全日本大学連盟に出させて戴きました。当時、坂井先生、角田先生もいらっしゃいました。平成２年頃と思いますが、大学連盟理事長の水野先生、副会長の中野先生の御尽力よって北信越地区が独立致しました。水野先生の御英断並びにその後の御支援に深く感謝致しております。男子は発足時の信州、長野、富山に加えその後、福井、金沢、富山国際、福井県立、敦賀短期、石川県立等が、女子は、上越教育、信州、富山に加えて金沢、長野、敦賀短期、飯田女子短期、松本、福井、金沢学院が順次加盟しましたが、平成23年度は男女各７大学となっております。独立当初２、３年は手作りで闇雲に大会を行っていましたが、北信越ソフトボール協会の大久保理事長（福井県、故人）の薦めで平成２年北信越地区の協会に加盟しました。北信越協会の主催によるインカレ予選を兼ねた北信越地区大学男子女子ソフトボール選手権はすでに協会に加盟から１８回を重ねました。又、秋の新人戦は独立の１年後に始め、当初から数へて20回となっております。更に平成16年度から大学連盟の支援のもと北信越オープン大会を開催しています。今年度は第８回となりました。近年この大会は最近男子の参加数が少なく危機的状況にありましたが、平成23年度は関東、中部、近畿地区から多数チームを派遣して頂き大いに大会を盛り上げて戴きましたので取り敢えず危機を乗り越えた感がします。

独立以後、女子に松本大学が加盟し一気に頂点に立って全国に通用するチームとなりました。最近では金沢学院大学も加盟し松本大学に続く勢いです。男子の方はインカレで富山大学の８位が最高ですが、これ１回のみでまだまだというところです。課題は男女とも加盟大学、選手の増加と質的向上です。

私は、大学連盟では20年近く常任理事を務めさせて戴きました。この間多くの大会に参加し、また、東日本大学連盟副理事長として各地区での大会に参加させて戴いた事は非常に貴重な経験でした。大会の運営の難しさも経験しましたが、それ以上に大学連盟の先生方と一緒に出来ました事は非常に楽しい経験であり、各地区の役員の方々とも懇親出来たと感謝致しております。また、地元の協会関係では、北信越ソ協会および富山県ソ協会の大学連委員長として大学および北信越協会の大会の運営等をさせて戴きました。それで各県の協会の役員や選手の皆さんに知己が多くなり専門分野のみでは経験出来ない貴重な思い出が出来ました。北信越地区では松本大学の岩間先生が大学連盟副理事長となられ後顧憂いなく退任出来る事となりました。

終わりに、これまで数々御世話になりました歴代の会長、理事長、事務局長、常任理事、学生委員はじめ役員各位に深く感謝申し上げますと共に、今後とも全日本大学ソフトボール連盟の益々の御発展と役員、関係者の皆様方の御活躍と御健勝を衷心よりお祈り申し上げます。

【特　集】　2011東西大学女子代表チームシンガポール遠征

●大会概要

大会名：アジアパシフィックソフトボール選手権
　　大会　2011シンガポール
日　程：2011年６月24日～26日
場　所：シンガポール　Kallang Diamonds
参加国：東日本大学選抜、西日本大学選抜、
　　オーストラリア・ノーザンテリトリー
　　ブルネイ・チカラ、シンガポール代表

●スタッフ

団　　長：武藤　幸政（城西大学）
総務兼通訳：立山　利治（国際武道大学）
東日本監督：岩間　英明（松本大学）
同上コーチ：高橋　知美（富士大学）
西日本監督：逢坂　秀樹（鳥取短期大学）
同上コーチ：宮尾　直海（愛媛女子短期大学）
トレーナー：川名なつみ（国際武道大学４年）

●東日本派遣選手

No.	守備	氏名	所属	学年
1	投手	榎林　茉実	富士大学	2
2	〃	五味　彩華	東北福祉大学	3
3	〃	野村美和子	城西大学	4
4	〃	三木　綾菜	日本体育大学	2
5	捕手	郷間　智美	富士大学	3
6	〃	平谷　美咲	東北福祉大学	2
7	一塁手	山崎奈美佳	松本大学	3
8	〃	山本沙耶加	東北福祉大学	3
9	〃	松畑　美希	日本体育大学	1
10	二塁手	酒巻ひかる	城西大学	4
11	〃	岩見　香枝	日本体育大学	1
12	遊撃手	宮坂奈々恵	松本大学	3
13	〃	相馬　満利	日本体育大学	3
14	中堅手	桐生　彩香	富士大学	3
15	〃	酒井　梨花	東北福祉大学	3
16	右翼手	林　　優貴	日本体育大学	4

●西日本派遣選手

No.	守備	氏名	所属	学年
1	投手	勢村　香織	東海学園大学	3
2	〃	南　由香利	環太平洋大学	3
3	〃	梶岡祐女也	天理大学	4
4	〃	長谷川朋子	中京大学	2
5	捕手	逢坂　亜依	大阪国際大学	4
6	〃	新海真里奈	日本福祉大学	2
7	一塁手	光井　綾香	東海学園大学	3
8	〃	北林　　彩	中京大学	4
9	二塁手	小泉　あい	東海学院大学	3
10	三塁手	村井　美保	東海学園大学	4
11	〃	前出　由佳	龍谷大学	4
12	遊撃手	高橋　愛実	立命館大学	2
13	中堅手	加藤　希望	東海学院大学	4
14	〃	結城　典子	東海学園大学	4
15	〃	佐野由貴美	神戸親和女子大学	3
16	右翼手	加来　諒子	大阪国際大学	4

●東日本予選リーグ試合結果

◆６／24（大会第１日）第１試合

シンガポール　０００１０　　：１
東日本選抜　４２０１1x　　：８

[東]○三木・五味―郷間　(三)山崎　(二)山崎

【評】この大会に参加してきたチームがどの程度のレベルにあるのか分からないだけでなく、選抜チームということで選手個々の特徴も含めた自分たちのチーム力も十分把握できていないという状態であった。シンガポールは国際大会にもあまり出場してないことから大丈夫であろうという思いはあるものの、何があるか分からない緒戦、しかも地元シンガポールということで、選手・スタッフとも緊張の中で迎えた第１戦であった。さらに、試合前のフィールディングも５分間の予定が３分もたたないうちに打ち切られるなど、前日のテクニカルミーティングでの内容とは全く違うアバウトな大会運営に面食らうことばかりが続く。しかし、そうしたとまどいや緊張感を徐々になくなり、結果的には完全アウエーの中８対１で５回コールドと選手は格の違いを見せつけ、他チームならびに観客に「日本強し！」を印象づけることができた第１戦であったと言える。

◆６／24(大会第１日)第２試合

東日本選抜　０００００１３３：７
ブ ル ネ イ　０００００００：０

[東]榎林・○野村―平谷　(本)山本　(二)山崎

【評】やはり各チームの主力選手達である。７－０という点差はもちろんだが、それ以上に前半あれだけ相手投手の速球に押されていたにもかかわらず、球速の衰えていない相手投手を後半は確実にとらえる適応能力の高さを見せつけた。また、苦戦を強いられる戦いであっても、焦ることも、臆することなくのびのびと自分たちのプレーに徹する精神力の強さも十分感じられた。

特に、このチームの主将に任命した林(日体大)の攻守にわたって試合の流れを決めるプレーの数々は、単にこの試合の勝利に貢献したということだけでなく、選抜チームという難しいチーム運営を自らのプレーで引っ張り、チームの結束を高めたという点で特筆すべきものであった。

また、一方でブルネイは全く何の情報のない国で、リーグ戦では一番戦いやすいと踏んでいたが、投手の速球、パワフルな打撃など、選手１人１人の潜在能力の高さを感じさせ、国際大会の怖さを選手・スタッフともに感じさせられた。

リーグ戦前半を二連勝するとともに、チーム全員に出場機会を与え、選手個々の特徴を掴むという当初のプラン通りの展開に持ち込めた大会初日であった。

◆６／25(大会第２日)第３試合

オーストラリア　００００　：０
東 日 本 選 抜　４３２１x　：10

[東]○三木・榎林―郷間　(三)松畑　(二)松畑

【評】大会前の段階ではオーストラリアは参加国の中で最も強敵であろうと予想していたが、前日の西日本との戦いぶりを見ると、最も戦力的には低いと思われたため、余裕を持った戦い方ができた。前日の試合結果と他チーム試合の様子から予選リーグでは少なくとも２位以内が確保できたと確信し、ページシステムを意識した戦い方が必要であるという判断をした。そのため、予選リーグ最終戦やその後のページシステムでの西日本との戦いを意識して、チームに勢いを与えるような試合運びを狙った。選手は攻守にわたってのびのびとプレーができ、打線がつながり、堅守をみせる非常に良い雰囲気の中でゲームセットを迎えることができたと言える。

◆６／25(大会第２日)第４試合

西日本選抜　００４００００：４
東日本選抜　００００００２２：４

[西]梶岡・長谷川―逢坂　(三)結城　(二)村井

[東]野村・五味－平谷　(二)桐生

【評】日本同士の一戦は意地と意地がぶつかり合う、他国との対戦とは別の意味で緊張感のある試合となった。試合序盤に２死からの連打で４点をもぎ取った西日本に対し、梶岡(天理大)の前に攻撃の糸口すら見つけられない東日本。こうした劣勢の中で、あきらめずに勝利を目指した選手のプレーは、東日本大学選抜の名に相応しいものであったと思う。

特に、２番手で登板した五味(東北福祉大)のランナーを背負いながら失点を許さない粘り強い投球や、期待に応えた桐生(富士大)・相馬(日体大)の思い切りの良い打撃は敗戦色の濃いこの試合を引き分けに持ち込む素晴らしいものであった。特に主将でもある林(日体大)は２点を追う最終回、代打で登場すると期待通りに出塁し、同点の足がかりをつくった。林の執念とも言える打撃はブルネイ戦に続いて苦しいときに頼りになる主将の姿をチーム全員にまざまざと見せつけ、一層チームの結束を強固なものにしたのではないかと思われる。また、４点を失ったものの短期決戦のこの大会で、自信を失ったまま降板させたくないと考えたベンチの想いに応え、次の回をきちんと押さえた野村(城西大)の強気な姿勢もチームに勢いを与えてくれた。

引き分けとなったこの試合、試合終了後に公式記録員が試合の得点を４－３と勘違いした結果だということがわかった。日本では考えられないようなミスだが、高温多湿の中での連戦。しかも、ページシステムで西日本との対戦はあと２回はあるだろうと予測されていたため、タイブレーカーがなかったのはちょうど良かったとも思う。しかし、まぁ、この大会は予測もできないようなことの連続で、いかに日本の大会運営が優れているの

かを改めて感じることができた。

●西日本予選リーグ**試合結果**

◆６／24(大会第１日)第１試合

オーストラリア　０００００００　：０
西 日 本 選 抜　３１０００3x　：７

[西]勢村・○長谷川－逢坂

【評】オーストラリアの投手は、スピードはあるが、コントロールが悪く、自滅の形となった。西日本は、１回と６回に四球からチャンスを作り各３点を挙げ、試合を決定づけた。しかし、西日本が放った安打はシングル３本と内野安打２本で、荒れ球と球威に押され、適時打は１本であった。オーストラリアのチャンスは、２回と５回にあったがともに得点することができず、西日本投手陣に１安打に抑えられ、６回コールドとなった。

◆６／24(大会第１日)第２試合

ブ ル ネ イ　０００２０００：２
西日本選抜　０４００００ｘ：４

[西]梶岡・○長谷川－新海・逢坂　(二)高橋・北林

【評】ブルネイの投手は、スピードこそ日本の投手と見比べると若干見劣りするが、西日本が得点した２回以降は、ライザー、ドロップをコントロール良く絡ませ日本打線を抑え込んだ。西日本の２回の攻撃は、６番加来(大阪国際大)がセンターへ安打、新海(日本福祉大)の野選で無死一・三塁とし、８番高橋(立命館大)がレフトへ二塁打、続く加藤(東海学院大)も安打し、この回一挙４点を挙げた。一方、ブルネイは４回２死から三連打で満塁とすると、続く６番７番が左腕特有のインコースへ食い込んでくるボールに、２者連続死球で押し出しの２点を挙げ、なおも満塁で一打同点まで攻め立てたが、後続を断たれた。西日本にとっては、ここで一本を許さなかったことが勝因となった。

◆６／25(大会第２日)第３試合

シンガポール　００００００　：０
西 日 本 選 抜　１７００ｘ　：８

[西]長谷川・○南―新海　(二)新海・村井

【評】西日本大学が、１・２回で大量得点しコールドで勝利した。長谷川はシンガポール打線を、内野安打１本、外野への打球０に抑え込んだ。

◆６／25(大会第２日)第４試合

西日本選抜　００４００００：４
東日本選抜　０００００２２：４

[西]梶岡・長谷川―逢坂　(三)結城　(二)村井

[東]野村・五味－平谷　　(二)桐生

【評】予選リーグ最終戦は、共に無敗同士の西東（東西）対決となった。西日本は、２回を除くイニングでランナーを出し得点する機会は何度かあった。得点した３回は逢坂が先頭打者安打し、続く結城もレフト前へ運んで無死一・二塁とした。２番小泉(東海学院大)は、確実にランナーを進めたが、３番がショートフライで２死となりチャンスは消え失せたかに思えた。だが続く、４番佐野(神戸親和女子大)、５番加来(大阪国際大)、６番村井(東海学園大)が連打し４点を先取した。その後もチャンスはあったが、得点に結び付けることができなく、東日本大学の６回・７回を迎えることになった。

６回の東日本の攻撃は、８番平屋が四球を選び一塁へ出ると９番岩見(日本体育大)が初球をバンドし、１死二塁、１番桐生がセンターへ二塁打、２番はアウトになるも３番相馬(日本体育大)がセンターへはじき返し２点を取り２点差と詰め寄った。７回は、先頭打者の５番野村(城西大)がセカンドエラーで出塁、続く６番山本(東北福祉大)がレフトへ安打し、７番山崎(松本大)はショートエラーで満塁となった。８番平屋(東北福祉大)のセンター犠飛で１点差に迫り、９番は何とか抑え２死二・三塁としたが、続く１番打者の桐生(富士大)の打球が内野安打となり、三塁走者に続き二塁走者もホーム突入を試みたが、寸前でタッチアウトとなりゲームが終了した。

●ベージシステム**試合結果**

◆６／26(大会第３日)第１試合

東日本選抜　０００００００１１：２
西日本選抜　０００００００１０：１

[東]○三木―郷間

[西]●長谷川―逢坂

【評】戦力的にも拮抗する日本の東西のチームの激突は、東日本三木、西日本長谷川の好投手の投手戦となり、１点を争うゲームとなった。両チームとも走者は出すものの、ここ一本の場面でそれ

ぞれ投手を打ち崩すことができず、結局得点をあげられないまま、試合は０－０の延長タイブレークに突入し、東日本が２－１で試合を制した。この試合紙一重の差で東日本が西日本を制したが、最後の最後までどちらが勝利を手にするかわからない試合展開であった。ただ、一貫して強気の攻めを貫いた東日本に対して、最後の最後の場面で強攻策に転じた西日本との差が最後の１点の差を生んだのかもしれない。

しかし、いずれにせよ、勝敗を分けたのはほんの小さな運の差であったように思うし、両チームの選手達の見せた気力・技量は、JAPANのユニフォームに恥じないすばらしいプレーの数々で、たくさんのシンガポールの観客を魅了する試合であったと言えよう。

◆６／26(大会第３日)第２試合（３位決定戦）

西日本選抜　１０１０００１：３
ブ ル ネ イ　０００００００：０

[西]梶岡・○長谷川－新海・逢坂　(二)佐野②

【評】ブルネイとは、２戦目となったが相手投手のライザーに手こずり連打をすることができなかった。また、選手は体力的に限界にきてをり、スイング力も明らかに低下し、内野フライが多くなり、三振も多くなってきた。試合は、梶岡と長谷川が相手に得点を許さず、少ないチャンスに佐野の２本の適時打で得点し、西日本選抜が勝利を収めた。

◆６／26(大会第３日)第３試合（決勝戦）

西日本選抜　１０００１００：２
東日本選抜　０００００５ｘ：５

[西]長谷川・●梶岡―逢坂

[東]榎林・五味・○野村―平谷・郷間・平谷
(三)松畑、山崎②　(二)酒巻

【試合展開】

１回　東日本の先発は榎林(富士大)、西日本は延長９回のタイブレークを１人で投げきった長谷川(中京大)が再びマウンドに立った。先攻は西日本。初回、先頭の結城(東海学園大)が二遊間にヒットを放つと２番高橋(立命館大)が手堅く送り１死二塁、次打者は内野フライに倒れ２死となるも、４番佐野(神戸親和大)がライトオーバーの三塁打で西日本が先制する。その裏、１点を追う東日本は２番酒巻(城西大)が四球で出塁すると次打者の初球に二盗を敢行する積極策、間一髪セーフとなり１死二塁、３番相馬(日体大)が投手前内野安打を放ち１死一・三塁と同点のチャンス、しかし後続を打ち取られ、結局この回無得点。

２回　西日本の攻撃は落ち着きを取り戻した榎林(富士大)がピシャリと３人で抑えた。その裏、東日本は一死から７番山崎(松本大)がライトオーバーの三塁打で再び同点のチャンス。次打者の時エンドランを仕掛けるが飛球となり２死三塁。後続も打ち取られこの回も無得点に終わる。

３回　榎林は落ちついて三者凡退に打ち取り、西日本に傾きそうになる試合の流れを止めるナイスピッチングを続ける。その裏、先頭の１番酒井(東北福祉大)がセンター前にはじき返す。二盗も決め無死二塁、同点の絶好のチャンスをに２番酒巻の当たりは三遊間へ、スタート良く酒井も三塁へ走り出すが、運悪く打球を処理しようとした遊撃手と接触、守備妨害となり酒井はアウト、１死一塁となる。さらに、二盗を試みた酒井も失敗し、結局この回は３人で攻撃を終了する。

４回　西日本は中軸が三者凡退で無得点。その裏、２死から６番林(日本体育大)７番山崎(松本大)が連続ヒットで出塁し２死一・二塁とするが、後続が打ち取られ無得点。連投の長谷川が頑張りを見せる。

５回　西日本は１死から７番光井(東海学園大)がヒットで出塁、ここで東日本は好投を続けてきた榎林に替えて五味(東北福祉大)を投入。８番逢坂(大阪国際大)の送りバントをキャッチャーの平谷(東北福祉大)が思い切りよく二塁へ送球。しかし、これが野選となり１死一・二塁。捕手の動揺につけ込もうとしたのか西日本はこの場面、重盗で揺さぶりをかけてきたが、これは平谷が落ち着いて三塁へ送球して盗塁阻止で２死。しかし、ホッとしたのか今度はパスボールで二塁ランナーを三塁に進めてしまった上、９番小泉(東海学院大)に四球を与え、２死一・三塁。１番に戻り結城(東海学園大)のつまった当たりはショートの頭を超えてレフト前にポトリと落ち、西日本は２点目を追

加した。続く２番高橋(立命館大)の当たりはセンターへのヒット性の飛球だったが、酒井(東北福祉大)がこれを好捕し、さらに追加点を挙げることはできなかった。その裏、東日本は１死から先ほどファインプレーを見せた１番酒井が技ありのスラップで出塁したと思われたが、反則打球でアウトの判定。２番酒巻(城西大)が左中間を破る二塁打で出塁するも後続が打ち取られこの回も無得点に終わる。

６回　西日本は２死から代打の南(環太平洋大)がセンターへ安打するもそれ以上のチャンスには至らなかった。その裏、東日本の４番山本(東北福祉大)が死球で出塁。ここで前の打席で代打を送られた松畑(日体大)がリエントリーで再び打席に立つと期待に応え、あわやオーバーフェンスかと思われるセンターオーバーの大三塁打。山本が長駆ホームを駆け抜け、まず１点。こうなるとそれまでの鬱憤を晴らすかのような東日本の押せ押せムードとなり、さらに１死三塁から、７番山崎が右中間を深々と破る三塁打で同点。８番岩見が死球で出塁し、１死一・三塁となったところで、西日本はここまで粘り強い投球を続けてきた長谷川を諦め、梶岡(天理大)をマウンドへ送る。すかさず、岩見が二塁を陥れ、１死二・三塁、逆転のチャンスに９番郷間(富士大)がレフト前ヒットで２者が生還。一気に４－２と逆転。さらにリエントリーの平谷が二盗を成功させると、２死から２番酒巻がしぶとく一・二塁間に内野安打を放ち、平谷がホームを踏み１点を追加。酒巻の二盗は阻止されるも、この回一挙５点を挙げ５－２となった。

最終回　東日本は五味が１死を取ったところで、野村(城西大)にスイッチ、野村は２死からヒットを許すが、後続を内野ゴロに打ち取り熱戦に終止符を打った。

【評】まずは、この高温多湿の厳しい条件の中、１日３試合を戦った西日本選抜チームの強い精神力、とりわけ、この日準決勝の延長９回と決勝の６回途中までの計14イニング３分の１を投げ抜いた長谷川(中京大)の健闘を讃えたい。一方、チャンスは作るものの、なかなか得点することができず劣勢に立たされた試合を最後の最後まであきらめず、あくまで強気な姿勢を崩さずにプレーした東日本選抜チームの選手達もまた賞賛に値するであろう。

最後はその強攻策に徹した東日本の姿勢が功を奏した形となったが、これまでの２試合同様、どちらが勝利を手にしてもおかしくない紙一重の緊迫した試合であった。この試合を観戦していた多くの人々もそのことをよくわかっており、試合後両チームに同じように温かな拍手と声援が送られた。そしてさらに、そのことは誰よりも選手が感じており、試合終了後は両チームが入り交じって、監督・コーチ、キャプテンの胴上げや記念写真の撮影が続いた。

シンガポール遠征を引率して

団長　武藤幸政（副会長・城西大学）

「2011　アジアパシフィック女子招待オープンシンガポール」に６月21日～27日にかけて東日本大学選抜と西日本大学選抜両チームの団長としてシンガポール遠征に同行させていただきました。この遠征は、学連の役員の先生方の多大なるご理解のもとに実現した次第です。

大会に参加するにはスタッフのチームワークが大切ですので、まず、スタッフミーテングを実施して、６名のスタッフと一谷全日本大学ソフトボール連盟会長、高橋伸次理事長、森田啓之事務局長の連盟役員の先生方が御忙しいなかお見えになり、今回の遠征についての最終確認を行いました。

結団式は、会長、理事長、事務局長をはじめスタッフそして全国の各大学から選抜された選手32名、トレーナー１名が一堂に会して実施され、会長を始め役員・スタッフより今回の遠征の意義や

意味、選手に期待することなどを述べられた後、全選手一人ひとり自己紹介をして結団式を終了しました。

６月21日に無事現地シンガポールに到着はしましたが、南国特有の高温多湿の気候で前途多難の予感がしました。しかし、シンガポールソフトボール協会の日本担当のルイスさんが出迎えてくれ、非常に親切に手際よく進めてくれて、ひと安心でした。

６月23日は練習日ですが、試合会場は使わせてもらえず、地元の中高一貫教育の名門校Raffles Institution校のラグビー場で行いました。選手は２日ないし３日練習を行っていないので、各自で念入りにウオーミングアップを行い、基本練習だけでしたが、レベルの高さやセンスの良さを感じました。

今大会は、６月24日から26日の３日間で行われ、参加チームは、ノーザンテリトリー（オーストラリア）、ブルネイ・チカラ、東日本大学選抜、西日本大学選抜・シンガポールのチームのリーグ戦、さらに順位決定戦はページシステムで行われました。戦前の予想通りに、決勝戦は東日本大学選抜と西日本学生選抜の対戦で白熱した戦いとなり、互いに負けられないという意地があり、一投一打にその気持ちが表れており非常に好ゲームでした。

大会は、３日間で５ゲームでしたが、各選手が積極的に他国の選手や大会を支えている役員やボランティアの地元シンガポールの人たちと、片言の英語や時にはボディランゲージを駆使して、積極的な交流を展開していた様子はこの遠征の意義を改めて感じさせられました。

さらに、赤道直下の国ということで毎日１時間程度のスコールがあり、そのたびにグランドの整備を行わなければならなかったのですが、日本の選手は地元のボランティアの中高生に混じり、雨や泥で靴やユニホームが汚れることを気にすることなく、主体的にグランド整備に取り組んでいました。その様子は、スポーツマンとしての成熟度の高さを示し、アジアのソフトボールをリードする国の選手として立派であったし、これまで各大学で選手を指導されてきた先生方の素晴らしい指導の一端が垣間見えたような気がしました。

最後になりますが、スタッフ・選手・トレーナーが一つなって非常に有意義な遠征でした。この遠征を企画して頂いた学連の役員の先生方に感謝いたします。

シンガポール遠征記

総務兼通訳　立山利治（国際武道大学）

本年６月、シンガポールにおけるアジア・パシフィック招待大会に総務兼通訳として随行させていただきました。裏方として、選手やスタッフの皆様に、一切の不便がないよう、そして何よりも安全な旅となり、全員が無事に帰国できるように努める覚悟での帯同でありました。結果として、一同全員が無事に成田に帰り着き、笑顔で解散できたことで、何とか任務を果たすことができたのではないかと思っています。

一英語教員としては、ついつい「このせっかくの機会に大学生たちに異文化体験を積んでもらいたい」とも考えてしまい、僅かな自由時間に強行スケジュールの観光も提案させていただきました。マーライオン・パーク観光で、みんな仲良く写真を撮ったりしながら笑顔ではしゃいでいる選手たちの姿は、大会で楽しく元気溌剌としたプレーを見せてくれたり、他国の選手たちと嬉しそうに記念写真を撮ったりしている姿と併せ、私にとっては何よりのご褒美となりました。

仕事のうえでは、もしかすると到らなかった点もあったかもしれませんが、参加者全員にとって、この遠征が想い出に残るものとなってくれていればと願わずにいられません。もちろん私個人にとっても、大変に想い出に残る遠征でした。裏方で

ある私たちスタッフの、さらに裏方として、この遠征の諸々の手配をしてくださった日本協会のスタッフの皆様のご苦労を思うと、本当に感謝の念に堪えません。この場をお借りして心よりのお礼を申し上げつつ、今回の遠征記を締めくくらせていただきます。

シンガポール遠征記

東日本大学選抜監督　岩 間 英 明（松本大学）

大会は日本勢が優勝・準優勝と最高の形で幕を閉じることができた。当初予想された中国や台湾の参加がなく、レベルも決して高くはなかったが、それでも、選手は高温多湿の気候、戸惑うことの多かった大会運営やジャッジ、なかなか慣れることができなかった食事など、様々な場面で国際大会の厳しさや難しさを経験することができた。そして同時に、選手としてフィジカル、メンタル両面のたくましさの必要性や、日本での恵まれたソフトボール環境を改めて見直すことができたのではないかと思う。

また、各選手が積極的に他国の選手や大会を支えている役員やボランティアの地元シンガポールの人たちと、片言の英語や時にはボディーランゲージを駆使して、積極的な交流を展開していた様子はこの遠征の意義を改めて感じさせてくれた。

さらに、赤道直下の国ということで毎日、１時間程度のスコールがあり、そのたびにグランドの整備を行わなければならなかったのだが、日本の選手は地元のボランティアの中高生に混じり、雨や泥で靴やユニフォームが汚れることを気にすることなく、主体的にグラウンド整備に取り組んでいた。その様子は、スポーツマンとしての成熟度の高さを示し、アジアのソフトボールをリードする国の選手として立派であったし、これまで各大学で選手を指導されてきた先生方の素晴らしい指導の一端が垣間見えたような気がした。

解団式では、武藤先生からは解散にあたって『この遠征の経験を自分だけでなく、自分のチームや地域の大学に伝えていくことが君たちの役目であり、将来役立てていくことを期待する。』という旨のお話があった。東日本大学選抜、西日本大学選抜とそれぞれチームは分かれ、しのぎを削るような戦いはしたが、全日本大学選抜という一つのまとまりを持っての１週間にわたる遠征をしたメンバー同士、最後の別れと今後の大会での再会を約束して、各自帰路についていった。

今回の遠征を総括すると、大会における試合内容はJAPANという名に恥じることのない高いレベルの好プレーの連続であった。さらに試合態度はもちろんのこと、それ以外の場での態度も日本の学生代表らしい素晴らしい姿を随所で見せてくれた。さらに選抜チームながら日を追うごとにチームとしてのまとまりも創り上げていったのは33名の学生一人一人が、ソフトボールプレーヤーとしてだけでなく、人間的な成長を見せた一つの証でもあったと思われる。この点は指導スタッフとしても非常に嬉しいことであった。今回の遠征メンバーが武藤先生が言われるように大学ソフトボール界の牽引役として今後大いに活躍してくれることを期待して遠征記としたいと思う。

なお、最後に一言付記します。今回の遠征でトレーナーとして同行した川名さん(国際武道大)は、東西両チームの選手のコンディションを維持するために、朝早くから夜遅くまで活動をしていた。さらにそれだけでなく、スコアラーやマネージャーとしての役割も果たし、その働きぶりには本当に頭が下がるほどであった。また、その川名さんの指導をしてくれた富士大学の高橋コーチは、唯一の女性スタッフとして川名さん以外の全参加選手に対しても、細やかな指導や対応をしてくださった。これが今回の遠征が無事に終了し、成果を上げることができた大きな要因だった。記して感謝申し上げます。

シンガポール遠征記

西日本大学選抜監督　逢坂秀樹（鳥取短期大学）

シンガポールへ到着したのは６月22日(水)の夕刻(日本時間－１時間)でしたが、空港を一歩外へ出ると日差しは強く高温で、何もしていなくても汗が流れ出る程の湿度の高さに驚かされました。空港へは、日本チーム専属の担当者とバスが来ており、街並みを見ながらホテルへと向かいました。車窓から見るシンガポールは、高層ビルも余り視界に入らなく、道路も整備され、緑の多い綺麗な都市づくりされた国であると感じました。

大会は、23日(木)の監督会議からスタートしました。出場チームは、オーストラリア、ブルネイ、シンガポールと東日本大学、西日本大学の５チームでした。監督会議では、投手に関する、リーガル・イルーガルのビデオによる確認と、ホーム・ビジター、バティング・フィールディングを組み合わせ順に沿って決めていきましたが、日本のそれとは異なり若干の戸惑いを感じました。

24日(金)、予選リーグ１日目、早朝より手配のバスに乗り込み試合会場へと向かいました。会場は、隣接する２会場で行われ、形態は２面共に内野がクレーで外野が芝の試合場でしたが、一歩グランドに入ると内野の土が柔らかく、大会を通して足を取られたプレーヤーも少なくなかったように思いました。

西日本大学チームは、予選リーグ第一試合がオーストラリア戦で、本大会のエースとして期待していた勢村(東海学園大学)を先発させ期待に応えていたのですが、４回終了後に肘の痛みを訴え降板させることになりました。試合は、相手の四球やミスに乗じ加点し６回コールドゲームとなりましたが、以後の試合を梶岡(天理大学)、長谷川(中京大学)そして南(環太平洋大学)の３人で回さなければならなくなり、特に梶岡と長谷川には無理を強いることになりました。

第二試合に対戦したブルネイは、バランスのとれた纏まりのあるチームで投手力も安定し、打ちあぐんだ試合でしたが、ワンチャンスをものにし勝利することができました。

予選リーグ二日目、三試合目はシンガポールでした。シンガポール・チームのヘッドコーチは日本でのプレー経験があってか、日本式？に近い形のチームで、基本に忠実なチームでしたが、外野への打球は安打された１本だけで、日本の投手力が勝った試合内容でした。四試合目は、東日本大学戦でした。試合内容は、前半のチャンスに適時打で４点をリードする理想的な展開でしたが、後半球威が落ち、ボールが高くなってきたところを痛打され、同点で試合が終了しました。(審判団のミスで４－３で西軍の勝ちと勘違いし、ゲームセットにしたのではなかったかと思われます。)

三日目は、予選リーグの結果からのページシステムに入り、予選リーグ１位と２位の対戦となりました。ゲームは、両軍投手の投げ合いで得点を挙げることができず、タイブレーカーに入り確実に得点を挙げることのできた東日本大学の勝利となりました。この結果を受け、西日本大学はシンガポール(４位)との対戦で勝利したブルネイ(３位)と戦うことになりました。ブルネイとのゲームは、予選リーグと同様に苦戦を強いられ、投手力で勝った西日本大学が３－０で勝利し、優勝を掛けて三度東日本大学と戦うことになりました。試合内容は、第一戦と同様に西日本大学が１回と５回に佐野(神戸親和女子大)と結城(東海学園大)の適時打により２点を先行する形となりましたが、６回に東日本大学の打力が爆発して一挙に５失点し、準優勝と成りました。

大会は、全日高温多湿の中で開催され、中には食事が合わなく、カップめんでお腹を満たす者もおり、選手は身も心も疲れ果て、特に投手の２人と全試合フル出場した小泉(東海学院大)、佐野には、大変過酷な大会であったと思われます。しかし、このような環境下であっても、毎日起こるスコールにも全選手快くグラウンド整備に協力し、試合に臨む姿勢には頭が下がる思いで一杯でした。

結果は準優勝でしたが、共通の目的を持った仲間たちと戦ったこの大会は、一生の財産として今後も彼女たちの中で生かされていくことだと思いました。

また、選手には短い期間でしたが他国の文化に触れ、試合の合間には他国の選手と談笑したり、応援に来てくれたジュニアスクールの子供たちの求めるサインにも快く対応し、ソフトボールを通して多くのことを学んだことと思います。

西日本大学の主将を務めてくれた逢坂(大阪国際大学)は、短期間で個性の集団を良く纏め、また加来(大阪国際大学)は副主将として逢坂を補佐し、チームのムードメーカーとしての役割も果たしてくれました。楽しく試合できたことが、選手を勇気づけ、疲れを忘れさせてくれたことと思います。お疲れ様でした。

おわりに、宮尾先生(愛媛女子短大)には守備者の決定、打順の編成など大変世話になりました。特に短期間で選手個々の適性を理解し、西日本大学のベストの形でメンバー編成でき戦えたことに感謝いたします。また、立山先生(国際武道大学)は通訳として同行いただきましたが、毎日私たち以上に格闘され、大変ご苦労をおかけいたしました。先生のお陰で試合に集中することができました。感謝申し上げます。

以上、語りつくしませんが、大会の報告とさせていただきます。

シンガポール遠征に行って

東日本大学代表主将　林　　優　貴（日本体育大学４年）

一週間、東日本大学の代表としてシンガポールで試合をして来ました。国際大会で結果を出すことはもちろんですが、ソフトボールを通じて地元シンガポールの選手との国際交流も目的の一つでした。

私は外国で試合をすることは今回が初めてで、東日本のキャプテンを任されて楽しみもありましたが不安もありました。しかし、全員で協力しあい、東日本も西日本も一つになって戦うことができました。試合をするうえで特に日本と違ったのが、急に大雨が降るということです。現地の方々はスコールと呼んでいました。スコールは日常茶飯事で、試合中に空が曇ってきたら大きいシートを敷き、雨が止んだら水を取って試合を開始するということがほぼ毎日あった気がします。みんなで水を取っている時など、現地の方とコミュニケーションと取ったりしていて、何をするにも有意義に過ごせたと思います。

試合をする上で大変だったのが食生活です。普段食べているものとは違い、口に合わない選手もたくさんいました。それでも食べて試合をしていかないといけないということもとても良い経験になりました。

試合が終わった後の観光ではリフレッシュができ、とても楽しめたので疲れも一気に取れました。シンガポールの観光地であるマーライオンなど、とても感動的でした。この一週間は楽しくてとても濃い一週間になりました。選手一人ひとりに大きな財産になったと思います。またこのような機会があれば参加していきたいです。

貴重な経験で学んだこと

西日本大学代表主将　逢 坂 亜 依（大阪国際大学４年）

今回、このような経験をさせて頂いて一番強く感じたことは、コミュニケーションの大切さです。

私は今回のシンガポール遠征で初めて異国の地へ遠征し、海外のチームと試合をしました。チームメイトとも出発の前日までは話したことのない人もいて、何もかもが未知数のことばかりで不安だらけの出発でした。しかし、一緒に練習や食事をすることにより、コミュニケーションを取り相手の考え方などを知ることができ自分でも分からない間に仲良くなりました。今回は、東日本と西日本と２チームに分かれての参加でしたので、より多くの人と交流を持つこともできました。

また、海外のチームと試合することにより、その国のソフトボールを肌で感じることができてとても良い経験になりました。最初は怖そうに見えた相手チームの選手は、とても勉強熱心で一生懸命に日本の技術を学ぼうとしていました。ソフトボール以外のことでもジェスチャーを交えながら会話をして、シンガポールはもちろんのこと参加国の文化などを知ることができました。これらのことは、言葉はあまり通じなくても、いろいろなことを学びたい・知りたいという気持ちから、お互いにコミュニケーションを取ったことによりできたのだと思いました。

今回このような遠征に参加させて頂き、多くの関係者の方にとても感謝しています。また、現地の方々にもグラウンド整備や通訳など様々なことをお手伝いして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。今回経験させて頂いた貴重な経験をこれからの人生に生かしていきたいと思います。

本大会で３試合に登板し２勝を挙げてウイニング投手となった城西大学の野村美和子さんは、2011年12月21日にご逝去されました。転身を目指した女子プロレスでの練習中に倒れてのことでした。将来ある人材の早過ぎる死に対し衷心よりお悔やみ申し上げます。合掌

大嶋　匠君（早稲田大学）の活躍に期待する

大嶋君は昨年のドラフトで北海道日本ハムファイターズから７位指名を受け、推定契約金800万円・年俸500万円で入団が決まりました。ソフトボール界からのプロ野球選手は初めてのことであり、大いに活躍が期待されます。

ちなみに、大嶋君のインカレにおける全成績は次のとおりでした。

回	打席数	打数	安打	得点	打点	犠牲打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	守備	守備率
43	5	4	・	・	・	・	1	・	1	・	・	1	・	・	・	0.000	DP	・
44	12	11	6	4	5	・	・	1	2	・	1	7	2	1	1	0.545	DP	・
45	10	9	2	3	・	・	1	・	1	・	1	3	・	・	2	0.222	2	1.000
46	4	3	2	1	1	・	・	1	・	・	2	3	・	・	・	0.667	2	1.000
計	31	27	10	8	6	0	2	2	4	0	4	14	2	1	3	0.370	－	1.000

いずれの大会も強豪チームに行く手を阻まれ、インカレでは２年次の３位が最高成績で、昨年は１回戦敗退という屈辱を味あわされています。本塁打も２本だけでした。それだけに、この悔しさをプロ野球で晴らしてもらいたいものです。卒業論文の題目は「野球とソフトボールの打撃の違い」だそうです。この成果と吉村監督の言う「身体能力の高さ」があれば、彼自身が言っている「男子ソフトボールはこんなにすごいんだ!!」ということをきっと実証してくれるでしょう。そのためには、ソフトボールと野球の本質的な違いは「スピード」にあるので、遅い野球の「間」に慣れられるかがポイントかな。（記録席）

【研究ノート】　捕手の指導について

西村 真由子（大阪国際大学女子ソフトボール部コーチ）・久保田 豊司（同監督）

ソフトボール競技は、「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった基本動作から構成されている。競技力向上には、それらの動作が合目的に行われることに他の競技種目と比較して、ソフトボール競技の特徴があるといえる。競技の特徴の一つとして、投手力が攻撃力・守備力等に比べ試合の勝敗を左右するともいわれている。それゆえ、市販されているソフトボールの指導書などは、ピッチングを中心に、次いでバッティング、ポジション毎の守備、走塁といった構成になっており、捕手の指導については重要なポジションの割にはあまり解説がなされていない。しかし、試合になると、投手以上に守備において監督・コーチから指示が求められるのが捕手であり、講習会等においても、指導者から捕手の指導法と守備における考え方についての質問がよくされる。こういった現状から、ここでは捕手の基本的な指導法と守備における考え方について、小学生からトップレベルの選手まで幅広い年代層に対応できる指導について整理をしてみる。

捕手の役割

捕手の重要な役割は、チームコントロールとゲームコントロールである。実際の試合においては「失点を１点でも減らす」、レベルが高くなると「失点を限りなく０点に近づける」ことであり、いかに出塁させないか、無駄な進塁を与えないか、無駄な点数を与えないかが勝つためのポイントとなる。その役割を果たすために、捕手は基本的な技術の完成度を高め試合における考え方を身につける必要がある。

捕手の印象

小・中学生からみた捕手は、「ボールを捕るのが怖い、ボールが当たると痛い」「ただ投手のボールを捕っているだけで面白くない」といったイメージがあるようだ。また、他のポジションよりよく注意されるので率先してあまりやりたがらない。小・中学生の頃は捕手のマイナス面ばかり目立つが、経験を積むと投手をリードして試合が組みたてられる、各ポジションに指示を出してチームが一つになって守っている実感が得られるなど、捕手の面白さを理解できる。小学生が持つ怖さや痛さといった恐怖心は、捕手の基本的技術の習得で解消できると考えられるので、この時期は、基礎・基本の指導が重要である。

捕手の基本的技術

捕手の基本的技術には、「構え」「捕球」「ワンバウンド処理」「スローイング」「打球処理」「タッチプレー」等がある。小学生の段階は、ソフトボールの導入段階として、特に「構え」「捕球」「ワンバウンド処理」が出来れば十分である。試合においては、スローイングは気になるところであるが、捕球ができないとスローイングまでの動作が難しくなり、小学生はしっかりと捕る練習が重要である。捕球ができるようになると、自然にスローイング技術が身についていくのである。そのスローイング技術の一つに盗塁阻止がある。盗塁阻止の重要な要素は、肩＋キャッチング＋フットワーク＋送球のコントロールがあげられ、『強く・素早く・正確に』の３つがポイントとなる。強くというのは、速いボールが投げられるかであり、肩が強いから、弱いからで判断されているが、正しいキャッチボールができるようになれば速いボールを投げることは可能である。素早くというのは、捕ってから投げるまでの握り替えとフットワークの早さである。肩が強くても盗塁される捕手は、問題点として捕球からスローイングまでの動作に余分な動きがある。正確にというのは、いかにタッチボールが投げられるかである。捕手の

スローイングに正確さがないと、野手が捕球してからタッチするまでに時間を要しセーフとなる場合が多いからである。

写真①

写真②

上の写真①・②は、基本的な捕手の構えである。ミット側の足を半足くらい前に出す捕手もいるが、その構えはミット側へのワンバウンドは処理しやすいが、ミットの反対側のワンバウンドは、そのまま膝をつくと１塁線の方にボールが転がるため、ワンバウンドを処理するには右肩を前に出して膝をつくことが必要である。小・中学生の投手は、狙った所へいく確率が低いのでどんなボールがきても対応できる基本の構えが大切である。

写真③・③−１、④・④−１、⑤はあまり推薦できない構えである。③は、足幅を狭くして構えている。高低左右と逆球の捕球や、セフティーバントの処理に対応ができない。また、膝が邪魔をしてミットの操作が上手くできず、キャッチングに

写真③

写真③－１

写真④

写真④－１

写真⑤

支障をきたす。④は、正面からみると構えが安定して見えるが、高低の変化に弱い構えである。③・④の構えに共通しているのが、お尻が下がっていることである。お尻が下がっている構えは、低めの球に対して上からミットで押さえながら捕球することになり、ストライクの球でもボールと判定されることがある。低目の球は、ボールの軌道の下から捕りに行くことが基本である。⑤は、塁上にランナーがいる時によく見かける構えであり、これは捕球後のスローイングを考えた構えのため、投球がサイン通りであれば問題はないが、少しでも投球が逸れると身体の外側で捕球することになり、安定した捕球とその後の素早いスローイングは望めない。

次に捕球であるが、ミットは野手の基本と同じで円を描くように操作する(写真⑥)。捕球のポイントは、投球されたボールに対して、捕球位置でミットを動かさずしっかりと止めることが重要である。ストライクゾーンの際どい球を、ストライクに見せようとしてミットを動かす捕手がいるが、

写真⑥

写真⑥－１

これは審判から見れば逆にボールだからミットを動かしていると判断される可能性があり悪い印象を与える。また、捕球はしっかりミットの芯で捕ることが大切であり、ミットの芯で捕球することにより握り替えが素早く行え、その後のスローイング動作がスムーズに行える。写真⑥-1の構えだが、ミットが立っていなく横になっている。これだと低めに変化する投球に対し、上からミットで押さえ脇を開けた状態で捕球することになり、ミットの親指の所にボールが当たりパスボールをすることがある。

写真⑦-１～３は構えからワンバウンド処理をする一連の流れである。投球がワンバウンドになった時は、⑦-１ の構えから両足を後ろに素早く引き構えたときの膝の真下に膝をつくこと、目線は地面にボールがついたところを見る(⑦-２)、そうすることにより、自然に前傾姿勢になり、球がホームベース付近に止まるのである(⑦-３)。⑦-２の姿勢で右手は横にあるが、右腕でも壁を作り、ボールを止めた後に素早くボールを握り次のプレーに備えるためである。小・中学生は、ケガの防止から右手がミットの後ろでも良いと思われる。

写真⑦－１

写真⑦－２

写真⑦－３

試合での捕手

基本的な技術を獲得し、試合に勝つための捕手の役割は、試合までに、１．情報を集める（各打者の長所・短所・性格(積極的かどうか)について、相手監督の作戦の傾向、各打者の打撃の特徴等、２．マークする打者を決める（チームの中心打者、

調子の良い打者、投手の苦手打者等）、３．グラウンド状況（風、太陽の向き、グラウンドの広さ、フェンス、バックネットの位置）、グラウンドの状態（硬い、やわらかい、水を含んでいるか等）、４．自チーム投手の調子、調子が崩れる時の兆候等、５．投手と試合のシミュレーションをしておく等である。

次に、最も悩ます配球であるが、配球の基本は、①味方投手中心に組み立てる、②相手打者中心に組み立てる、③状況を中心として組み立てる、この①～③を打者や試合場面において臨機応変に使い分けることが重要である。そのためには、投手の力量と特徴、投手に対する相手打者の力量、投手が自信を持っている球種、ブルペンでの状態等を把握する必要がある。そうすれば、勝負場面での投手のコントロールミスや、捕手の配球の選択ミスが少なくなると考えられる。

また、試合においては、打者をアウトにするために次のようなことも考える必要がある。勝負球を最初に決めてから、カウントを取る配球はどうするのか、決め球の前に何を意識させるのか、逆算の配球である。実際の場面では、ランナーが出塁した際にその状況から、ゴロを打たせる、追い込んでから三振を狙う、フライを打たせる等である。

さらに、試合における配球は、序盤・中盤・終盤、得点差などで常に変化していき、その状況に対応しなければ試合展開は予測できない。競技レベルが高くなると、投手力はもちろんのこと、試合の状況を把握し、各ポジションに指示を出す捕手の力量で試合の勝敗が左右される。すなわち、『投手＋捕手のバッテリーの力』が勝敗を分けるのである。相手打者の力量や弱点を探ることも大切であるが、最も重要なことは、自チーム投手の長所と短所を知ることである。また、バッテリーの力が向上することにより、内野手・外野手に配球の意思を伝えることができ投手を含む守備力が高くなると考えられる。

捕手は、投手ほどに目立つポジションではないが、基本的技術と考え方が理解できれば『難しいポジション』ではなく『面白いポジション』になるのである。

【研究レポート】

バッティングにおける「体を開く『くせ』」を持ったプレイヤーへの指導について

森田　啓之（兵庫教育大学）

昨年、「バッティングにおける“体を開く『くせ』”を持ったプレイヤーへの指導について」という問題提起をした。指導法として公開できるレベルではないが、今回は「体が開いているとされた運動者自身に内省（どのような意識でバッティングしているのか）を試みた」なかで、分かってきたことを述べてみたい。

体を開いて打っているプレイヤーに聞き取りをした結果、「しっかりミートする」と「強く打つ」といった意味の言葉が多く見られた。「体を開きすぎる」動作とこのような認識はどのように関連しているのだろうか。指導者による分析等を踏まえて、現在、次のように考えている。前者の場合、運動者はバットにボールを当てようと、両目でできるだけ早く認知できる体勢にもっていこうとして腰が早い段階で投手側に正対しているのではないか。また、後者については、ボールに強く衝撃を与えるために大きな力を発揮する「腰」を積極的に使わねばと考えて、全体が一体となった動きではなく、「下半身（腰）が先に動いて、その後に上半身（腕）が遅れて出てくる」状態になってしまったと考えた。指導書にも頻出する「腰の回転」という言葉が意味するところをどのように運動者に実感として伝えるかが課題であること等が見えてきた。

文部科学大臣杯第46回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成23年８月26日(金)～８月29日(月)
会場：山口県宇部市／東部体育広場

大会概要

中京学院大学(岐阜県)　創部10年目の初優勝!!

大会記録長：下　村　征　二

標記大会は10月の第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」を間近に控えた「緑と花と彫刻のまち」山口県宇部市において全国から予選を勝ち抜いた精鋭32チームが参加し「市制施行90周年記念大会」と銘打って開催された。

会場となる宇部市東部体育広場は、今回の山口国体では少年男子・少年女子の会場となっているが、平成15年度に行われた第38回大会でも会場として使用されたこともあり、監督会議の中でも前回大会での思い出やエピソードと今回の抱負を交えた紹介が数多く聞かれた。大会は厳しい残暑の中、大学日本一を争う熱い戦いが繰り広げられ、昨年の覇者で連覇を狙う環太平洋大学が二回戦で敗れる大波乱もあったことからどのチームが勝ってもおかしくない大混戦となった。それを象徴するかのように打撃戦が多く、中には７点差を逆転した試合や終盤までもつれた試合も多数あり最後の最後まで目がはなせなかった。このような打高投低の中、中京大学・望月孝典投手と中京学院大学・片岡涼投手の防御率０点代は特筆すべき点であった。また、３月の東日本大震災を乗り越え今大会に出場した仙台大学の敗れはしたが最後まであきらめないプレーはとても印象に残った。

ベスト４には、準々決勝で日本体育大学に競り勝ち勢いに乗る中京学院大学、初戦で国士舘大学をタイブレーカーの末破り昨年に引き続き勝ち上がってきた中京大学、第41回大会以来５年ぶりのベスト４の神戸学院大学、今大会打撃好調で２回戦の関西大学戦を逆転サヨナラ勝ちし７年ぶりのベスト４入りした立命館大学の４チームが残り、決勝は中京学院大学が２本のホームラン等で立命館大学を下し嬉しい初優勝を飾り無事全日程を終了した。

大会講評

昨年に続き今年もベスト４を西日本勢が独占

広報記録部長：水　谷　　博

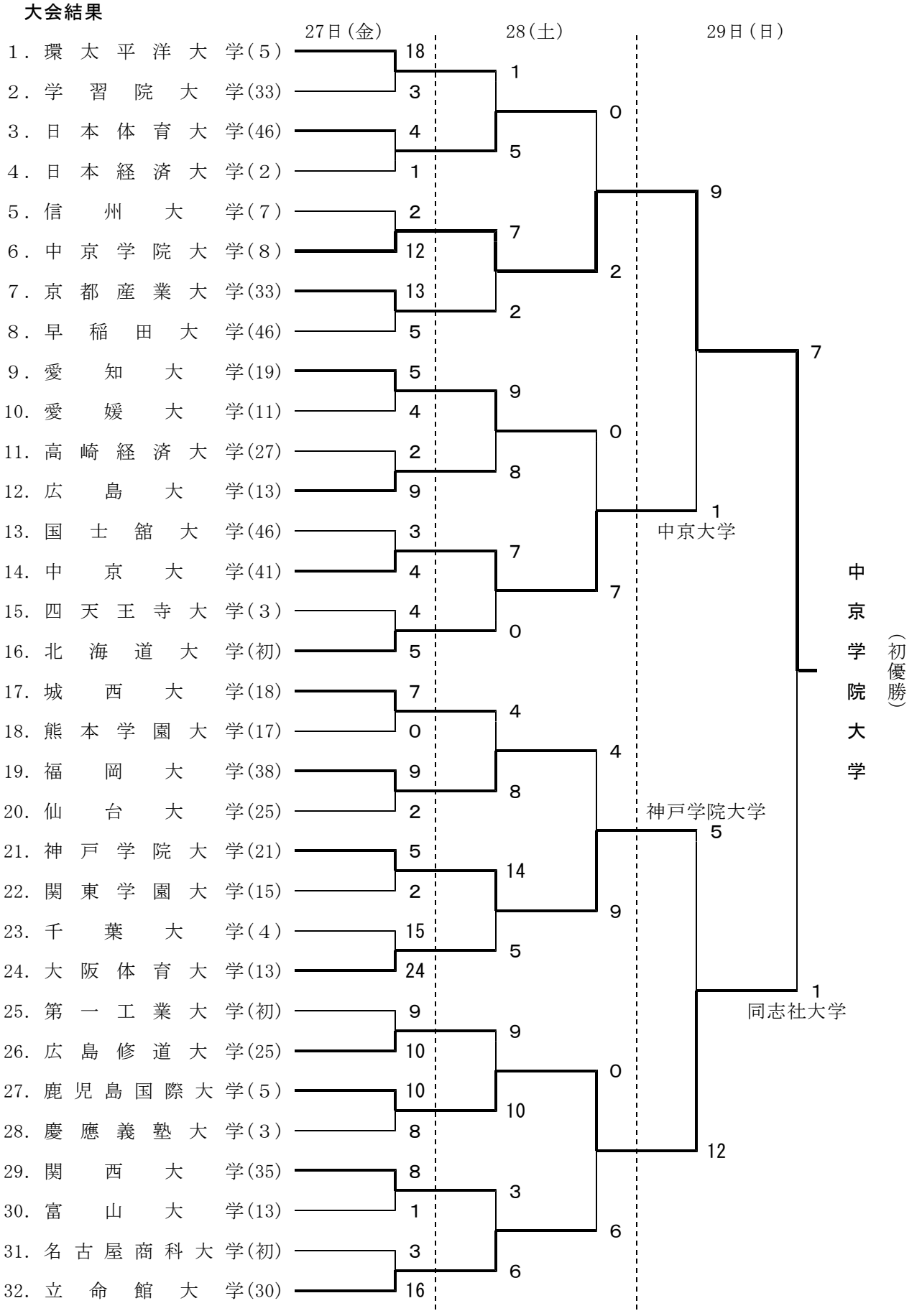
山口県宇部市は８年ぶり６回目の開催であり、最もお世話になっている会場である。また、本年は国体開催会場ともなっており、大会は万全の体制で行われた。

天候に恵まれて炎天下の大会となったが、そのクライマックスはすでに初日から始まった。東日本の出場校13大学中、１回戦を突破できた（東日本の大学同士の対戦はなし。）のは３校のみ、古豪早稲田大学・国士舘大学も初戦で涙をのんだ。ベスト８に至っては、日本体育大学以外は九州（福岡大学・鹿児島国際大学）と近畿（立命館大学・神戸学院大学）が各２、東海（中京学院大学・中京大学・愛知大学）が３で完全な西高東低となった。その日本体育大学も２回戦で西日本優勝の環太平洋大学を下して意地を見せたたものの、中京学院片岡の前に打線が沈黙して最終日に駒を進められなかった。

隣り合う２球場で同時に開催された準決勝戦は、中京学院大学×中京大学、立命館大学×神戸学院大学の東海・近畿ダービーとなった。ともに打線が爆発した立命館大学と中京学院大学が決勝戦に進出し、大学日本一は古豪・新鋭対決で争われた。結果、強豪校がひしめくブロックを勝ち抜けてきた中京学院大学は、決勝戦でもその勢いを遺憾なく発揮して初の栄冠を手にした。創部10年目、出場８回目にしての快挙であった。

最後に、炎天下にもかかわらず、大会運営にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

大会結果



※（ ）内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第１日（８月27日）１回戦

環太平洋大学　０１３104　　：18
学 習 院 大 学　００２０１　　：３

［環］○嶋田智希、今谷圭吾－尾﨑 葵、小幡瑛司
(本)尾﨑 葵、能瀬元樹、松藤創一、大塚祐輔
(三)右城太基　(二)溜谷隆成、木谷謙吾

［学］●照山篤融、加藤潤一、照山篤融－北河拓也
(本)保積佑樹、黒澤 淳、(二)保積佑樹

【評】環太平洋大は２回に先制すると、２点差となった４回に一挙10点で突き放し大勝した。学習院大は２本の本塁打で反撃するも投手陣が打ち込まれ初戦突破はならなかった。

日本体育大学　１０２０１００：４
日本経済大学　０００００１０：１

［体］○立石壮平－中西康太
(本)加藤卓輝

［経］●米村建毅－瀬戸裕章

【評】日本体育大は初回２番加藤の本塁打で先制、その後も着実に加点し日本経済大に勝利した。日本経済大も走者を出すもなかなか得点できず、６回に１点を還すも反撃もここまでだった。

信 州 大 学　００００１１　　：２
中京学院大学　２２６２ｘ　　：12

［信］●鈴木拓也、出口真也、小谷竜平－小松快甫、中田 翼、小松快甫

［中］○片岡 涼、大森 優、朝井康太－三浦 亮、園田智幸
(本)川原 光、吉田和史、池見郁哉、
(二)江崎 良、池見郁哉

【評】中京学院大は初回から３イニング連続の本塁打を含む５長打で信州大の３投手を圧倒した。信州大は４回５回と１点ずつ得点するも反撃が遅かった。

京都産業大学　１３０２０４３：13
早 稲 田 大 学　００１０３０１：５

［京］○内海裕也－奥村雄太
(本)植田貴也、内海 裕也②、
(二)植田貴也、伊藤嵩志

［早］●古川恵士、西村直晟、増井和樹－大嶋　匠
(二)平野修太

【評】京都産業大は序盤から打線が活発、早稲田大の３投手から大量13点を取り快勝した。早稲田大も中盤に２点差まで詰め寄るも追いつくまでには至らなかった。

愛媛大学　１０１００２０：４
愛知大学　１００３１０ｘ：５

［媛］●仲田知裕－板本成弘
(三)平田尊亮　(二)春日翔平

［知］○林 俊輔－三宅正人
(三)宮崎 諒、松瀬玄大

【評】愛知大は１点をリードされた４回、６番松瀬の三塁打で逆転するとその後の相手の反撃を振り切り接戦を制した。愛媛大は最終回も走者を二塁まで進めるが後１本が出なかった。

高崎経済大学　０１１００　　：２
広 島 大 学　２６０１ｘ　　：９

［高］●滝本 涼、熊谷英紀－金井塚和希
(二)滝本 涼

［広］○三王裕作－西本貫時
(三)久保光野②、西本貫時馬

【評】広島大は初回に先制すると、２回には６番久保の走者一掃の三塁打等で大量６点と序盤で勝負を決めた。高崎経済大は初回守備の乱れ等で失点したことで自分たちのペースを最後まで取り戻せなかった。

中 京 大 学　００１１００００２：４
国士舘大学　００２０００００１：３

［中］○深津悠平－和田隆太
(本)嶋田稔貴　(二)山田将也

［国］●島田将季－井上朋彦
(二)勝沼雄斗

【評】お互い相譲らず試合はタイブレーカーに入り迎えた８回、中京大は２点を取り粘る国士舘大を振り切った。国士舘大も一打同点のチャンスを作るがあと１本がでなかった。

北海道大学　０１２０１０１：５
四天王寺大学　０２０００２０：４
［北］○西方康二－大内健太郎
　　(本)鈴木健太郎　(二)田中智大
［四］●中松竜佑－斉藤雄介
　　(三)岩崎淳史　(二)長嶋建太
【評】北海道大は同点で迎えた７回、３番・鈴木のホームランで勝ち越しそのまま逃げ切った。四天王寺大は１度は勝ち越し６回にも同点に追いつき粘りを見せるもここで力尽きた。

熊本学園大学　００００００　：０
城西大学　３１１１１x　：７
［熊］●谷川智紀－栗生裕介
　　(二)角山良太
［城］○能登部貴春－伊藤尭寛
　　(本)粋田洋明　(二)鳥山 和也
【評】城西大は初回４番・５番の連続タイムリーで３点を先制すると、その後も着実に得点を積み重ね勝利した。熊本学園大はわずか２安打ではどうすることもできなかった。

福岡大学　２４０００３　：９
仙台大学　００１００１　：２
［福］小野武人、○橋本友也－奥田尚紀
　　(本)山路 卓、田中数馬　(三)戸川天伍
　　(二)戸川天伍、橋本友也
［仙］●八重樫祐紀－須藤智洋
　　(本)町 翔平、(二)鈴木彬祥
【評】福岡大は序盤から長打攻勢で得点を奪うと、このリードを２投手の継投で相手の反撃を２点に抑え快勝した。仙台大も最後まであきらめず反撃するが序盤の失点が響いた。

神戸学院大学　０００４０１：５
関東学園大学　００００１１０：２
［神］○片岡正貴－赤木悠生
　　(二)赤木 悠生
［関］●笠原寛史－小林光司
　　(本)星野洸毅
【評】両チーム無得点で迎えた５回、神戸学院大は打者一巡で４点を挙げると、７回にも１点を追加し相手を振り切った。関東学園大も徐々に追い上げるも追いつくまでには至らなかった。

大阪体育大学　４７００３４６：24
千葉大学　０１２６３２１：15
［大］鯖屋大輔、○久代章博－田中一志
　　(本)武村真司、大曲佳祐　(三)田中一志
　　(二)萩野拓人②、山内康平
［千］●阿部 海、水野良介、阿部 海－中山 慎
　　(本)三澤翔太、高屋駿介　(三)伊東健太
　　(二)川島瑞紀、長野寛輝、高屋駿介、三澤翔太
【評】最長試合時間・最多得点試合を更新した両チーム激しい点の取り合いとなった一戦は、大阪体育大が勝利を手にした。千葉大は中盤追い上げるが終盤に突き放され追いつくことができなかった。

第一工業大学　０１００６１１：９
広島修道大学　４１２１１１ｘ：10
［第］●下田竜之介、瀬川雄太－金良宗平
　　(本)金良宗平、長友竜太
　　(二)金良宗平、下田竜之介、田中大也
［広］○酒井悠希、兵間大吾－鳥谷 賢
　　(二)宮崎淳一
【評】広島修道大は初回から打線が好調、毎回安打・毎回得点で壮絶な打撃戦を制した。第一工業大は最大７点差を１点差まで追い上げるも、後一歩のところで力尽きた。

鹿児島国際大学　０１３０３０３：10
慶應義塾大学　３０５００００：８
［鹿］○二反田義征－厚地了実
　　(本)安楽昭人、川畑雄太郎
［慶］●村山 暢－眞鍋将徳
　　(二)村角 司
【評】鹿児島国際大は序盤大量リードを奪われるが徐々に反撃し迎えた７回、１番池田のタイムリーで逆転しそのまま逃げ切った。慶應義塾大は４点差を守りきれず悔しい敗戦となった。

富山大学　０００００１０　：１
関西大学　２０２１０3x　：８

［富］●戸谷俊昭､高木基弘－田口寛道
　　(二)高木基弘
［関］○藤井優人－瀬戸 護
　　(本)鈴木浩平､川口拓馬

【評】関西大学は初回に２点を先制すると、その後も効果的に得点し富山大に快勝した。富山大は５回に６番高木の二塁打で１点を取るのが精一杯であった。

名古屋商科大学　３００００　：３
立 命 館 大 学　10１３２ｘ　：16

［名］●泉 昌宏－菊池直樹
　　(本)菊池直樹
［立］○小川晃平､古賀元気－藤川拓郎､高橋宏征
　　(本)細川好男､浦将太郎
　　(三)浦将太郎､伊藤 剛
　　(二)浦 将太郎､黒川玲嗣､林 卓磨

【評】立命館大は初回に打者13人で10点、その後も着実に加点し大勝した。名古屋商科大は３点を先制するもその後は、立命館の２人の投手に抑え込まれた。

▼第２日（８月28日）２回戦

日本体育大学　１１１０１１０：５
環太平洋大学　００００１００：１

［日］○立石壮平－中西康太
　　(本)山崎正晴､深谷祐太　(二)山崎正晴
［環］●嶋田智希－尾﨑 葵
　　(本)右城太基

【評】今大会注目の一戦は序盤から着実に得点を積み重ねた日本体育大が環太平洋大に快勝した。環太平洋大は走者は出すものの得点は５回の８番右城の本塁打のみで連覇を断たれた。

京都産業大学　０１０００１０：２
中京学院大学　３００１３０ｘ：７

［京］●内海裕也－奥村雄太
［中］朝井康太､○片岡 涼－三浦 亮
　　(本)山下 治､(三)江崎 良､(二)山下 治②

【評】中京学院大は初回に５番山下の３点本塁打で先制、その後は朝井・片岡の継投で逃げ切った。京都産業大は２回と６回に１点ずつ得点するのが精一杯であった。

広島大学　１０４０００３：８
愛知大学　３０１０２０3x：９

［広］●三王裕作－西本貫時
　　(本)三王裕作､西本貫時､(三)久保有輝
［愛］○林 俊輔－三宅正人
　　(本)三宅正人､鈴木達哉､林 俊輔
　　(二)鈴木達哉②

【評】愛知大は７回に２点勝ち越しを許しその裏の攻撃も二死一二塁、ここで８番林が逆転本塁打でサヨナラ勝ち。広島大も粘り強い攻めで勝ち越すも後一歩の所で勝利できなかった。

北海道大学　０００００　：０
中 京 大 学　０１５０1x　：７

［北］●西方康二－大内健太郎
　　(二)金田祥宜
［中］○望月孝典－由久保健
　　(本)根津啓太

【評】中京大は２回に先制すると、３回には８番根津の３点本塁打等で５点、５回にも得点し北海道大を退けた。北海道大は昨日の勝利の勢いを持ち込めずわずか２安打に抑えられ敗退した。

福岡大学　１３１１０２０：８
城西大学　００００２１１：４

［福］○小野武人､梶原大志､橋本友也－奥田尚紀
　　(本)戸川天伍､権堂 航
　　(三)戸川天伍､小野武人
［城］●能登部貴春､山田大樹－伊藤尭寛
　　(三)片野絢太

【評】福岡大は初回に先制するとその後も小刻みに加点し城西大に快勝した。城西大は終盤追い上げをみせるが序盤の失点を取り戻すことができなかった。

神戸学院大学　８１１０４　　：14
大阪体育大学　００２０３　　：５

［神］○川島正敬、河原健太、芳本 智－赤木悠生、丸山大地
(二)赤木悠生②
［大］●鯖屋大輔、久代章博－田中一志哲
(本)萩野拓人

【評】神戸学院大は初回、打者14人で８点を先取するとその後も着実に点数を重ね５回までに14点を取り大阪体育大を圧倒した。大阪体育大は中盤反撃するも初回の大量失点が痛かった。

広島修道大学　０７１０００１：９
鹿児島国際大学　１０４１００4x：10

［広］酒井悠希、●兵間大吾－鳥谷 賢
(二)宮崎淳一
［鹿］○二反田義征－厚地了実
(本)峰山晃輔　(二)川畑雄太郎

【評】鹿児島国際大は７回二死から四球や相手ミスで１点を還し尚も走者一二塁、ここで３番峰山の打球はセンターの頭上を越える逆転ホームランで劇的な勝利を収めた。広島修道大は勝利まで後一人に迫りながらも勝利を掴むことができなかった。

関西大学　００００３００：３
立命館大学　００００２04x：６

［関］●藤井優人－瀬戸 護
(本)鈴木浩平
［立］○小川晃平－藤川拓郎
(本)越智洋平、藤川拓郎　(二)田中雄大

【評】立命館大は３点を追う５回、８番越智の２点本塁打で追い上げると、土壇場の７回に同点とした後、４番藤川の３点本塁打でサヨナラ勝ちを収めた。関西大は７回の一死満塁のチャンスを生かせなかったことが響き悔しい敗戦となった。

▼第２日（８月28日）準々決勝戦

日本体育大学　０００００００：０
中京学院大学　００１００１ｘ：２

［日］●立石壮平－中西康太
［中］○片岡 涼－三浦 亮
(二)川原 光

【評】中京学院大は３回２番吉田のタイムリーで先制、６回には４番川原の二塁打で待望の追加点を奪うと先発片岡が粘り強い投球で日本体育大学を完封した。日本体育大はチャンスは作るが相手の堅い守備の前に得点を奪えなかった。

愛知大学　００００００　：０
中京大学　１１００３2x　：７

［愛］●林 俊輔－三宅正人
［中］○望月孝典－由久保健
(二)栗本拓哉

【評】中京大は１回に１番山田の本塁打で先制すると６回までに６本の長打で相手を圧倒した。愛知大も６回に走者を三塁まで進めるが後続が打ち取られ得点することができなかった。

神戸学院大学　０４０２２００：８
福岡大学　０００３０１０：４

［神］○片岡正貴－赤木悠生
(三)河添幹也、野上涼平、和田亮磨
［福］●小野武人、橋本友也－奥田尚紀
(本)権堂　航、小野 武人
(二)小野 武人、西村 貴之

【評】神戸学院大は２本の三塁打で一挙４点を先取するとその後も効果的に追加点を取り福岡大を振り切った。福岡大も２本の本塁打で反撃するが追いつく事ができなかった。

立命館大学　１００２０３０：６
鹿児島国際大学　０００００００：０

［立］○古賀元気－藤川拓郎
(本)乗本真視②　(二)高橋宏征
［鹿］●二反田義征－厚地了実

【評】１点をリードした立命館大は８番乗本の２打席連続本塁打で鹿児島国際大を突き放し快勝した。鹿児島国際大は１回のチャンスを逃すと活発な打線が沈黙し完封負けを喫した。

▼第３日（８月29日）準決勝戦

中京学院大学　２２３１１　：９
中 京 大 学　０００１０　：１

［学］○片岡 涼－三浦 亮
(本)川原 光　(二)芝 大紀
［中］●深津悠平､望月孝典－由久保健､和田隆太
【評】中京学院大学は初回先頭の一番・池見が相手守備の乱れで出塁、その後二死二塁から四番・川原のホームランで２点を先制すると、２回に２点、３回にも相手先発・深津を攻め３点と序盤から大量リードを奪うと４回には３番・芝のホームラン、５回にも芝のタイムリーで１点を追加、毎回得点で中京大学を圧倒した。中京大学は３回まで相手先発・片岡の前に完璧に抑えられていたが４回にこの回先頭の一番・山田が試合初めて走者に出ると、二番・石原のヒットで無死一・三塁とチャンスを拡げ三番・小池のタイムリーで１点を還し意地を見せるが得点はこの１点だけだった。

神戸学院大学　０３２００　：５
立 命 館 大 学　１１３７ｘ　：12

［神］●片岡正貴､川島正敬－赤木悠生
(三)西角和馬
［立］○小川晃平－藤川拓郎
(本)林 卓磨､越智洋平､乗本真視､伊藤 剛、藤川拓郎　(三)浦 将太郎　(二)細川好男
【評】関西勢同士の対戦となった一戦は１回裏に立命館大学の一番・林（卓）が先頭打者ホームランで先制するが神戸学院大学はすぐに反撃、直後の２回表に六番・河添、八番・河原のタイムリーで３点を取り逆転、１点差に追い上げられた３回にも４番・西角の三塁打で２点を追加し再び３点差とした。追う立命館大学も３回裏に二死一・二塁から５番・越智の３ランホームランで同点に追いつき３回を終了して序盤は両者一歩も引かない壮絶な打撃戦となった。勢いに乗る立命館大学は４回一死後に８番・乗本のホームランで勝ち越すとその後２番・伊藤（剛）、４番・藤川、５番・越智とこの回４本のホームランを含む８連打で７得点と一気に突き放し９年ぶりの決勝行きを決めた。一方、神戸学院大学は序盤のリードを投手陣が踏ん張ることができず初の決勝進出はならなかった。

▼第３日（８月29日）決勝戦

立 命 館 大 学　０００００１００：１
中京学院大学　００４０１２ｘ：７

［立］●小川晃平､古賀元気－藤川拓郎
(本)乗本 真視　(二)伊藤 剛
［中］○垣迫辰也－永見　哲
(本)山下 治、芝 大紀　(二)川原 光
【評】中京学院大学、立命館大学お互い得点圏に走者を置くも両チーム無得点のまま迎えた３回表、立命館大学はヒットと内野ゴロで二死二塁とし２番・伊藤（剛）の打球はレフト前へのヒットで先制かと思われたがレフト・山下からの好返球で本塁寸前タッチアウトとなりで無得点、一方中京学院大学はその裏に２本のヒットと四球で一死満塁のチャンスにバッターは先程好返球でピンチを防いだ５番・山下が２球目を振り抜くと打球はライトオーバーの満塁ホームランで４点を先制、続く５回にも山下のタイムリーで追加点、更に６回には３番・芝の２ランで２点を取りこのリードを堅い守りと先発・片岡の粘り強い投球で１点に抑え嬉しい初優勝を飾った。立命館大学は５回にこの回先頭の８番・乗本のホームランで１点を還し、最終回も二死から連打で一・二塁と粘りをみせるが後続が打ち取られ12年ぶりの優勝はならなかった。

大会新記録

最最長試合時間　３時間19分　大阪体育大学×千葉大学(旧記録：40回早稲田×国士舘３時間15分)
最多得点試合　39得点　大阪体育大学　24－15　千葉大学（旧記録：35得点）
最長四死球試合　27四死球　大阪体育大学：12　千葉大学：15（旧記録：25四死球）

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
	8	川原　光	中京学院	17	11	8	7	5	・	5	1	1	・	5	14	・	2	・	2	0.727	5
○	97	樋上　翔平	神戸学院	12	10	6	3	2	2	・	・	2	2	2	6	・	・	・	・	0.600	4
○	3	岩田　貴晶	神戸学院	14	12	7	4	3	2	・	・	1	1	3	7	・	・	・	・	0.583	4
○	7	山下　治	中京学院	16	14	8	4	10	1	1	・	3	・	4	9	・	2	・	2	0.571	5
○	2	厚地　了実	鹿児島国際	13	11	6	3	2	・	2	・	2	2	4	8	・	・	・	・	0.545	3
○	4	加藤　卓輝	日本体育	12	11	6	2	2	・	1	・	・	1	5	7	・	1	・	・	0.545	3
○	2	赤木　悠生	神戸学院	13	12	6	4	4	・	・	1	1	・	3	7	・	・	2	1	0.500	4
○	6	池田　淳哉	鹿児島国際	14	11	5	3	2	・	3	・	・	・	5	8	・	・	・	・	0.455	3
○	6	林　卓磨	立命館	19	18	8	6	4	・	1	・	1	・	5	9	・	1	・	1	0.444	5
○	4	伊藤　剛	立命館	18	18	8	6	6	・	・	・	1	・	3	8	・	1	1	1	0.444	5
	DP	乗本　真視	立命館	16	14	6	7	7	・	・	2	1	・	2	8	・	4	・	・	0.429	5
○	8	西角　和馬	神戸学院	15	12	5	5	5	・	2	1	・	2	5	8	・	・	1	・	0.417	4
○	8	山田　将也	中　京	13	12	5	3	2	・	・	1	2	・	2	6	・	1	・	1	0.417	4
○	8	細川　好男	立命館	16	15	6	3	4	・	1	・	1	6	5	7	・	1	・	1	0.400	5
○	97	江崎　良	中京学院	14	13	5	6	2	・	・	1	2	2	1	6	・	・	1	・	0.385	5
○	8	戸川　天伍	福　岡	13	13	5	4	5	・	・	・	1	・	2	5	・	1	2	1	0.385	3
○	3	芝　大紀	中京学院	18	16	6	6	6	・	1	1	4	・	2	8	・	2	・	・	0.375	5
	5	浦　将太朗	立命館	18	16	6	5	3	・	1	1	5	・	1	8	・	1	2	1	0.375	5
○	5	和田　亮磨	神戸学院	14	8	3	4	1	2	4	・	1	2	3	7	・	・	1	・	0.375	4
○	71	河原　健太	神戸学院	12	8	3	1	4	2	2	・	・	・	2	5	・	・	・	・	0.375	4

男子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング11以上）

左投	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	望月　孝典	中　京	12.2/3	49	46	8	1	1	・	3	・	15	1	1	・	190	0.55	2	0	3
	片岡　涼	中京学院	25	98	92	18	3	3	1	3	2	23	1	・	・	351	0.84	4	0	4
	立石　壮平	日本体育	20	78	76	15	4	4	・	1	1	30	1	・	・	308	1.40	2	1	3
	嶋田　智希	環太平洋	11	49	46	12	7	6	・	1	2	11	3	・	・	176	3.82	1	1	2
	藤井　優人	関　西	12.2/3	52	48	12	7	7	1	1	2	12	2	1	・	170	3.87	1	1	2
	深津　悠平	中　京	11.1/3	54	46	14	11	7	1	4	3	10	1	1	・	210	4.32	1	1	2
	林　俊輔	愛　知	19	89	82	27	19	12	4	3	・	13	5	・	・	292	4.42	2	1	3
	片岡　正貴	神戸学院	17.1/3	75	71	24	15	11	2	1	1	6	7	・	・	262	4.44	2	1	3
	三王　祐作	広　島	11.2/3	56	47	17	11	8	3	4	2	4	3	・	・	195	4.80	1	1	2
	小川　晃平	立命館	20.2/3	99	87	29	17	15	3	7	2	19	3	2	・	346	5.08	3	1	4

インカレ優勝で学んだこと

中京学院大学男子ソフトボール部主将　川　原　　光

宇部市で開催された第46回全日本大学男子ソフトボール選手権大会において、本学が念願の初優勝することができました。これは、日頃から支えて下さった周りの皆様方のお陰と感謝しています。

今回の大会で学ばせていただいた事が沢山ありました。先ず、チームが一つになる事の大切さです。自分たちは他大学と比べてみても、ズバ抜けて強いチームでもありませんでした。また、今大会の組み合わせでは強豪がひしめく厳しいゾーンでの戦いとなり、一戦一戦が厳しく、ピンチも沢山ありました。しかし、戦っていく中で「勝ちたい」という気持ちが、「絶対に勝つのだ」という強い気持ちに先発メンバーだけでなく、控え選手やベンチ外の選手全員の気持ちが一つになり、無心で戦った結果が今回の優勝につながったと感じました。

私たちのチームは、個性豊かなのか、おとなしい選手も多くて普段の練習でも気持ちという部分ではあまり表面に出す選手が少なく、まとまりがあるとは言えませんでした。普段から、石井監督からよく言われる言葉で、勝負は気持ちが一番大事という言葉の意味が、今回のこの大会で強く身にしみて感じることができました。

私は３年生ですが、昨年の新チームからキャプテンを任されました。高校時代もキャプテンをさせていただいた経験はありましたが、大学では全国各地から選手が来ており、みんなが高校で学んできた習慣等の違いもあり、まとめることが大変でした。昨年は何をするにもうまく行かず、全然まとまりの無いチームでしたが、４年生にもサポートしていただき、少し私も気が楽になり、少しずつチームもまとまりが出てきて、公式戦が近づくにつれて雰囲気も良くなってきました。

中京学院大学（経営学部）の学生数は全学年でも600名弱と小規模な大学です。この様な、小さな規模の大学でも強豪チームとも対等に戦え、優勝も出来るという自信にも繋がりました。

今年の４月に、自分自身にもチームにもプラスになったことがありました。

３月11日に東日本大震災があり、東北地方では多くの人が被災し、亡くなりました。私たちソフトボール部としても何か出来ることは無いかと思っていた時に、中津川市からボランティア活動の要請が大学側にあり紹介を受けました。ソフトボール部として期間は短かったけれど１陣、２陣と分かれて宮城県石巻市の方へ参加させていただいた事です。テレビで見たよりも想像以上の悲惨な光景であり、言葉になりませんでした。ボランティア活動をしている中で、私たちが今、何も不自由無く生活していることの有難さを身をもって感じました。

私たちにはグラウンドも道具も有り、大好きなソフトボールをさせていただいています。被災された方々の中にも私たちと同じように練習をしていた日々から一転して、練習どころか突然住む所も無くなった方々も沢山居ると思えば心が痛くなってきました。

今、私たちがこうしてソフトボールをさせていただいている喜びと、幸せを改めて感じさせていただきました。被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願っています。

来年度のチームの目標は、東海地区リーグ戦、及び東海大学選手権の連覇をして、西日本大会での優勝とインカレでの２連覇を目指します。もう一つ、総合選手権大会の３年連続の出場権の獲得と、上位入賞が出来る様に頑張ります。

今回インカレでは優勝し、来年は、追われる立場となりますが、私たちはまだまだ強いチームでもありません、来年もチャレンジャーとして、自分たちのソフトボールをしていきたいと思いますし、その結果が２連覇に繋がって、また最後に笑って終われればと思います。来年度も引き続き、キャプテンを任されましたので、最上級生としてしっかりとチームをまとめ、今年以上の成績を収められるように頑張ります。

ありがとうございました。

文部科学大臣杯第46回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成23年８月26日(金)～８月29日(月)
会場：山口県下関市／下関北運動公園下関球場他

大会概要

園田学園女子大学５度目の全国制覇

大会記録長：小　野　昭三郎

文部科学大臣杯『第46回全日本大学女子ソフトボール選手権大会』は歴史と瀬戸内海の玄関口に位置する下関で開催された。山口国体をまじかに控え、下関市がソフトボール競技会場となることから、市民のソフトボールに対する関心も高く、いやが上にも盛り上がりのある大会となった。

各地の予選を勝ち抜いた24チームが集い、天候にも恵まれて熱戦が展開された。終わってみれば、投打のバランスのとれた園田学園女子大学が５度目の栄冠を勝ち取った。その原動力は、エース泉を中心とした堅い守りとDP西岡をはじめとする長打力のある打線であろう。また、初の準優勝に輝いたのは、大会参加３度目で昨年３位の鈴鹿国際大学であった。

大会を総括してみると、各地域の代表の戦力は拮抗し地域差が縮まって来た感がある。得点差によるコールドゲームは少なく、接戦が多かった。１点差の試合は８を数えた。接戦を２試合紹介したい。

１回戦、山梨学院大学と武庫川女子大学は７回を終えて２対２の同点。山梨学院大学は８回表、轟の三塁打と玉里の適時打などで３点を挙げた。一方、武庫川女子大学は敵失で無死満塁とし、川口の走者一掃の二塁打で同点とした。走者三塁のとき、牽制球を掻い潜って川口が生還して大逆転した。両チームの健闘を讃えたい。

２回戦での東京女子体育大学と東京国際大学は７回を終わって、７対７の同点。日没のためナイターのできる下関球場に会場を移した。８回裏、東京国際大学は尾館の中前適時打でサヨナラ勝ちを収め、ようやく接戦を制した。試合時間は３時間を超えた。両チームの闘志に拍手を送りたい。

大会講評

実力接近の戦国時代が続く

広報記録部　矢　澤　久　史

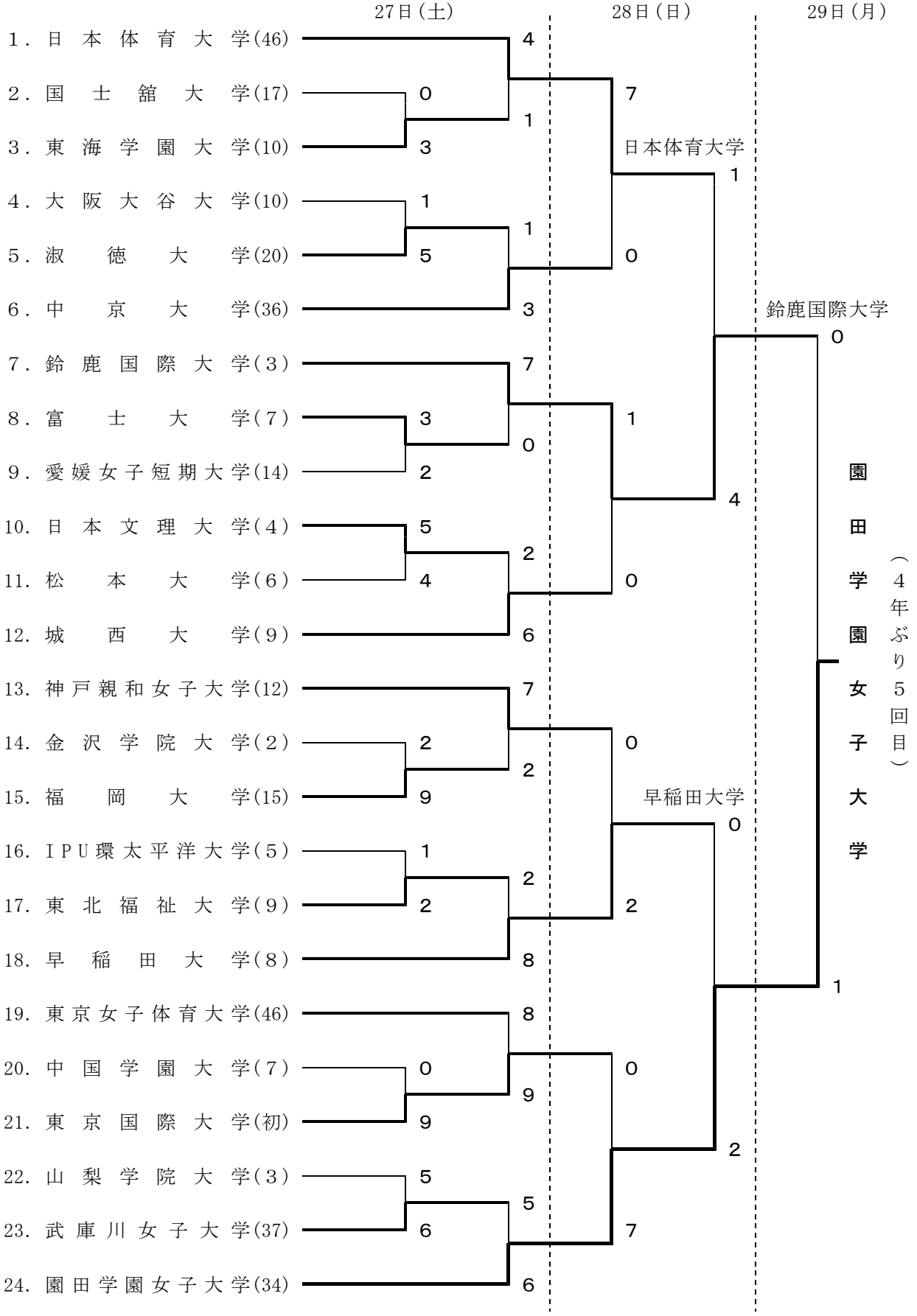
第46回全日本女子ソフトボール選手権は、大会２連覇を目指す東京女子体育大学、東日本大学選手権優勝の日本体育大、準優勝の城西大学、西日本大学選手権を制した鈴鹿国際大学などの強豪チームが優勝争いを展開することが予想された。

大会１日目の１回戦で環太平洋大学、２回戦では東海学園大学、富士大学といった各地区予選の優勝チームが次々と敗退した。また、東京女子体育大学が初出場の東京国際大学に９対８で延長８回サヨナラ負けを喫し、武庫川女子大学は園田女子大学に６対５で敗れ、前年度の優勝と準優勝チームが大会初日に早くも姿を消した。

決勝には、準々決勝で東京国際大学に圧勝し、準決勝では早稲田大学を２対０で破った園田学園女子大学と、準々決勝で城西大学を破り、準決勝の日本体育大学には４対１で勝利をものにした鈴鹿国際大学が進出した。決勝では園田女子大学が本塁打１本の１対０で優勝の栄冠を勝ち取った。

現在の大学ソフトボール界は、インカレ出場30回を越える伝統校、優勝経験がある中堅校、新興勢力の３つに色分けされる。今回の大会は、出場34回目の伝統校・園田学園女子大学が優勝し、出場３回目の新興勢力の鈴鹿国際大学が準優勝、中堅校の早稲田大学と伝統校の日本体育大学が第３位となり、伝統校、中堅校、新興勢力の実力が接近し、本命なき戦国時代が続いていることを実感させる大会となった。来年から出場チーム枠が24から32チームに増えるが、これからも厳しい戦国時代が続くことが予感される。

大会結果



※（ ）内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第１日（８月27日）１回戦

東海学園大学　２０００００１：３
国 士 舘大学　０００００００：０

［東］〇勢村香織－久保亜希美
［国］●高橋愛未－矢内麻美

【評】勢村２塁を踏ませず完封。東海学園大学は初回相手の失策と短打２本で２点を先取し、勢村投手が２安打に抑え完封勝利。国士舘大学は走者を出すものの得点に結びつかず、惜しくも初戦敗退。

大阪大谷大学　００００１００：１
淑 徳 大 学　００２３００ｘ：５

［大］●勝山絵美、森下愛海－森下　舞
［淑］〇樋口麻知子－小嶋晶子

【評】淑徳大学１回戦突破。淑徳大学は三回に２本の適時打で２点を４回には安打と２つの野戦等で３点を加点した。大阪大谷大学は五回一死満塁の好機に１点に留まったのが痛かった。

愛媛女子短期大学　０００２０００：２
富　士　大　学　０００３００ｘ：３

［愛］●谷島花波、麻生若葉－原野友希
　　(本)田中佑香
［富］〇榎林茉実－郷間智美
　　(二)木村恵理華、桐生彩香

【評】富士大学接戦を制す。先攻の愛媛女子短期大学は走者を一塁に置いて田中が中越本塁打を放ち２点を先取する。その裏富士大学は敵失と犠牲フライで同点とし、桐生の左越二塁打で逆転した。

日本文理大学　０００５００：５
松 本 大 学　０００２２００：４

［日］〇馬場麻里、北岡沙織－古賀知華
　　(本)北川愛莉　(二)吉原菜都美、百瀬　篠
［松］山越琹奈、手島絹江、●井口優紀－茂木彩

【評】日本文理大学満塁本塁打で試合を決める。２点を先攻された日本文理大学は押出しで１点を挙げると北川が満塁本塁打を放ち逆転する。松本大学は１点差まで詰め寄るが一歩及ばず。

金沢学院大学　０００２０　：２
福 岡 大 学　０１１２５ｘ　：９

［金］小西由衣、●増泉香采、藤記都－大西莉加
　　(二)辰島麻紀
［福］〇野口めぐみ－木本もえ
　　(二)長田明日香②、野中めぐみ

【評】福岡大学、強力打線で初戦突破。福岡大学は田中の適時打で先制すると小刻みに得点する。５回には打者一巡で５点を挙げる。金沢学院大学は一時同点に追いつく粘りを見せたが相手の猛打に屈した。

環太平洋大学　０００００１０：１
東北福祉大学　１０１０００ｘ：２

［環］●木村久美、岡野文香－六與瑞希
　　(本)田中真紀子
［東］〇鈴木璃奈－平谷美咲
　　(三)小林杏奈、山本紗耶加

【評】東北福祉大学、投手戦を制し、初戦突破。東北福祉大は１回に１点を先制し、３回には小林、山本の連続三塁打で１点を追加する。環太平洋大学は本塁打の１点のみと鈴木投手に押さえ込まれ好機を生かせなかった。

中国学園大学　０００００　：０
東京国際大学　８１００ｘ　：９

［中］●濱口麻美伊、浅井琹里、北原　萌－
　　信安由加里
［東］〇井本妃里、大野琹奈－降矢　香
　　(二)石田美奈、中島諒子

【評】東京国際大学　完封スタート。　東京国際大学は、一回裏７安打と３四死球で大量８点を挙げ試合を決めてしまった。一方中国学園大学は僅か１安打と完全に押さえ込まれてしまった。

山梨学院大学　０１０１０００３：５
武庫川女子大学　００００００２４ｘ：６

［山］●畑迫遼子－岡田香織
　　(三)岡田佳織、轟　優花
　　(二)知久幸未②、小池美保

［武］○内海花菜、穴澤早貴恵－平井遥香、
　　吉田美姫
　　(二)川口祐美
【評】武庫川女子大学延長戦を制す。山梨学院大学は８回表轟の三塁打などで３点を挙げたもののその裏、武庫川女子大学は川口の走者一掃の二塁打等で４点を挙げ逆転サヨナラ勝ちを収める。

▼第１日（８月27日）２回戦
日本体育大学　２０００１１０：４
東海学園大学　１００００００：１
［日］○三木綾菜、高田彩也香－堀　愛実
　　(三)松畑美希
［東］●勢村香織－久保亜希美
　　(二)光井綾香
【評】日本体育大学少ない好機を得点に結びつけ２回戦突破。一回表、松畑の三塁打で２点五、六回には　１点ずつを加え、堅実の守備も光った。東海学園大学は一回の１点のみで六回の好機を生かせなかった。

中京大学　０１１０００１：３
淑徳大学　００００００１：１
［中］○長谷川朋子－荒屋えりか
　　(本)塚本智名　(二)荒屋えりか
［淑］●樋口麻知子－小嶋晶子
　　(二)清水友子
【評】中京大学長谷川の好投で準々決勝へ。中京は２回長短打で先取点を奪い、３回には塚本の中越本塁打で１点を加える。淑徳大学は最終回、連続安打で１点を挙げるも後続を断たれた。

鈴鹿国際大学　１０００１５　：７
富 士 大 学　００００００　：０
［鈴］○平木綾佳－松山裕衣、山下奈那華
　　(二)宮澤早紀
［富］●榎林麻美－郷間智美
　　(三)中村紗希
【評】鈴鹿国際大学、集中打でコールド勝ち。鈴鹿国際大学は２点リードした６回に打者一巡で一挙５点を加え勝負を決める。富士大学は中村の三塁打等で反撃するも、平木投手の緩急ピッチングにかわされた。

城 西 大 学　２１０３０００：６
日本文理大学　０００１１００：２
［城］○野村美和子、金澤麻美－塩野梨沙
　　(三)酒巻ひかる　(二)保崎　麻優
［日］●北岡沙織、馬場麻里－古賀朋子
　　(二)隅田朋子
【評】城西大学が前半で試合を決める。城西大学は初回酒巻の三塁打を足がかりに2点を先制する。4回には打者一巡で３点を加え、勝負を決める。日本は文理大学も反撃するも、決定打にかけた。

神戸親和女子大学　１１１００３１：７
福　岡　大　学　０００１１００：２
［神］○笹山彩夏－大塚　潤
　　(三)米坂知恵　(二)永沢杏菜、末方悠加、
　　佐野由貴美、杉山里奈、佐藤友麻
［福］●西藤笑美、野口めぐみ－木本もえ
　　(二)石井晶子
【評】神戸神和女子大学好機を確実に生かし初戦突破。神戸神和女子大学は初回佐野の中前打で先制。その後も好機を生かし長短打で加点した。福岡大学は好機を迎えながら得点に結びつけることができなかった。

早稲田大学　０００００７１：８
東北福祉大学　２０００００：２
［早］森下　藍、○後藤めい－三浦由華子、鬼澤麻純
　　(三)栗原八寿子、鬼澤麻純
　　(二)豆野ふみ、町田ひかる
［東］●鈴木璃奈、高橋弘子、五味彩華－
　　平谷美咲
【評】早稲田大学終盤鮮やかに逆転。早稲田大学は五回まで無得点に抑えたれていたが、六回長短打を含む５安打４四球の猛攻、大量７点を挙げ一気に逆転した。東北福祉大学は初回先制するも早稲田の投手リレーにかわされた。

東京女子体育大学　００２０２４００：８
東 京 国 際 大 学　０２０１５００1x：９

［女］平原かすみ、●金澤理沙－山保彩、上野真
(本)寺川亜美　(三)原野愛美
［国］○佐野美知留、大野栞奈、井本妃里－
降矢　香
(三)原　香織　(二)石田美奈②

【評】東京国際大学サヨナラ勝ちでベスト８へ。東京国際大学は延長８回裏二死満塁から尾館の中前適時打で劇的なサヨナラ勝ち。３時間を越える熱戦に幕を下ろした。東京女子体育大学は一死一、三塁の好機を生かせず惜敗。

園田学園女子大学　１２００２０１：６
武庫川女子大学　１００２１０１：５

［園］○泉礼花、池田美樹－清原奈侑、岡恵利華
(本)古澤春菜　(三)近藤琴美
(二)加藤文恵、古澤春菜、知念千香
［武］内海花菜、●穴澤早貴恵－平井遥香、
吉田美姫
(三)森上真依、大島あずさ、川口亜祐美

【評】園田学園女子大学接戦を制する。３－３で迎えた５回園田学園は連続適時打で２点を７回に１点を加えた。一方武庫川女子大学は７回裏三連打で満塁とし押出しで１点を挙げるも後続を断たれ涙を呑んだ。

▼第２日（８月28日）準々決勝戦試合結果

中 京 大 学　００００００　：０
日本体育大学　２１２１０1x　：７

［中］●長谷川朋子、川端彩香、長谷川朋子－
荒屋えりか
(二)塚本智名
［日］○三木綾菜－堀　愛実、澤井美佑
(三)堀　愛実　(二)澤井美佑②、岩見香枝

【評】日本体育大学13安打で快勝。日本体育大学は初回無安打で２点を先取すると、毎回のように犠打を絡めて小刻みに加点。６回裏の１点追加でコールドゲーム勝ちを収めた。中京大学は好機に適時打が出なかった。

城 西 大 学　０００００００：０
鈴鹿国際大学　１０００００ｘ：１

［城］●金澤麻美－塩野梨沙
［鈴］平木綾佳、○柏木菜奈－山下奈那華
(二)宮澤早紀

【評】鈴鹿国際大学は初回の１点を守り抜き、城西大学に競り勝ち、準決勝進出。鈴鹿国際大学は、一回裏、一番宮澤が二塁打で出塁。長谷川が三塁に送り、柏木の犠飛で１点を先取しこれが決勝点となる。城西大学は好機に決定打を欠いた。

神戸親和女子大学　０００００００：０
早 稲 田 大 学　０００００２ｘ：２

［神］●笹山彩夏、倉田　明－大塚　潤
(二)佐藤友麻
［早］○森下　藍、後藤めい－三浦由華子、
鬼澤麻純
(三)豆野ふみ

【評】早稲田大学、１度のチャンスを生かし準決勝へ。両軍の投手の粘り強い投球で五回まで無得点。早稲田大学は六回３連打で２点を奪い、そのまま逃げ切る。神戸親和女子大学は９三振を奪われ、好機を生かすこともできなかった。

東 京 国 際 大 学　００００００　：０
園田学園女子大学　０３４０ｘ　：７

［東］●佐野美知留、大野栞奈－降矢　香
［園］○泉　礼花－清原奈侑
(本)古澤春奈　(二)古澤春奈

【評】園田学園女子大学猛打炸裂。園田学園は２回長短打で幸先良く３点を先取する。３回には古澤の３点本塁打で大きくリードする。東京国際大学は相手の泉投手に押さえ込まれ、コールドゲーム敗退を喫す。

▼第２日（８月27日）準決勝戦試合結果

日本体育大学　００００００１０：１
鈴鹿国際大学　１０００００１２ｘ：４

［日］●三木綾菜、高田彩也香－堀　愛実
(三)相馬満利②　(二)澤井美佑
［鈴］○平木綾佳、柏木葉奈－山下奈那華

【評】鈴鹿国際大学、悲願の決勝進出。鈴鹿国際大学は相馬の適時打で初回に１点を先取する。さらに四回に１点、五回に２点を加点する。守っては平木投手が好投し決勝進出の原動力になった。日本体育大学は１点を返し、７回満塁としたが併殺で好機をつぶした。

早稲田大学　００００００００：３
園田学園女子大学　０１０１００ｘ：２

［早］●後藤めい、森下　藍－豆野ふみ
［園］○泉　礼花－清原奈侑
(二)川村可奈子

【評】園田学園女子大学５度目の優勝目の前。園田学園女子大学は併殺などでチャンスをつぶしていたが、２度の好機に犠打と適時打で２点を挙げた。投手泉の粘り強い投球で７回の二、三塁のピンチを乗り切る。早稲田大学は好機を生かせなかった。

▼第３日（８月29日）決勝戦試合結果

鈴鹿国際大学　００００００００：０
園田学園女子大学　０１０００００ｘ：１

［鈴］●平木綾佳、柏木菜奈－山下奈那華
［園］○泉　礼花－清原奈侑
(本)西岡宏華　(二)知念千春、胡子路代

【評】園田学園女子大学の西岡千金の一打。決勝戦にふさわしい好ゲームが展開された。園田学園女子大学は２回裏、西岡が３球目に中越本塁打を放つ。これが両チーム唯一の得点で決勝点となった。投手泉は緩急の投球で鈴鹿国際大学を３安打に完封した。鈴鹿国際大学は五回二死一、二塁としたが後続を断たれた。園田学園女子大学は昨年のリベンジを果たし４年ぶり５度目の優勝を飾った。

女子大会打撃ベスト20（規定打席数９以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
	5	古澤　春菜	園田学園	9	8	5	3	7	1	・	・	1	・	1	5	・	2	・	2	0.625	4
○	D2	澤井　美佑	日本体育	10	9	5	2	3	・	1	・	3	・	3	6	・	・	・	3	0.556	3
○	8	泉　　夏帆	早稲田	13	12	6	1	1	・	1	・	・	・	5	7	・	・	・	・	0.500	4
	3	豆野　ふみ	早稲田	10	10	5	2	3	・	・	・	・	・	2	5	・	・	1	1	0.500	3
○	6	相馬　満利	日本体育	12	7	3	3	・	1	2	2	・	・	3	7	・	・	2	・	0.429	3
	5	二階堂夏帆	日本体育	9	7	3	・	・	2	・	・	1	・	1	3	・	・	・	・	0.429	3
	9	知念　千香	園田学園	9	7	3	・	・	1	1	・	2	・	4	4	・	・	・	2	0.429	4
	3	加藤　文恵	園田学園	11	10	4	2	2	・	1	・	2	1	1	5	・	・	・	1	0.400	4
	6	亀井　愛梨	園田学園	10	10	4	2	2	・	・	・	・	2	3	4	・	・	・	・	0.400	4
○	8	大谷　安奈	東京国際	10	10	4	2	・	・	・	・	1	3	4	4	・	・	・	・	0.400	3
	6	宮澤　早紀	鈴鹿国際	13	13	5	2	3	・	・	・	1	1	3	5	・	・	・	2	0.385	4
○	3	松畑　美希	日本体育	11	8	3	・	2	1	1	1	・	・	5	5	・	・	1	・	0.375	3
○	87	林　　優貴	日本体育	10	8	3	2	2	1	1	・	・	・	1	4	・	・	・	・	0.375	3
	4	町田ひかる	早稲田	10	9	3	2	1	・	1	・	・	・	2	4	・	・	・	1	0.333	3
	78	田部井　彩	日本体育	11	7	2	3	1	・	2	2	・	・	2	6	・	・	・	・	0.286	3
	5	服部　真央	鈴鹿国際	9	7	2	・	1	1	1	・	・	・	2	3	・	・	・	・	0.286	4
○	2	降矢　　香	東京国際	9	7	2	2	・	・	1	1	1	1	3	4	・	・	・	・	0.286	3
○	4	胡子　路代	園田学園	13	11	3	1	・	1	・	1	・	・	2	4	・	・	・	1	0.273	4
○	78	近藤　琴美	園田学園	13	11	3	3	・	・	2	・	1	1	2	5	・	・	1	・	0.273	4
○	4	相場　美穂	鈴鹿国際	12	11	3	・	2	1	・	・	1	・	3	3	・	・	・	・	0.273	4

女子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

左投	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投数	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	平木　綾佳	鈴鹿国際	21	83	73	19	2	2	3	5	2	9	1	・	・	268	0.67	3	1	4
	笹山　彩夏	神戸親和	12.2/3	56	49	12	3	2	2	5	・	5	・	・	・	197	1.11	1	1	2
	泉　　礼花	園田学園	24	96	92	20	4	4	・	3	1	5	・	・	・	340	1.17	4	0	4
	後藤　めい	早稲田	11	37	31	4	2	2	4	2	・	11	・	1	・	165	1.27	1	1	3
	三木　綾菜	日本体育	13.1/3	54	50	12	3	3	2	・	2	5	・	・	・	174	1.58	1	1	3
	勢村　香織	東海学園	14	56	47	11	4	4	5	2	2	12	・	・	・	203	2.00	1	1	2
	樋口麻知子	淑　　徳	14	57	51	11	4	4	2	1	3	3	1	・	・	173	2.00	1	1	2
	榎林　茉実	富　　士	13	53	48	9	9	4	3	2	・	8	1	1	1	217	2.15	1	1	2
	長谷川朋子	中　　京	11.1/3	52	40	15	6	5	6	4	2	4	・	・	1	181	3.09	1	1	2
	馬場　麻里	日本文理	11	53	45	12	8	5	3	3	2	8	・	・	・	198	3.18	1	0	2

挑　　戦　　者

園田学園女子大学ソフトボール部主将　近　藤　琴　美

インカレへの道のりは、とても長く大変なものでした。昨年は充実した投手陣を中心にバランスのとれたチームで、周りからの期待も大きかったのですが、ベスト８で負けてしまいとても悔しい思いをしました。そして私たち後輩は新たなスタートを切り、「先輩方の悔しい気持ちを晴らせるのは自分達しかいない、日本一になることだけを考えて頑張ろう」そんな思いで、一年間辛い練習もトレーニングも全員で支え合って乗り越えてきました。

先輩方が卒業し新チームとなり、私たちが勝つためには何が足りないか、そしてどのようなチームでありたいかについての話し合いを繰り返し行い、今年はチーム力で勝つしかないという結論に達しました。そして目標がぶれないことや最後まで全員で戦うことを決めました。インカレ予選を兼ねた春季リーグでは、関西リーグで４位以内に入り、出場権を得ることが出来ました。しかしそこからが私たちにとってとても苦しい戦いが続きました。

５年連続で出場していた全日本総合の出場権を賭けた近畿総合予選で負け、出場権を逃してしまいました。また、西日本インカレでは二回戦敗退とチーム状況は最悪でチームがまとまらない日々が続きました。でもこの負けが私たちの試合に対する考え方の甘さや、勝つということの難しさを知るきっかけとなりました。

その敗戦を機にもう一度チームが一つになり、同じ目標に向かっていくためにインカレ直前に合宿を行いました。合宿では、グラウンド設営から食事・洗濯など今まで当たり前になっていたことから全てのことを自分達ですることで、改めて今まで恵まれた環境でソフトボールが出来ていると実感しました。練習では一球の重みを全員で身をもって知り、決めた目標を達成することの喜びや、隣にいる仲間を信じてプレーすることの大切さを学び、インカレ優勝に向けてチームが一つになり、自分達に足りなかった何かを見つけることが出来

ました。

そして、いよいよインカレの開催地、山口県に入りました。気持ちは高ぶるばかりでしたが、試合前日のミーティングでも私たちの合い言葉となった「挑戦者」という言葉を胸に、全員で気持ちを高めました。一試合一試合を勝ち上がるにつれて、ますますチームの雰囲気も高まり、今までに無いくらいに試合が楽しくて仕方ありませんでした。そして何よりも私たちを勇気付けてくれたのは、たくさんの保護者やOGの方々、ベンチには入れなかった仲間たちの応援でした。たくさんの想いを胸に抱えながらの決勝戦は、昨年ベスト８で負けている鈴鹿国際大学、リベンジも兼ねた試合でとても緊迫した決勝戦になりました。最終回、スリーアウトを捕った瞬間は、今でも鮮明に覚えていますが、本当に最高でした。そして、今まで何があっても私たちを見捨てずに一緒に戦ってくださった、監督・コーチの方に恩返しが出来たことが本当に嬉しく、念願の胴上げをすることが出来ました。

このチームが日本一になることが出来たのは、監督・コーチ、保護者の方々、応援団、そして最高の仲間がいたからです。優勝への道のりは本当に長く苦しいものでしたが、たくさんの方々へ「日本一」という最高のかたちで恩返しすることが出来、本当に良かったです。私自身、園田学園女子大学の主将を務められたことを誇りに思います。３月で卒業となりますが、この学生生活で培った力を卒業後も生かし、また大学ソフトボールの楽しさや素晴らしさを改めて実感することが出来たので、この経験を次の世代の後輩に引き継いでいけたらと思います。

平成23年度インカレサイト開設にあたって

インカレ広報担当　石　井　新　菜
（前学連学生委員長、元都学連委員長、専修大学卒）

●きっかけ

前回大会の開催地であった富山で初めてインカレを見ました。レベルの高さや迫力、カッコよさを目の当たりにして「多くの人に知ってほしい、見てほしい」と強く思いました。また、理事の先生方とお話しする中で、先生方が学生のことを考えて様々な活動をして下さっていることを知り、私に「何か出来る事はないか」と考えました。ちょうど、理事会がインターネットの活用について検討しており、私はウェブコンテンツ制作会社でインターンをした経験があったことから、試験的にではありますが、「インカレサイト」の開設が決まりました。

●目指したこと

活動の内容につきましては、実施したいことは多々あるものの、人員や機材には限りがありました。そのため、「出来るだけ早く試合結果を伝える」ことと、「少しでも会場やプレーの雰囲気、選手たちの活躍を知ってもらう」という２点を意識し、前者に対しては「速報掲示板」の開設、後者に関しては「写真と動画の掲載」という形をとりました。

●外部協力

さらに、今回は仙台大学さんに機材の貸し出しや、後方支援として仙台から告知ポスターの作成やサイトの更新などのご協力をいただきました。さらに、学生１名に会場入りしていただき、一緒に撮影隊として活動してもらいました。

●結果と反省点

大会サイトには、日本各地からのアクセスはもちろん、海外からの閲覧もあり、約10万件のアクセスとなりました。今回は特に、試行錯誤しなが

らの運営となったため、試合の結果速報以外のコンテンツは更新に時間がかかった等、上手く行かなかったことが沢山あり、課題が見つかりましたので、お寄せいただいたアンケート結果も含め、来年度の活動に反映させていきたいです。

●今後の展望

会場に行くと、大会に関わる人の多さを知ります。そして、多くの方々のソフトボールが「好きだ」という想いを感じます。そう感じる度に、私には何が出来るだろうか。と考えます。今後は、インカレだけではなく、地区予選や各地区のリーグ戦の模様もインターネットを通じて公開していけたらと考えています。しかし、私だけの活動には限界があります。より良いものを作り上げるためにも、皆様の考えや意見を聞かせていただくと同時に、各地区の先生方や学連委員さん方のご協力が不可欠であると考えます。さらに、大きな課題である「この活動を継続性のあるものにしていく」ためにはより多くの学生がこの活動に関わる事がカギであると考えます。ようやく、スタート地点に立てたといった所でしょうか…

最後に、今回の「インカレサイト」運営に挑戦する機会を頂いたことと、理事会の先生方や学生役員、現地協会の皆様をはじめとして、この活動にご理解をいただき、ご協力下さった全ての方に感謝申し上げます。

第46回全日本大学ソフトボール選手権大会に関わって

学連学生委員長　徳　田　政　隆（東京大学４年）

2011年８月26日から29日まで、全日本大学ソフトボール選手権大会が山口県宇部市、下関市で盛大に行われました。私は宇部市の男子会場、下関市の女子会場ともに参加と、貴重な経験をさせていただくことができました。

インカレとは無縁のチームにいた私は、今回初めて全国大会のレベルを目の当たりにしたのですが、そのパワー・スピード・細かい技術はどれをとっても目を見張るものでした。正直にいえば、大会役員としてというよりも、単に一人の観客として試合に見入っていたように思います。同じ大学生とは思えないプレーに驚嘆しているうち、あっという間に大会が終了してしまいました。また、勝って大いに喜ぶ姿、負けて涙する姿には、そこまでに至る様々な過程の存在が想像され、心打たれました。

一方で、大会の運営に目を向けると、多くの方々のおかげでこの一つの大会が成り立っていたことに気付かされます。大会期間中は酷暑ともいえる暑さであり、皆が汗だく、真っ黒に日焼けしながら動いていましたが、朝から晩まで奔走される本部の方々や審判の方々のおかげで大会が無事に運営されていることを実感しました。もちろん、大会運営は期間中の動きにとどまりません。大会が始まる前から、その準備にあたられた学連や協会の方々には頭の下がる思いです。また、会場その他設備面の充実度は東京地区のリーグ戦とはかけ離れたものであり、この点に関しては学生のモチベーション向上や観客の動員など、大学ソフトボールの普及・発展につながる側面として改善する必要があると感じました。

大会を通し、学生が勝利を目指して真剣にプレーする姿や全国大会でこそ見られる高いレベルのプレー、そしてそれを支える運営の方々の思い、学生役員としてその一端に触れられたことを大変有難く思います。

最後に、大会期間中お世話になった学連の先生方に感謝申し上げます。今後とも大学ソフトボール界が益々発展しますよう願っております。

全日本大学ソフトボール選手権大会に携わって

学連学生副委員長　金　山　美　穂（中央大学４年）

まずは予定されていたすべての活動を無事に終了することができましたことを、大会運営並びに連盟運営に携わっていだいた皆様に感謝申し上げます。

私は今年度、全日本大学ソフトボール連盟の学生副委員長をやらせていただきました。その活動として全日本大学ソフトボール選手権大会（宇部市、下関市）の大会期間中の会議、開会式・閉会式の運営、広報活動に学生委員として参加しました。今年は男女別会場ということで、女子の試合を中心として見ることになりましたが、途中で男子の試合を見る機会を与えて頂き、両方見学することができました。そこで見た試合というのは、私が見てきた中で最もレベルが高いものでした。というのも、私が所属している大学では、まずインカレに出場することはありません。また自分から見に行かない限り、インカレに出場するような大学の試合を見ることがなければ、まして男子の試合も見ることもありません。近年、大学ソフトボールの発展という目標を大きく掲げている東京都大学ソフトボール連盟において、自分達のレベルより上のレベルを見る機会を与え、モチベーションの向上を図ることを一つの目標としています。それを進めていくうえで、私自身が全国レベルのプレイをみることによって、モチベーションをあげることができたことを実感したのはとても大きいことでした。また運営においても私たちが主催しているリーグ戦とは違い、立派な会場で大々的に行われている様子が印象に残りました。東京は大学の加盟数が近畿に次ぐ多さであり、全国でも好成績を残せる強豪校を抱えている地区なので、インカレのような盛り上がりを少しでも見せることができないかと考えるようになりました。

大会全体を通じて、この大会をより多くの一般の方、あるいは未来を担う若い世代に試合を見てもらうことが必要だと感じました。なぜならソフトボールのレベルが高水準であるにも関わらず、まだまだ観客が少ないように感じたからです。ソフトボール界全体が盛り上がる一因として、大学ソフトボールに注目、関心が集まることがあげられます。インカレは全国大会という最も大きな大会なので、もっと集客できるシステムを作っていかなければなりません。その先駆けとして今年から広報活動が動き出しました。私は広報チームとして写真撮影、結果速報、インタビューと微力ながら協力させて頂きました。１から始まったこの活動が、何年もしくは何十年後まで続き、インカレに必要不可欠になるまで成長することを期待しています。

これからも東京都大学ソフトボール連盟役員、そして全日本大学ソフトボール連盟学生副委員長として、任期いっぱいソフトボールの普及発展に精進していきます。

インカレの広報について

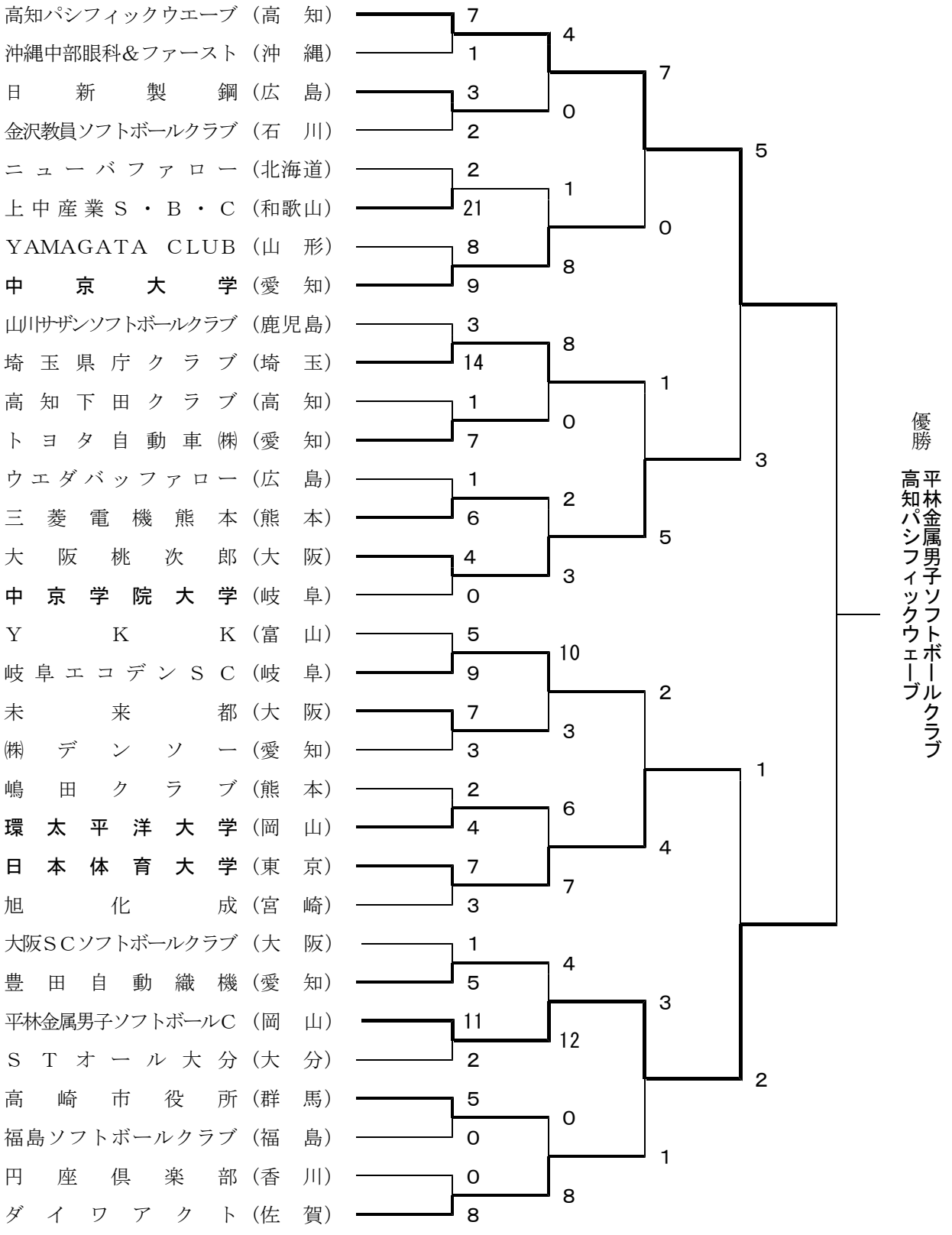
広報記録部長　水谷　博

昨年までのインカレ広報は、二人の担当者が記録長から「記録４号」をいただきき、それを当日中に何とかHP上にアップするだけでした。今回は、石井さんと正副学生委員長等が監督・選手へのインタビューを動画でアップするなどツイッターまで用いて格段に多くの情報をリアルタイムで提供することができました。その結果、学連HPへのアクセス数は50倍以上増えました。ご担当いただいた方々に感謝するとともに、速報性と正確性におもしろさ（興味深さ）を加えた来年以降の広報体制を確立したいと考えています。学生諸君諸姉のご理解とご協力をお願いいたします。

第57回全日本総合男子選手権大会

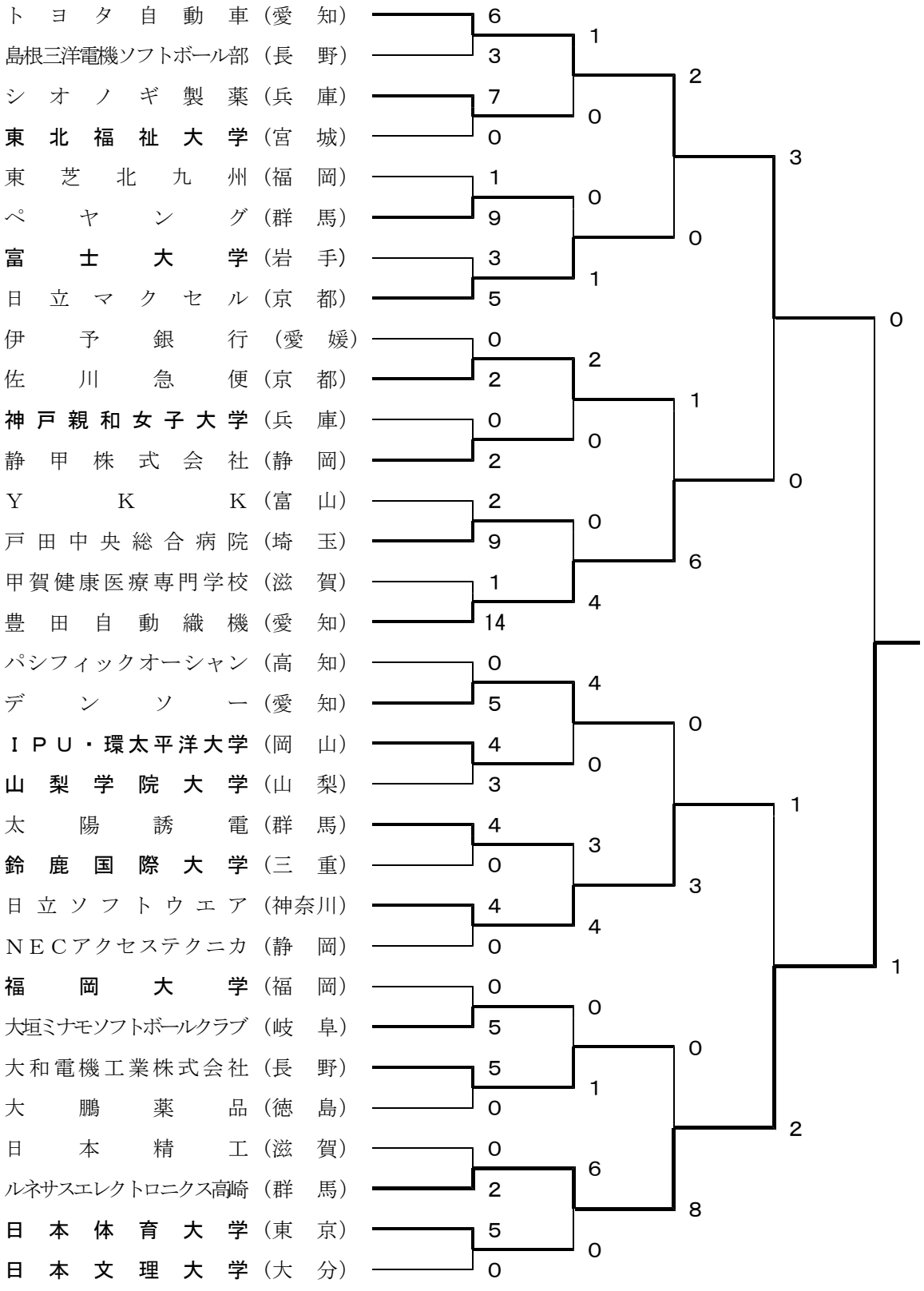
会期：平成22年９月18日（土）～20日（月）

会場：大阪府大阪市／舞洲運動広場



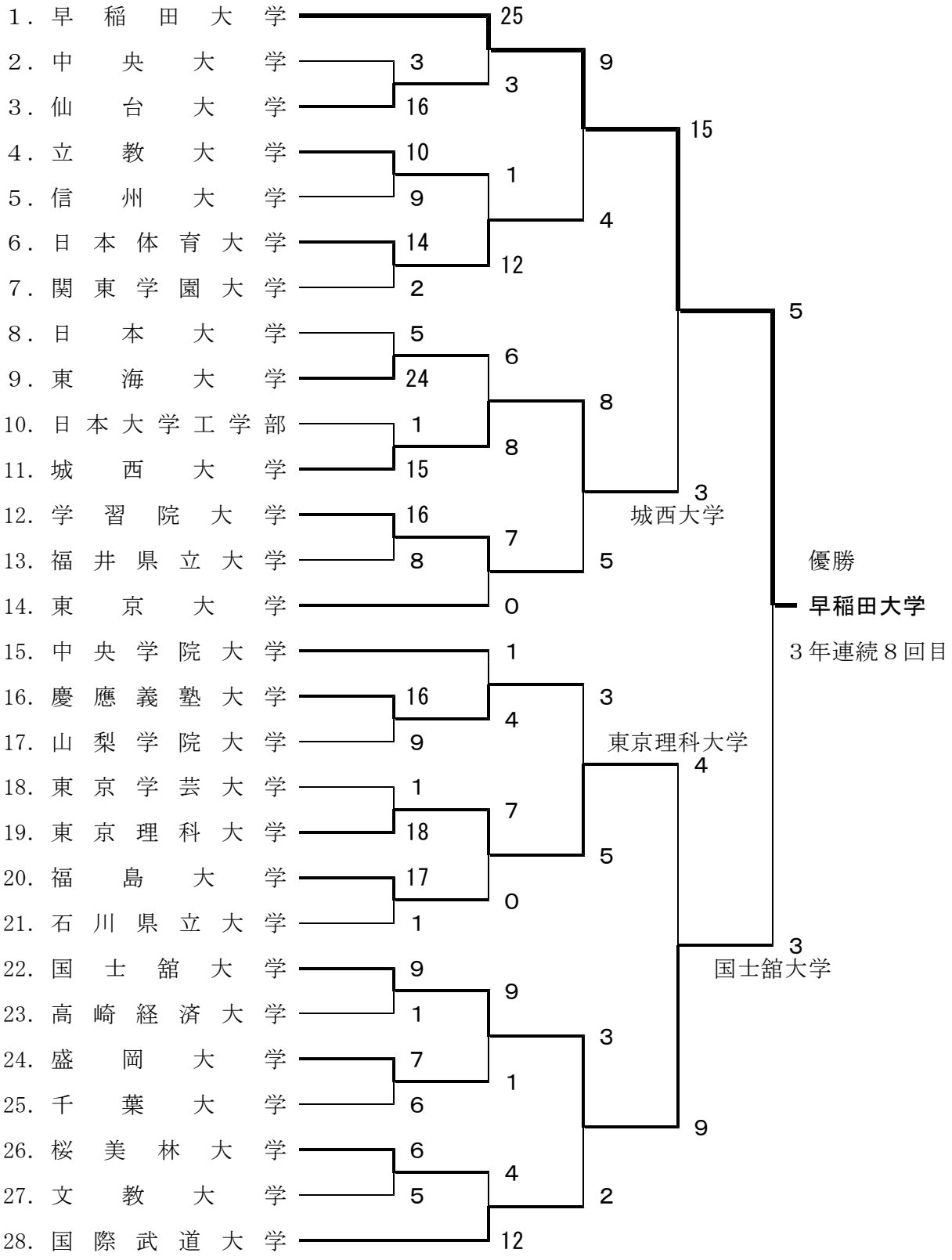
第63全日本総合女子選手権大会

会期：平成23年９月16日（金）～19日（月）
会場：岐阜県大垣市／北公園野球場他



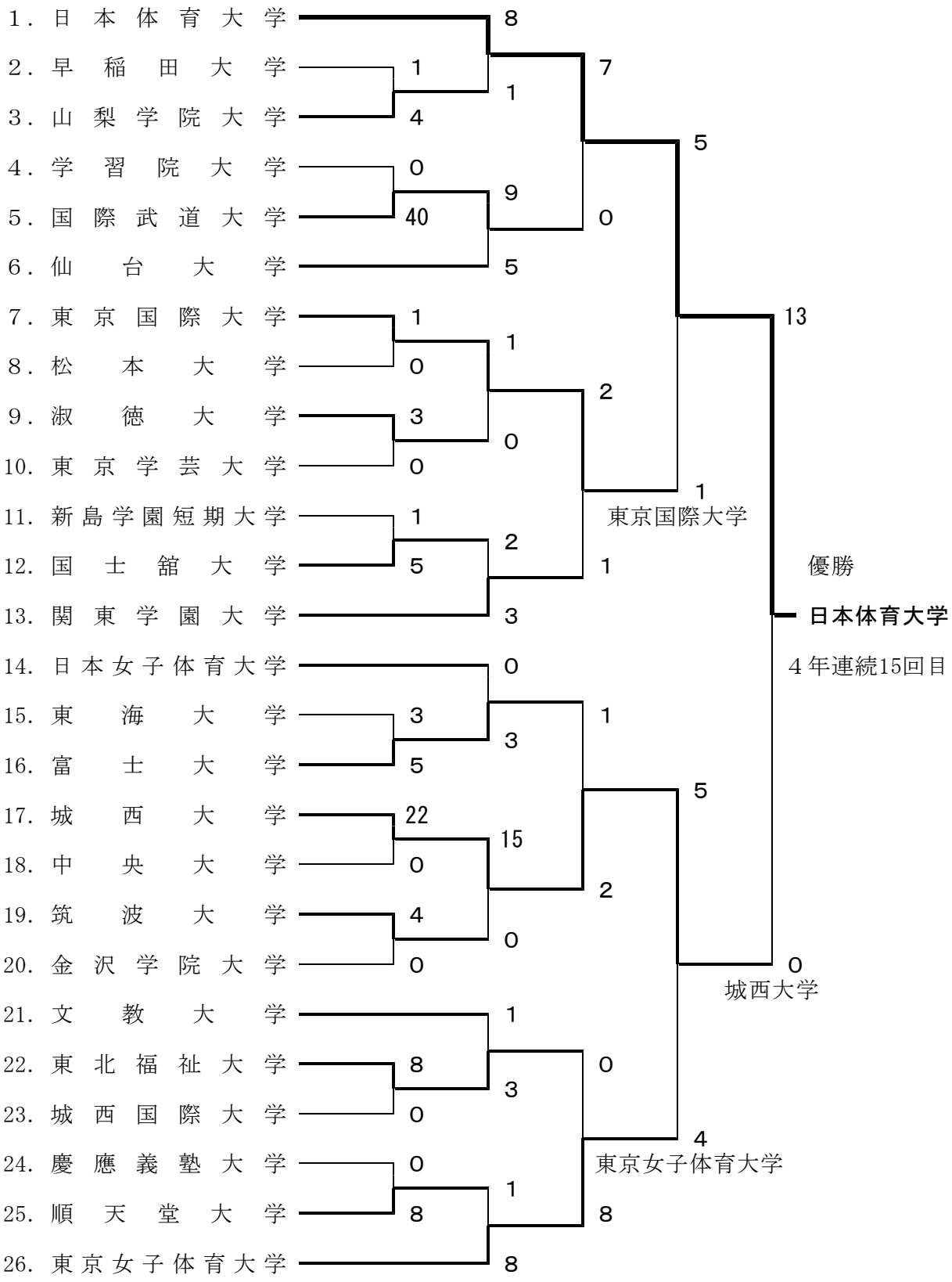
第26回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成23年８月12日(金)～８14(日)
会場：新潟県長岡市／東中学校グラウンド、他



第26回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

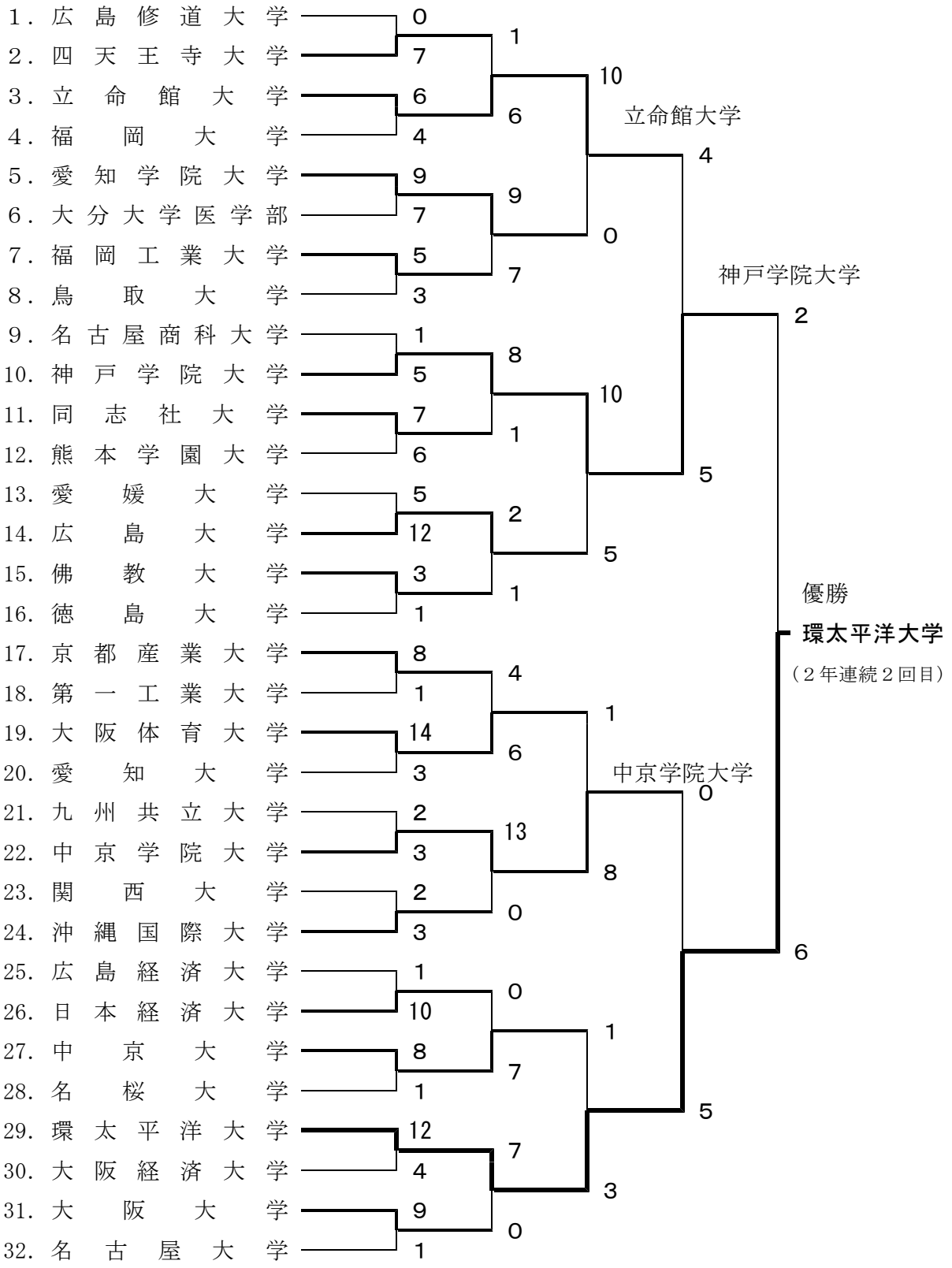
会期：平成23年８月12日(金)～14日(日)
会場：新潟県長岡市／長岡商業高等学校グラウンド、他



第43回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

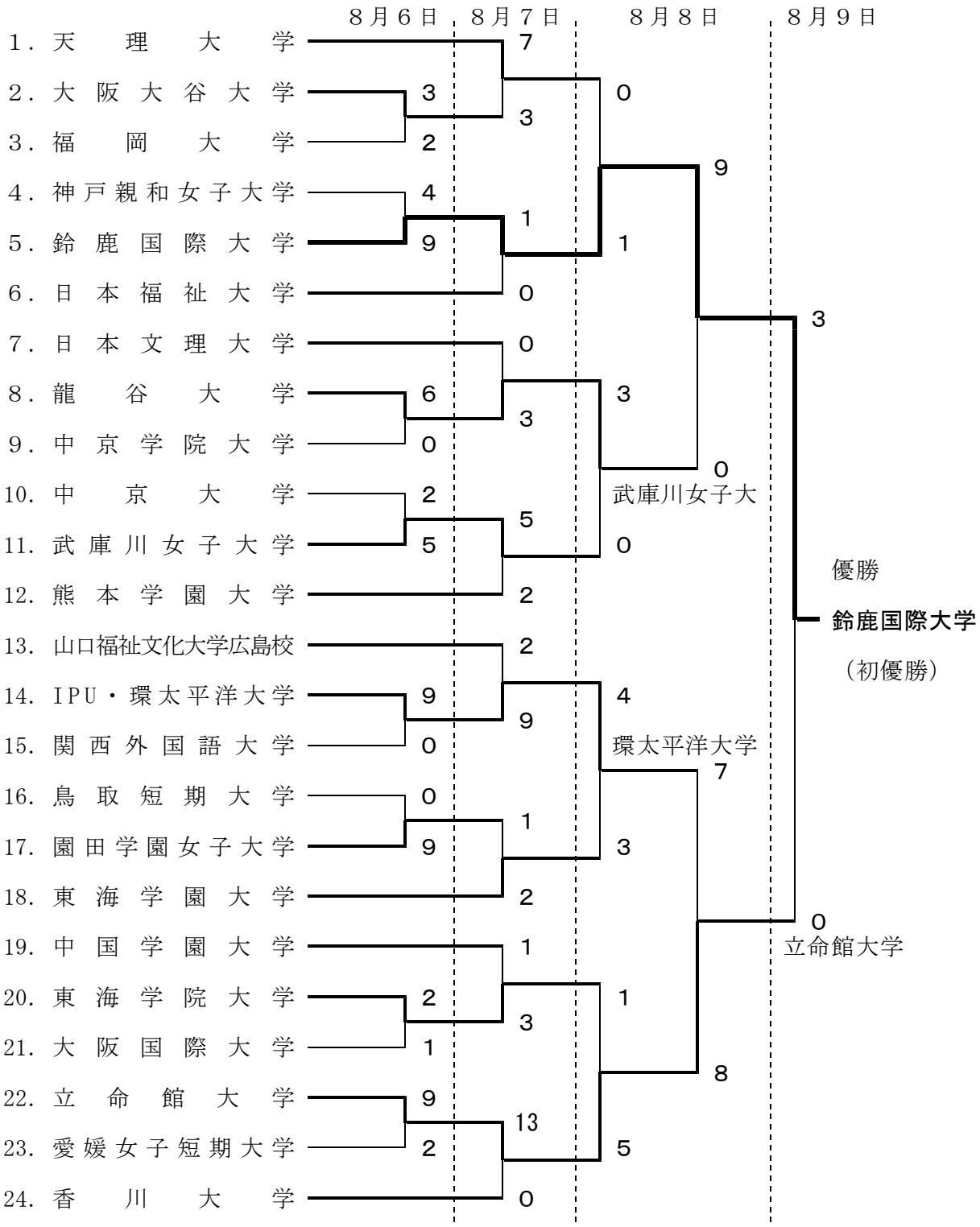
会期：平成23年８月５日(金)～８日(月)

会場：岐阜県羽島市／羽島市運動公園野球場・多目的広場　他



第43回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成23年８月５日(金)～８日(月)
会場：岐阜県下呂市／萩原あさぎりスポーツ公園野球場　他



※本大会会場においては、「がんばろう。日本　若い力で西日本から全国へ」の横幕を掲げ、東日本大震災への募金活動を行いました。そこで集まった募金と大会への協賛金から合計309,935円を11月12日に(財)日本ソフトボール協会を通じて被災地に送りました。ご協力に感謝し、ここにご報告させていただきます。

第12回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成23年４月23日(土)～24日(日)

会場：群馬県安中市・松井田町／横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場他

【男子】
予選リーグ戦

横川LEAG	高　経	城　西	関　学	信　州
高崎経済		● ７－８	● １－９	○ ３－１
城　西	○ ８－７		○ ６－５	● ５－６
関東学園	○ ９－１	● ５－６		△ ４－４
信　州	● １－３	○ ６－５	△ ４－４	

碓氷LEAG	千　葉	山　梨	東　海	都留文
千　葉		○ ８－７	● １－６	△ ８－８
山梨学院	● ７－８		● １－９	● ３－８
東　海	○ ６－１	○ ９－１		○ ４－３
都留文科	△ ８－８	○ ８－３	● ３－４	

順位決定戦

◇１～２位決定戦：城西大学２－５東海大学　　◇３～４位決定戦：関東学園大学10－１都留文科大学

◆５～６位決定戦：信州大学１－10千葉大学　　◆７～８位決定戦：高崎経済大学４－７山梨学院大学

【女子】

チーム	松　本	新島学園	城　西	関東学園	山梨学院	東　海	勝	分	敗	順　位
松　本		●０－４	●３－５	○９－１	○１－０	●３－４	２	０	３	５位
新島学園	○４－０		●１－10	●０－６	○３－２	●１－９	２	０	３	４位
城　西	○５－３	○10－１		△３－３	●４－５	○９－４	３	１	１	優勝
関東学園	●１－９	○６－０	△３－３		○５－４	●３－５	２	１	２	３位
山梨学院	●０－１	●２－３	○５－４	●４－５		○３－２	２	０	３	６位
東　海	○４－３	○９－１	●４－９	○５－３	●２－３		３	０	２	２位

※順位は大会規定による

【最終結果】(男子／女子)

優　勝：東 海 大 学／城 西 大 学　　第５位：千 葉 大 学／松 本 大 学

準優勝：城 西 大 学／東 海 大 学　　第６位：信 州 大 学／山梨学院大学

第３位：関東学園大学／関東学園大学　　第７位：山梨学院大学／

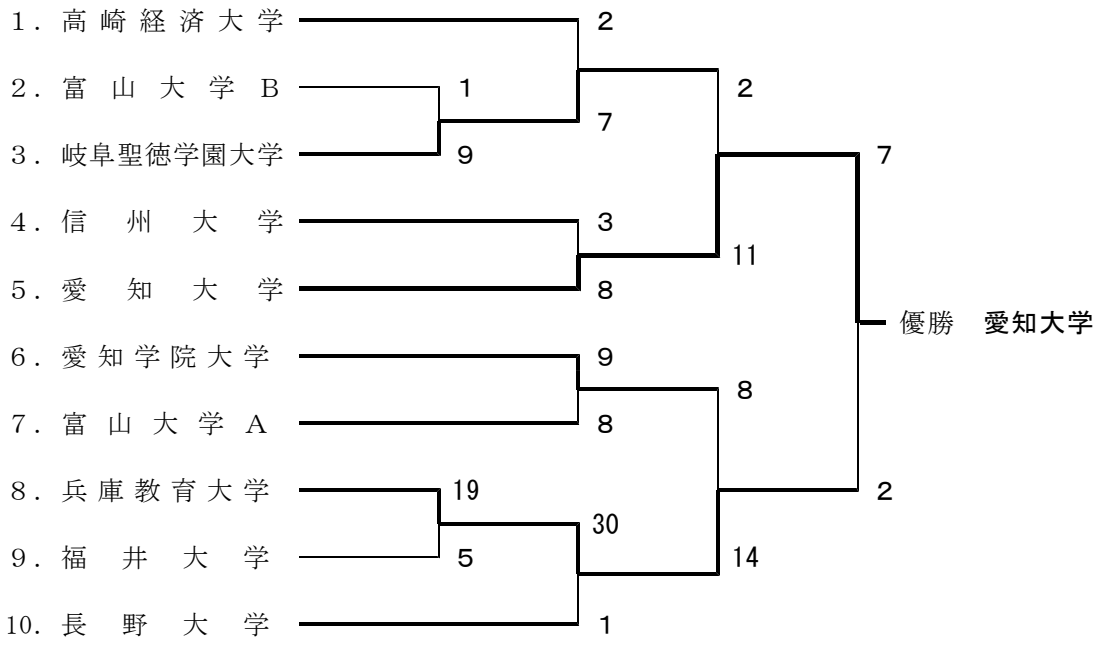
第４位：都留文科大学／新島短期大学　　第８位：高崎経済大学／

第８回　北信越大学オープンソフトボール大会

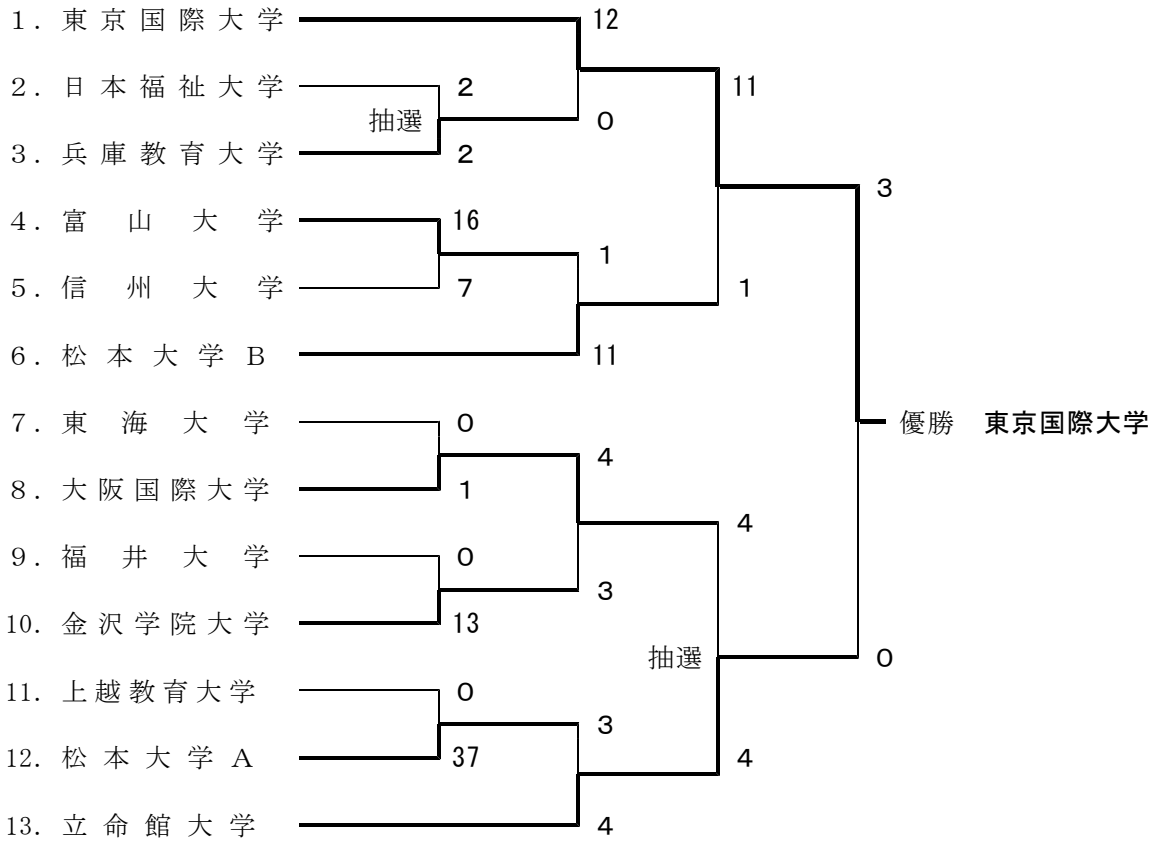
会期：平成23年７月９日(土)～10日(日)

会場：長野県飯綱町／ふれあいパーク運動場・野球場

【男子】



【女子】

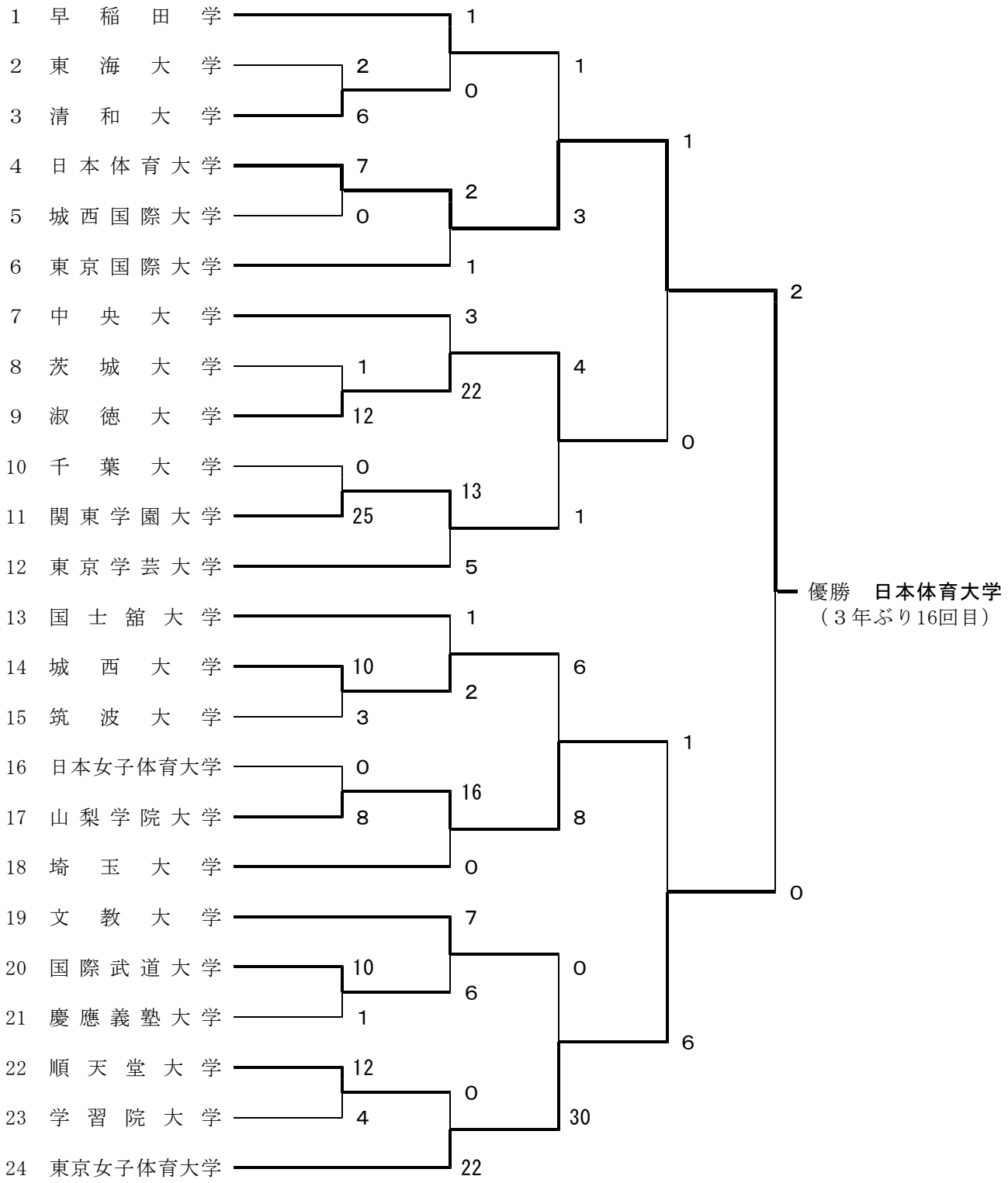


第42回関東大学男女ソフトボール選手権大会

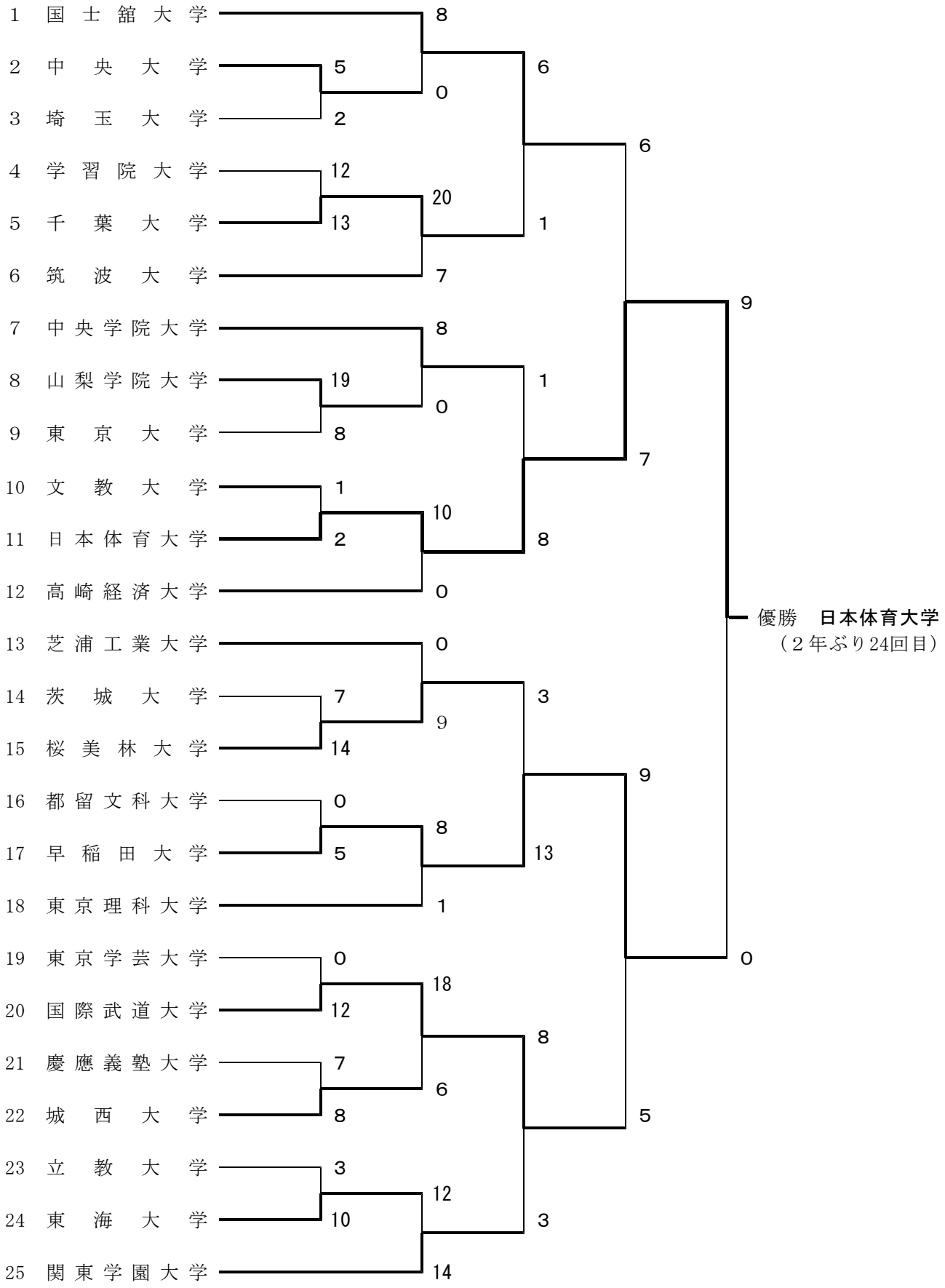
会期：平成23年10月29日(土)～31日

会場：埼玉県坂戸市／市民運動公園軟式野球場他

【女子】



【男子】


1 国士舘大学
2 中央大学
3 埼玉大学
4 学習院大学
5 千葉大学
6 筑波大学
7 中央学院大学
8 山梨学院大学
9 東京大学
10 文教大学
11 日本体育大学
12 高崎経済大学
13 芝浦工業大学
14 茨城大学
15 桜美林大学
16 都留文科大学
17 早稲田大学
18 東京理科大学
19 東京学芸大学
20 国際武道大学
21 慶應義塾大学
22 城西大学
23 立教大学
24 東海大学
25 関東学園大学
8
5
0
2
6
12
20
13
1
7
6
8
19
1
0
8
9
1
10
2
8
0
7
0
3
9
14
9
0
8
5
13
1
0
18
12
8
7
6
8
5
3
12
10
3
14
優勝 日本体育大学
（２年ぶり24回目）

藤原初男杯
大学・実業団交流ソフトボール第３回秋季東海オープン大会

会期：平成23年11月20日（日）

会場：豊田市／総合運動公園ソフトボール場他

Aグループ	織　機	淑　徳	大　谷	東　院	ミナモ	ＩＰＵ	日　体	鈴　鹿	勝	分	敗	順
豊田織機			○ 10－1			○ 5－2			2	0	0	－
淑　　徳				○ 8－1	● 0－5				1	0	1	－
大阪大谷	● 1－10							● 1－8	0	0	2	－
東海学院		● 1－8					● 3－7		0	0	2	－
大垣ミナモ		○ 5－0					● 2－10		1	0	1	－
環太平洋	● 2－5							● 6－8	0	0	2	－
日本体育				○ 7－3	○ 10－2				2	0	0	－
鈴鹿国際			○ 8－1			○ 8－6			2	0	0	－

Bグループ	DENSO	国　際	福　祉	東　園	トヨタ	松　本	園　田	中　京	勝	分	敗	順
デンソー			○ 5－3			○ 7－0			2	0	0	－
大阪国際				△ 0－0	● 0－5				0	1	1	－
東北福祉	● 3－5							△ 2－2	0	1	1	－
東海学園		△ 0－0					● 0－2		0	1	1	－
トヨタ		○ 5－0					○ 6－3		2	0	0	－
松　　本	● 0－7							● 2－3	0	0	2	－
園田学園				○ 2－0	● 3－6				1	0	1	－
中　　京		△ 2－2				○ 3－2			1	1	0	－

※表の空欄は19日実施予定で雨天のため実施できなかった試合である。そのため本年度は順位を決定できなかった。

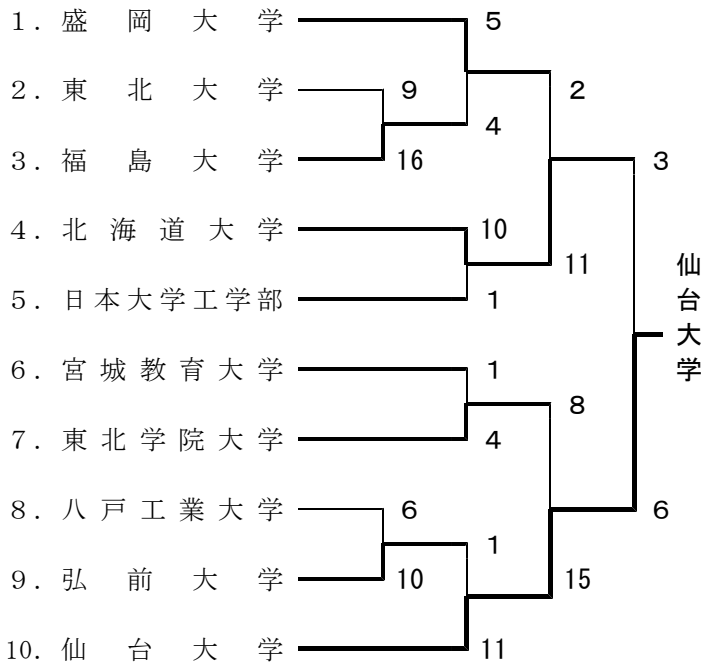
【北海道東北地区】

第32回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第46回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

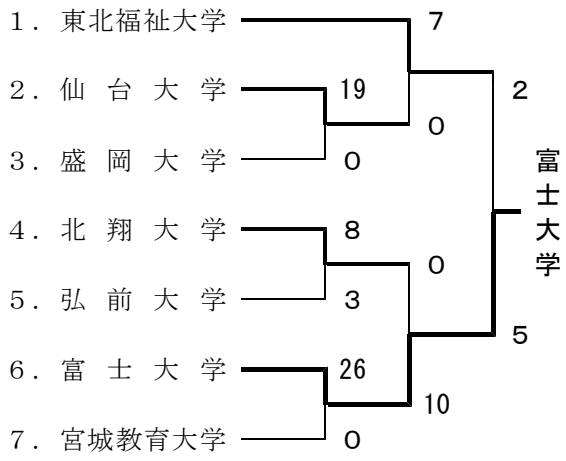
会期：平成23年５月21日(土)～22日(日)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

男子選手権



女子選手権



女子インカレ出場は、東北福祉大学（９年連続９回目）と富士大学（２年連続７回目）

男子インカレ出場は、仙台大学（６年連続25回目）と北海道大学（初）

2011年度　東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成23年10月15日(土)・16日(日)、22日(土)・23日(日)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷町石鳥谷ふれあい運動公園

【男子】15日が雨天のため、16日に順延したが、16日も朝方の雨で開始が遅れ、全ての試合を消化できなかった。

Aﾌﾞﾛｯｸ	弘　前	宮　教	仙　台	福　島
弘　前		● ３－８	中止	○ ７－４
宮城教育	○ ８－３		中止	中止
仙　台	中止	中止		○ 14－３
福　島	● ４－７	中止	● ３－14	

Bﾌﾞﾛｯｸ	盛　岡	東　北	東　学	日　工
盛　岡		○ 11－２	○ ８－０	中止
東　北	● ２－11		中止	中止
東北学院	● ０－８	中止		● ０－７
日大工学	中止	中止	○ ７－０	

【女子】

・予選リーグ戦

Aﾌﾞﾛｯｸ	弘　前	盛　岡	東　福	順
弘　　前		○ 15－4	● 0－9	2
盛　　岡	● 4－15		● 0－16	3
東北福祉	○ 9－0	○ 16－0		1

Bﾌﾞﾛｯｸ	富　士	宮　教	仙　台	順
富　　士		○ 7－0	○ 11－0	1
宮城教育	● 0－7		● 1－5	3
仙　　台	● 0－11	○ 5－1		2

・５～６位決定戦

盛　岡　大 ― 8
　　盛岡大
宮城教育大 ― 3

・３～４位決定戦

仙　台　大 ― 13
　　仙台大
弘　前　大 ― 0

・１～２位決定戦

東北福祉大 ― 6
　　東北福祉大
富　士　大 ― 3

【関東地区】　第６回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成23年５月３日(火)～５日(木)･14日(土)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド　他

Ⅰ部リーグ

チーム	関東学園	城　西	高崎経済	東　海	東海理科	国際武道	勝	分	敗	順　位
関東学園		○９－７	●２－10	○５－２	●４－７	●４－５	2	0	3	３位
城　　西	●７－９		●２－５	○13－10	●９－10	○５－４	2	0	3	５位
高崎経済	○10－２	○５－２		△７－７	●３－12	○４－３	3	1	1	２位
東　　海	●２－６	●10－13	△７－７		●１－８	●４－７	0	1	4	６位
東海理科	○７－４	○10－９	○12－３	○８－１		○４－２	5	0	0	優勝
国際武道	○５－４	●４－５	●３－４	○７－４	●２－４		2	0	3	４位

※３位～５位の順位は、リーグ規約に基づき当該２試合の得失点差により決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	埼　玉	文　教	千　葉	山梨学院	中央学院	都留文科	勝	分	敗	順　位
埼　　玉		●４－10	○13－10	●６－８	●０－15	○16－７	2	0	3	４位
文　　教	○10－４		●６－13	○15－６	●９－13	○６－４	3	0	2	３位
千　　葉	●10－13	○13－６		○10－４	○10－０	○１－０	4	0	1	１位
山梨学院	○８－６	●６－15	●４－10		●１－９	●５－10	1	0	4	６位
中央学院	○15－０	○13－９	●０－10	○９－１		○５－１	4	0	1	２位
都留文科	●７－16	●４－６	●０－１	○10－５	●１－５		1	0	4	５位

※１位２位と５位６位の順位はリーグ規約により、当該チーム間の勝敗で決定。

Ⅲ部リーグ

・予選リーグ戦

A	筑　波	茨　城	芝　工	都留文	順
筑　波		● 3－10	○ 21－9	● 10－13	2
茨　城	○ 10－3		○ 10－3	○ 14－7	1
芝浦工業	● 9－21	● 3－10		○ 14－7	3
大東文化	○ 13－10	● 7－14	● 7－14		4

B	日大生資	日大生産	東京国際	順
日大生資		△10－10 ●8－18	○14－10 ●7－15	2
日大生産	△10－10 ○18－8		○23－13 ○21－12	1
東京国際	●10－14 ○15－7	●13－23 ●12－21		3

※２位～４位の順位決定はリーグ規約に基づき、当該２試合の得失点差により決定。

・５～６位決定戦

芝浦工業大 ― 9 ― 芝浦工業大
東京国際大 ― 7

・３～４位決定戦

筑 波 大 ― 12 ― 筑波大
日大生物資源科学部 ― 0

・１～２位決定戦

茨　城　大 ― 6 ― 茨城大
日大生産工学部 ― 3

※大東文化大は７位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦　東 海 大 学（Ⅰ部６位）　10－１　千葉大学（Ⅱ部１位）　※東海大学はⅠ部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦　山梨学院大学（Ⅱ部６位）　10－８　茨城大学（Ⅲ部１位）　※山梨学院大学はⅡ部残留

第６回関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成23年５月３日（火）～５日（木）・14日（土）
会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク他

Ⅰ部リーグ

チーム	山梨学院	関東学園	城　西	東　海	淑　徳	清　和	勝	分	敗	順　位
山梨学院		○５－０	●１－６	○７－０	○４－２	○８－０	4	0	1	２位
関東学園	●０－５		△１－１	○11－１	●０－９	○６－０	2	1	2	３位
城　西	○６－１	△１－１		○４－１	○５－４	○７－０	4	1	0	優勝
東　海	●０－７	●１－11	●１－４		△７－７	○７－０	1	1	3	５位
淑　徳	●２－４	○９－０	●４－５	△７－７		●１－２	1	1	3	４位
清　和	●０－８	●０－６	●０－７	●０－７	○２－１		1	0	4	６位

※４位５位の順位は、リーグ規約に基づき得失点差により決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	東京国際	新島学園	城西国際	順 天 堂	国際武道	文　　教	勝	分	敗	順　位
東京国際		○５－０	○７－０	○11－３	●２－４	○７－２	４	０	１	１位
新島学園	●０－５		○３－２	○４－１	○６－３	○４－３	４	０	１	３位
城西国際	●０－７	●２－３		○９－３	●１－７	○９－２	２	０	３	４位
順 天 堂	●３－11	●１－４	●３－９		●２－12	●３－５	０	０	５	６位
国際武道	○４－２	●３－６	○７－１	○12－２		○14－３	４	０	１	２位
文　　教	●２－７	●３－４	●２－９	○５－３	●３－14		１	０	４	５位

※１位～３位の順位はリーグ規約に基づき当該２試合の得失点差により決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	筑　　波	千　　葉	埼　　玉	茨　　城	日大生資	勝	分	敗	順　位
筑　　波		○10－０	○18－０	○９－１	○36－０	４	０	０	１位
千　　葉	●０－10		○９－２	△５－５	○17－７	２	１	１	２位
埼　　玉	●０－18	●２－９		●11－12	○11－９	１	０	３	４位
茨　　城	●１－９	△５－５	○12－11		○11－８	２	１	１	３位
日大生資	●０－36	●７－17	●９－11	●８－11		０	０	４	５位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦　清和大学（Ⅰ部６位）　１－８　東京国際大学（Ⅱ部１位）　※東京国際大学はⅠ部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦　**順天堂**大学（Ⅱ部６位）　４－１　筑波大学（Ⅲ部１位）　※順天堂大学はⅡ部残留

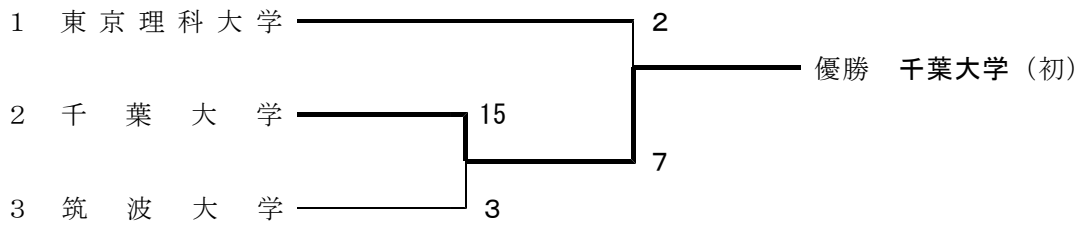
第19回関東学生ソフトボール選手権大会
兼　第46回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

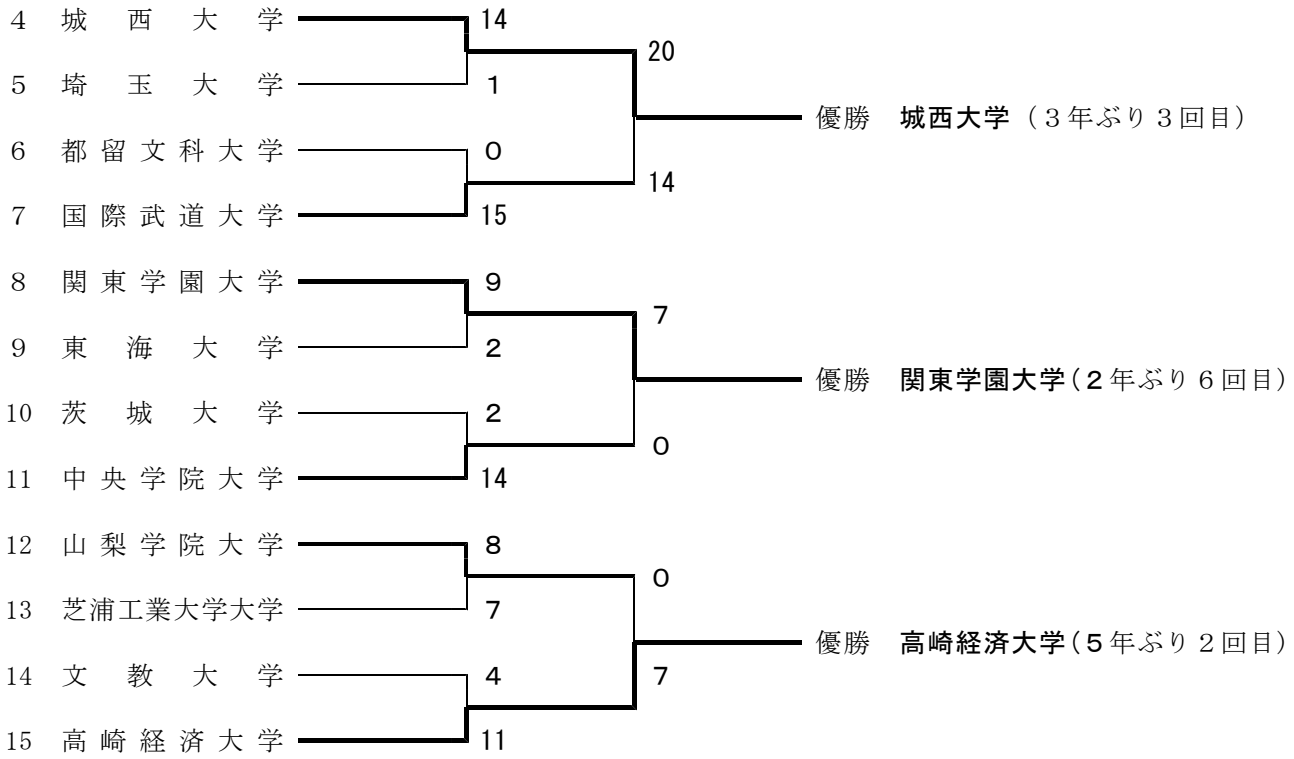
会期：平成23年５月28日（土）

会場：埼玉県坂戸市／市民運動公園、鶴ヶ島市／運動公園

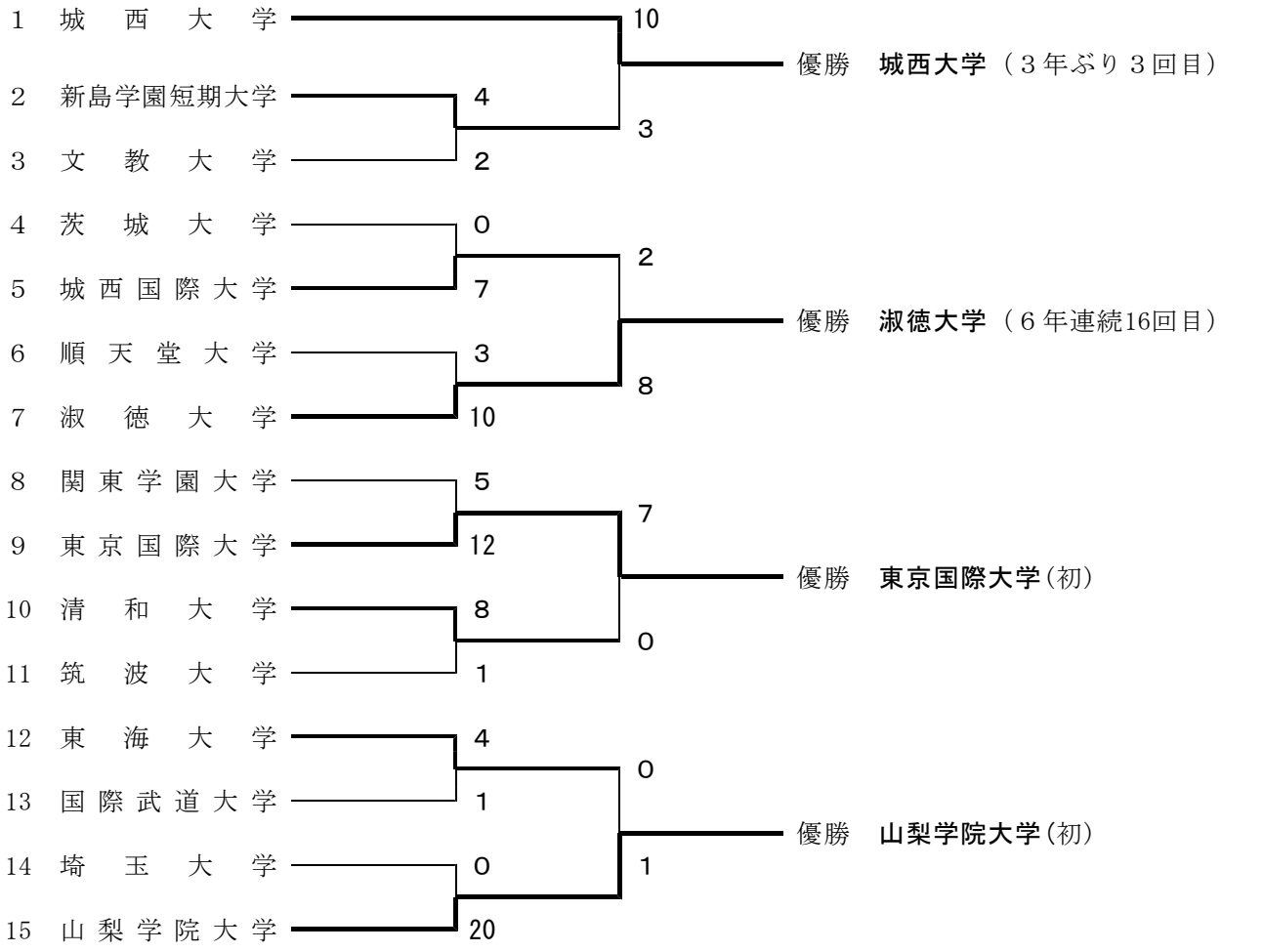
大会２日目以降が天候不順のため中止となり、４チームが同率優勝となりました。また、８月27～29日に山口県宇部市で開催される第46回全日本大学ソフトボール選手権大会への出場権は、この４チームが獲得しました。

【男子の部】




4 城 西 大 学
5 埼 玉 大 学
6 都 留 文 科 大 学
7 国 際 武 道 大 学
8 関 東 学 園 大 学
9 東 海 大 学
10 茨 城 大 学
11 中 央 学 院 大 学
12 山 梨 学 院 大 学
13 芝浦工業大学大学
14 文 教 大 学
15 高 崎 経 済 大 学
14
1
0
15
9
2
2
14
8
7
4
11
20
14
7
0
0
7
優勝 城西大学（３年ぶり３回目）
優勝 関東学園大学（２年ぶり６回目）
優勝 高崎経済大学（５年ぶり２回目）

【女子の部】


1 城 西 大 学
2 新島学園短期大学
3 文 教 大 学
4 茨 城 大 学
5 城 西 国 際 大 学
6 順 天 堂 大 学
7 淑 徳 大 学
8 関 東 学 園 大 学
9 東 京 国 際 大 学
10 清 和 大 学
11 筑 波 大 学
12 東 海 大 学
13 国 際 武 道 大 学
14 埼 玉 大 学
15 山 梨 学 院 大 学
4
2
0
7
3
10
5
12
8
1
4
1
0
20
10
3
2
8
7
0
1
優勝 城西大学（３年ぶり３回目）
優勝 淑徳大学（６年連続16回目）
優勝 東京国際大学(初)
優勝 山梨学院大学(初)

第11回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成23年10月８日(土)～10日(月)・15日(土)

会場：東松山市／駒形公園ソフトボール場、毛呂山町／西戸グラウンド　他

Ⅰ部リーグ

チーム	東京理科	高崎経済	関東学園	国際武道	城　西	東　海	勝	分	敗	順　位
東京理科		●６－７	△５－５	●３－９	○６－５	●１－４	1	1	3	４位
高崎経済	○７－６		○５－０	○８－６	○６－５	○８－２	5	0	0	優勝
関東学園	△５－５	●０－５		○10－８	●２－５	●０－４	1	1	3	５位
国際武道	○９－３	●６－８	●８－10		●２－９	●５－９	1	0	4	６位
城　西	●５－６	●５－６	○５－２	○９－２		○３－２	3	0	2	２位
東　海	○４－１	●２－８	○４－０	○９－５	●２－３		3	0	2	３位

※２～３位、４～５位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	千　葉	中央学院	文　教	埼　玉	都留文科	山梨学院	勝	分	敗	順　位
千　葉		△１－１	●７－８	○10－８	○17－１	○23－４	3	1	1	２位
中央学院	△１－１		○15－４	●２－12	○５－０	○11－３	3	1	1	３位
文　教	○８－７	●４－15		●７－15	○５－４	○20－０	3	0	2	４位
埼　玉	●８－10	○12－２	○15－７		○16－５	○７－１	4	0	1	１位
都留文科	●１－17	●０－５	●４－５	●５－16		△５－５	0	1	4	５位
山梨学院	●４－23	●３－11	●０－20	●１－７	△５－５		0	1	4	６位

※２～３位、５～６位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	茨　城	日大生産	筑　波	日大生資	芝浦工業	東京国際	勝	分	敗	順　位
茨　城		○12－５	○５－３	○５－４	●４－８	○27－３	4	0	1	１位
日大生産	●５－12		●６－15	●10－12	●18－19	●18－21	0	0	5	６位
筑　波	●３－５	○15－６		○10－９	△３－３	△13－13	2	2	1	２位
日大生資	●４－５	○12－10	●９－10		○18－８	○20－８	3	0	2	３位
芝浦工業	○８－４	○19－18	△３－３	●８－18		●３－10	2	1	2	５位
東京国際	●３－27	○21－18	△13－13	●８－20	○10－３		2	1	2	４位

※２～３位、４～５位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅰ部Ⅱ部入替戦　国際武道大学（Ⅰ部６位）　６－５　埼玉大学（Ⅱ部１位）　※国際武道大学はⅠ部残留
Ⅱ部Ⅲ部入替戦　山梨学院大学（Ⅱ部６位）　16－８　茨城大学（Ⅲ部１位）　※山梨学院大学はⅡ部残留

第11回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成23年10月８日（土）～10日（月）・15日（土）
会場：東松山市／駒形公園ソフトボール場、毛呂山町／西戸グラウンド　他

Ⅰ部リーグ

チーム	城　西	山梨学院	関東学園	淑　徳	東　海	東京国際	勝	分	敗	順　位
城　西		●０－２	△２－２	●２－３	○３－１	△２－２	1	2	2	３位
山梨学院	○２－０		○３－０	○13－０	○10－３	○４－２	5	0	0	優勝
関東学園	△２－２	●０－３		○８－１	●１－４	△３－３	1	2	2	４位
淑　徳	○３－２	●０－13	●１－８		○７－１	○４－１	3	0	2	２位
東　海	●１－３	●３－10	○４－１	●１－７		●２－５	1	0	4	６位
東京国際	△２－２	●２－４	△３－３	●１－４	○５－２		1	2	2	５位

※３～５位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	清　和	国際武道	新島学園	城西国際	文　教	順天堂	勝	分	敗	順　位
清　和		○５－４	○５－４	○10－２	○14－２	○11－０	5	0	0	１位
国際武道	●４－５		●４－５	○７－２	○10－２	○20－０	3	0	2	３位
新島学園	●４－５	○５－４		●５－７	○９－１	○15－３	3	0	2	２位
城西国際	●２－10	●２－７	○７－５		●５－13	○５－１	2	0	3	４位
文　教	●２－14	●２－10	●１－９	○13－５		●２－６	1	0	4	６位
順天堂	●０－11	●０－20	●３－15	●１－５	○６－２		1	0	4	５位

※２～３位、５～６位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	筑　波	千　葉	茨　城	埼　玉	日大生資	勝	分	敗	順　位
筑　波		○14－２	○７－６	○15－１	○18－０	4	0	0	１位
千　葉	●２－14		●３－７	○12－５	○８－５	2	0	2	３位
茨　城	●６－７	○７－３		○11－０	○７－０	3	0	1	２位
埼　玉	●１－15	●５－12	●０－11		○６－５	1	0	3	４位
日大生資	●０－18	●５－８	●０－７	●５－６		0	0	4	５位

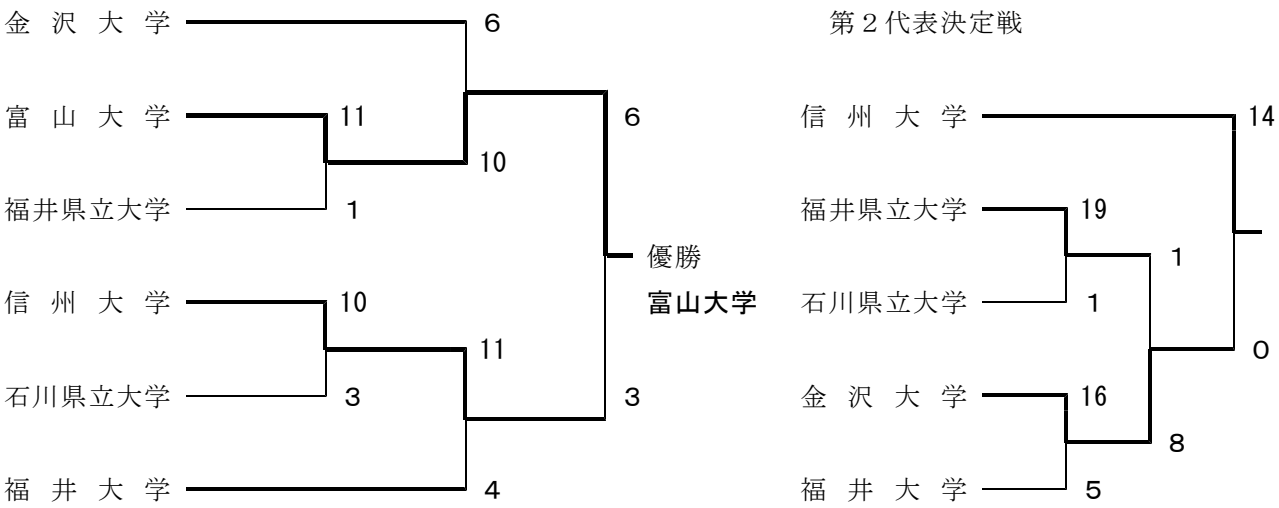
Ⅰ部Ⅱ部入替戦　**東海**大学（Ⅰ部６位）　１－７　清和大学（Ⅱ部１位）　※清和大学はⅠ部昇格
Ⅱ部Ⅲ部入替戦　文教大学（Ⅱ部６位）　11－３　筑波大学（Ⅲ部１位）　※文教大学はⅡ部残留

【北信越地区】

第17回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
（兼、文部科学大臣杯第46回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会）

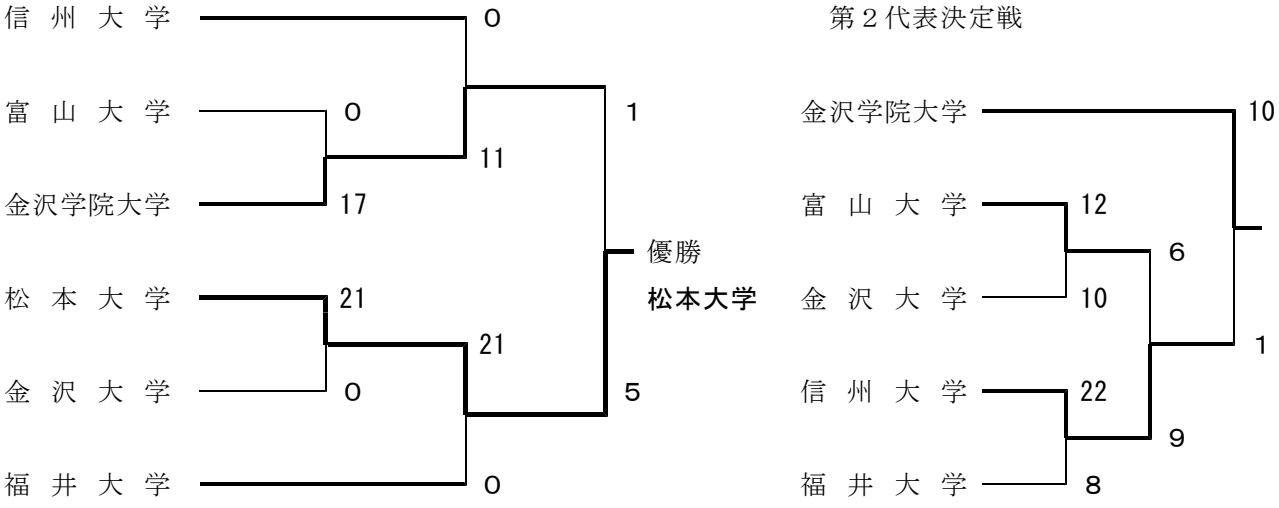
会　期：平成23年５月21日（土）・22日（日）
会　場：福井県越前市／武生東運動公園ソフトボール場

【男子】



※大学選手権大会出場権獲得校：富山大学（３年連続13回目）、信州大学（３年ぶり７回目）

【女子】

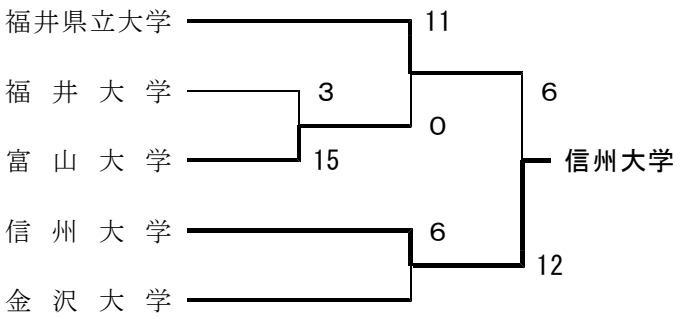


※大学選手権大会出場権獲得校：松本大学（６年連続６回目）、金沢学院大学（２年連続２回目）

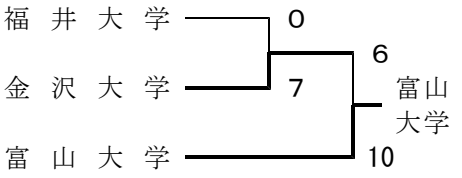
第18回北信越大学新人ソフトボール選手権大会

会期：平成23年９月10日(土)・11日(日)
会場：福井県大野市／奥越ふれあい公園

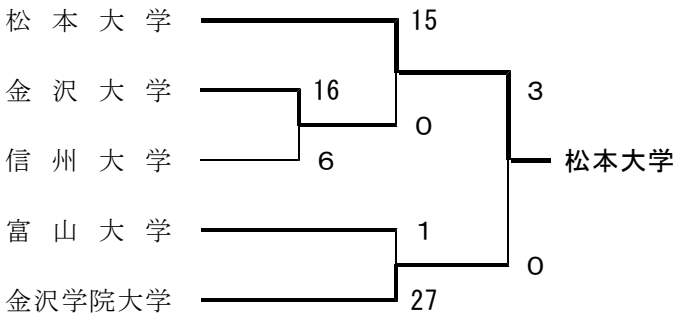
【男子】



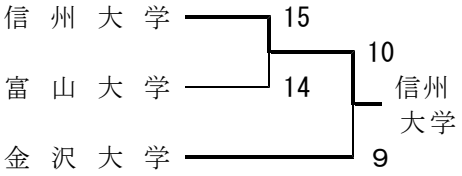
３位決定戦



【女子】



３位決定戦



【東京地区】

平成23年度第45回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子１部

チーム	日本体育	早稲田	国士舘	慶應義塾	学習院	中央	勝	分	敗	順位
日本体育		○６－１	○５－２	○15－１	○11－１	○９－０	5	0	0	優勝
早稲田	●１－６		○５－３	○10－１	○16－１	○18－１	4	0	1	２位
国士舘	●２－５	●３－５		○20－１	○３－１	○７－０	3	0	2	３位
慶應義塾	●１－15	●１－10	●１－20		○７－０	○９－８	2	0	3	４位
学習院	●１－11	●１－16	●１－３	●０－７		○14－７	1	0	4	５位
中央	●０－９	●１－18	●０－７	●８－９	●７－14		0	0	5	６位

男子２部

チーム	桜美林	明　治	成　蹊	専　修	立　教	東京学芸	勝	分	敗	順　位
桜美林		○９－３	●４－５	○19－10	○18－６	○11－３	４	０	１	１位
明　治	●３－９		○６－０	○18－３	○６－５	○８－５	４	０	１	２位
成　蹊	○５－４	●０－６		●９－10	○12－０	○９－５	３	０	２	３位
専　修	●10－19	●３－18	○10－９		○11－10	●７－14	２	０	３	４位
立　教	●６－18	●５－６	●０－12	●10－11		○10－８	１	０	４	５位
東京学芸	●３－11	●５－８	●５－９	○14－７	●８－10		１	０	４	６位

※１位と２位、及び５位と６位は直接対決の勝敗による。

男子３部

チーム	東　京	東　洋	東京都市	東京農業	文教湘南	日　本	勝	分	敗	順　位
東　京		○22－５	○６－１	○５－１	○11－３	●８－10	４	０	１	１位
東　洋	●５－22		○５－２	○12－４	●３－８	○13－12	３	０	２	２位
東京都市	●１－６	●２－５		○12－６	○８－０	○11－５	３	０	２	３位
東京農業	●１－５	●４－12	●６－12		○15－９	○21－７	２	０	３	４位
文教湘南	●３－11	○８－３	●０－８	●９－15		○６－４	２	０	３	５位
日　本	○10－８	●12－13	●５－11	●７－21	●４－６		１	０	４	６位

※２位と３位、及び４位と５位は直接対決の勝敗による。

男子４部

チーム	ＩＣＵ	帝　京	明　星	勝	分	敗	順　位
国際基督教		○７－６	○11－８	２	０	０	１位
帝　京	●６－７		○５－３	１	０	１	２位
明　星	●８－11	●３－５		０	０	２	３位

男子入れ替え戦

１部－２部　中央大学（１部６位）　６－１　桜美林大学（２部１位）

※中央大学は１部残留

２部－３部　東京学芸大学（２部６位）　３－７　東京大学（３部１位）

※東京大学は２部昇格、東京学芸大学は３部降格

３部－４部　日本大学（３部６位）　19－９　国際基督教大学（４部１位）

※日本大学は３部残留

女子１部

チーム	日本体育	東京女体	早稲田	国士舘	日本女体	明治	勝	分	敗	順位
日本体育		○４－０	●４－５	○４－０	○12－０	○40－０	4	0	1	優勝
東京女体	●０－４		○２－０	○８－１	○８－０	○12－２	4	0	1	２位
早稲田	○５－４	●０－２		○７－０	○３－１	○９－１	4	0	1	３位
国士舘	●０－４	●１－８	●０－７		○５－１	○25－０	2	0	3	４位
日本女体	●０－12	●０－８	●１－３	●１－５		○12－２	1	0	4	５位
明治	●０－40	●２－12	●１－９	●０－25	●２－12		0	0	5	６位

※１位～３位は失点率による。

女子２部

チーム	東京学芸	慶応義塾	中央	専修	桜美林	学習院	勝	分	敗	順位
東京学芸		○28－０	○６－１	○５－２	○13－４	○35－０	5	0	0	１位
慶応義塾	●０－28		○７－０	○10－０	○４－３	○８－６	4	0	1	２位
中央	●１－６	●０－７		○８－４	●２－５	○11－０	2	0	3	３位
専修	●２－５	●０－10	●４－８		○15－８	○５－４	2	0	3	４位
桜美林	●４－13	●３－４	○５－２	●８－15		○21－１	2	0	3	５位
学習院	●０－35	●６－８	●０－11	●４－５	●１－21		0	0	5	６位

※３位～５位は失点率による。

女子３部

チーム	東洋	成蹊	日本	創価	実践女子	ＩＣＵ	勝	分	敗	順位
東洋		○20－２	○15－１	○21－８	●５－７	○12－３	4	0	1	１位
成蹊	●２－20		○８－３	△17－17	○７－０	○19－７	3	1	1	２位
日本	●１－15	●３－８		○６－２	○13－４	○17－０	3	0	2	３位
創価	●８－21	△17－17	●２－６		○７－０	○12－４	2	1	2	４位
実践女子	○７－５	●０－７	●４－13	●０－７		○22－０	2	0	3	５位
国際基督教	●３－12	●７－19	●０－17	●４－12	●０－22		0	0	5	６位

女子入れ替え戦

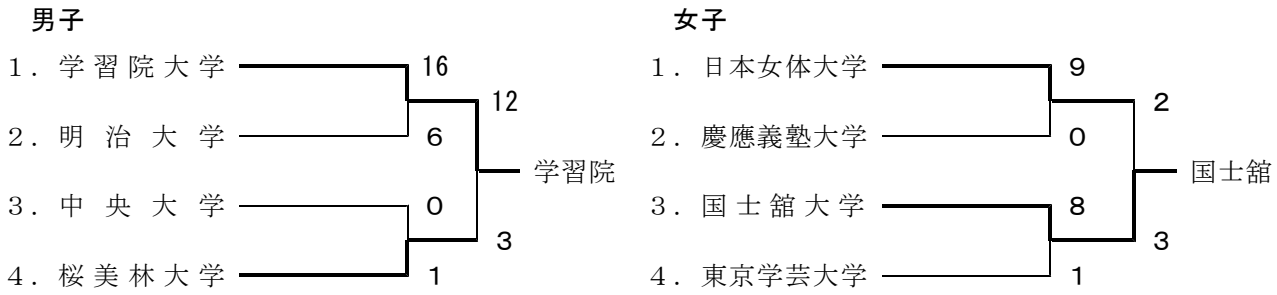
１部－２部　明治大学（１部６位）　０－４　東京学芸大学（２部１位）

※東京学芸大学は１部昇格　明治大学は２部降格

２部－３部　学習院大学（６位）　５－８　東洋大学（３部１位）

※東洋大学は２部昇格　学習院大学は３部降格

全日本全日本大学選手権大会東京都第２次予選



第46回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：日本体育大学、国士舘大学、早稲田大学、慶應義塾大学、学習院大学

女子：日本体育大学、東京女子体育大学、早稲田大学、国士舘大学

平成23年度第46回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子１部

チーム	日本体育	国士舘	学習院	早稲田	慶應義塾	中央	勝	分	敗	順位
日本体育		○12－５	○10－０	○９－１	○21－０	○20－９	５	０	０	優勝
国士舘	●５－12		○８－０	○８－４	○５－１	○12－２	４	０	１	２位
学習院	●０－10	●０－８		○５－３	○５－０	●13－15	２	０	３	３位
早稲田	●１－９	●４－８	●３－５		○５－０	○12－０	２	０	３	４位
慶應義塾	●０－21	●１－５	●０－５	●０－５		○８－７	１	０	４	５位
中央	●９－20	●２－12	○15－13	●０－12	●７－８		１	０	４	６位

※３位と４位、及び５位と６位は直接対決の勝敗による。

男子２部

チーム	明治	専修	成蹊	立教	東京	桜美林	勝	分	敗	順位
明治		○５－１	○７－１	○10－８	○15－５	○９－７	５	０	０	１位
専修	●１－５		○４－３	●６－８	○12－３	○７－６	３	０	２	２位
成蹊	●１－７	●３－４		●５－７	○８－４	○６－２	２	０	３	３位
立教	●８－10	○８－６	○７－５		●７－11	●２－21	２	０	３	４位
東京	●５－15	●３－12	●４－８	○11－７		○８－７	２	０	３	５位
桜美林	●７－９	●６－７	●２－６	○21－２	●７－８		１	０	４	６位

※３位～５位は失点率による。

男子３部

チーム	東京学芸	東　洋	東京都市	日　本	東京農業	文教湘南	勝	分	敗	順　位
東京学芸		○３－１	○７－３	○８－３	○13－３	○10－７	5	0	0	１位
東　洋	●１－３		○10－７	○９－８	●５－８	○24－０	3	0	2	２位
東京都市	●３－７	●７－10		○８－５	○12－３	○８－３	3	0	2	３位
日　本	●３－８	●８－９	●５－８		○８－５	○11－５	2	0	3	４位
東京農業	●３－13	○８－５	●３－12	●５－８		△４－４	1	1	3	５位
文教湘南	●７－10	●０－24	●３－８	●５－11	△４－４		0	1	4	６位

※２位と３位は直接対決の勝敗による。

男子４部

チーム	明　星	帝　京	ＩＣＵ	勝	分	敗	順　位
明　星		○４－２	○８－５	2	0	0	１位
帝　京	●２－４		○10－３	1	0	1	２位
国際基督教	●５－８	●３－10		0	0	1	３位

男子入れ替え戦

１部－２部　中央大学（１部６位）　18－２　明治大学（２部１位）

※中央大学は１部残留

２部－３部　桜美林大学（２部６位）　３－12　東京学芸大学（３部１位）

※東京学芸大学は２部昇格、桜美林大は３部降格

３部－４部

※来年度より３部と４部を統合するため、３部・４部入れ替え戦は実施せず。

女子１部

チーム	早稲田	日本体育	東京女体	国士舘	日本女体	東京学芸	勝	分	敗	順　位
早稲田		○２－１	○３－２	○３－０	○４－３	○７－０	5	0	0	優勝
日本体育	●１－２		○４－１	○13－０	○８－０	○２－１	4	0	1	２位
東京女体	●２－３	●１－４		○８－３	○９－０	○５－０	3	0	2	３位
国士舘	●０－３	●０－13	●３－８		○８－１	○10－５	2	0	3	４位
日本女体	●３－４	●０－８	●０－９	●１－８		○２－１	1	0	4	５位
東京学芸	●０－７	●１－２	●０－５	●５－10	●１－２		0	0	5	６位

女子２部

チーム	慶應義塾	中　央	桜美林	専　修	東　洋	明　治	勝	分	敗	順　位
慶應義塾		△３－３	○３－０	○６－５	○５－３	○８－２	4	1	0	１位
中　央	△３－３		○５－３	●０－４	○６－１	○７－６	3	1	1	２位
桜美林	●０－３	●３－５		△３－３	○４－０	○22－０	2	1	2	３位
専　修	●５－６	○４－０	△３－３		○５－２	●４－５	2	1	2	４位
東　洋	●３－５	●１－６	●０－４	●２－５		○４－３	1	0	4	５位
明　治	●２－８	●６－７	●０－22	○５－４	●３－４		1	0	4	６位

※３位と４位は失点率、５位と６位は直接対決の勝敗による。

女子３部

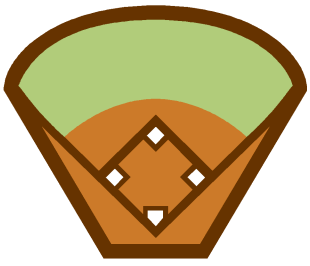
チーム	日　本	成　蹊	学習院	創　価	実践女	ＩＣＵ	駒　沢	勝	分	敗	順位
日　本		○５-４	○22-７	○18-２	○７-０	○15-５	○７-０	6	0	0	1
成　蹊	●４-５		○16-２	○７-６	○７-０	○８-３	○16-６	5	0	1	2
学習院	●７-22	●２-16		○８-４	○９-２	○18-３	○14-６	4	0	2	3
創　価	●２-18	●６-７	●４-８		○７-０	●２-８	○13-10	2	0	4	4
実践女子	●０-７	●０-７	●２-９	●０-７		○10-５	○７-６	2	0	4	5
国際基督教	●５-15	●３-８	●３-18	○８-２	●５-10		△７-７	1	1	4	6
駒　沢	●０-７	●６-16	●６-14	●10-13	●６-７	△７-７		0	1	5	7

※４位と５位は直接対決の勝敗による。

女子入れ替え戦

１部－２部　東京学芸大学（１部６位）８－１　慶應義塾（２部１位）　※東京学芸大学は１部残留

２部－３部　明治大学（２部６位）３－１　日本大学（３部１位）　※明治大学は２部残留



【東海地区】

東海テレビ杯

平成23年度春季第68回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

－兼、第46回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選－

－兼、第43回西日本大学ソフトボール選手権大会予選－

会期：平成23年４月30日、５月３・４・５日

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

一部リーグ戦

チーム	中京学院	中　京	岐阜聖徳	愛　知	愛知学院	日本福祉	勝	分	敗	失点率	順
中京学院		●４－５	○７－２	○２－１	○15－０	○７－１	4		1	1.58	2
中　京	○５－４		○６－０	○10－２	○10－３	○15－０	5		0	1.80	1
岐阜聖徳	●２－７	●０－６		●０－10	●10－12	○12－９	1		4	7.90	5
愛　知	●１－２	●２－10	○10－０		●４－６	○12－０	2		3	4.06	4
愛知学院	●０－15	●３－10	○12－10	○６－４		○８－１	3		2	9.66	3
日本福祉	●１－７	●０－15	●９－12	●０－12	●１－８		0		5	12.60	6

二部リーグ戦

チーム	中　部	愛知教育	南　山	名古屋商	名古屋	静　岡	勝	敗	失点率	順
中　部		●５－12	○11－６	●０－１	●６－12	○９－１	2	3	7.00	4
愛知教育	○12－５		●１－８	○14－12	●６－20	○11－１	3	2	10.50	3
南　山	●６－11	○８－１		●４－５	●４－10	●10－11	1	4	8.31	6
名古屋商	○１－０	●12－14	○５－４		●２－11	○13－10	3	2	8.53	2
名古屋	○12－６	○20－６	○10－４	○11－２		●16－19	4	1	8.35	1
静　岡	●１－９	●１－11	○11－10	●10－13	○19－16		2	3	17.45	5

※２～３位、４～５位はリーグ戦規定の失点率による。

三部リーグ戦

チーム	南　山	名　城	みずほ	東海学園	大　同	勝	分	敗	失点率	順
常葉学園		○15－８	○18－１	○18－０	○25－０	4		0	2.26	1
名　城	●８－15		●２－12	○15－２	○32－５	2		2	9.52	3
みずほ	●１－18	○12－２		○11－４	○20－０	3		2	7.00	2
東海学園	●０－18	●２－15	●４－11		○23－５	1		4	26.35	4
大　同	●０－25	●５－32	●０－20	●５－23		0		4	77.00	5

一部×二部入れ替え戦

岐阜聖徳学園大（５位）３－19名古屋商科大（２位）
※岐聖大二部降格、名商大一部昇格
日本福祉大（６位）３－11名古屋大（１位）
※日福大二部降格、名大一部昇格

二部×三部入れ替え戦

南山大（６位）１－８常葉学園大（１位）
※南山大三部降格、常葉大二部昇格

代表

第８回東海地域大学ソフトボール選手権大会（第46回インカレ最終予選）：
中京学院大・中京大・愛知学院大・愛知大・名古屋大・名古屋商科大・岐阜聖徳学園大・日本福祉大
第43回西日本大学ソフトボール選手権大会：
中京学院大・中京大・愛知学院大・愛知大・名古屋大・名古屋商科大

個人表彰選手

最優秀選手賞：和田　隆太（中京大学）
一部首位打者賞：飯田　啓（愛知大学）
記録６割６分７厘
一部打点賞：山田　将也（中京大学）
小池　昌弘（中京大学）
齋藤　紘輝（愛知学院大）
記録８
本塁打点賞：山田　将也（中京大学）
記録３
盗塁賞：芳川　祐輔（岐阜聖徳大）
記録７
一部最優秀防御率賞：望月　孝典（中京大学）
記録０．９５
二部優秀選手賞：細井　勇希（名古屋大学）
二部首位打者賞：細井　勇希（名古屋大学）
記録６割５分０厘
二部最優秀防御率賞：今井　貴晟（名古屋大学）
記録２．９４
三部優秀選手賞：市川　拓也（常葉学園大学）
三部首位打者賞：兼井　祐太（常葉学園大学）
記録８割０分０厘
三部最優秀防御率賞：平良　希（常葉学園大学）
記録０．７０
ベストスコアラー賞：長谷川仁美（日本福祉大学）
ベスト放送員賞：青木祐紀子（愛知大学）
ベストナイン
投手　片岡　涼（中京学院大学２年）
捕手　三浦　亮（中京学院大学４年）
一塁手：小池　昌弘（中京大学　３年）
二塁手：飯田　啓（愛知大学　３年）
三塁手：齋藤　紘輝（愛知学院大学２年）
遊撃手：山本　佑馬（中京大学　３年）
外野手：山下　治（中京学院大学１年）
外野手：江崎　良（中京学院大学２年）
外野手：山田　将也（中京大学　２年）
ＤＰＦＰ：和田　隆太（中京大学　２年）

講評　第２日の５月１日は雨で流したが、その後は新緑輝く薫風のもとでのリーグ戦となった。今季は、名古屋産業大は脱退したものの大同大学が新規加盟し、18チームが３部に分かれての戦いとなった（残念ながら、朝日大学は部員数不足のために不参加で三部は５チーム）。

一部リーグ戦は、前評判どおり、中京大学と中京学院大学の２強が安定した投手力を武器に危なげなく勝利を重ねて最終日の決戦となった。この試合、２点を先行された中京大学は３回に逆転しその裏追いつかれたものの６回に２点を挙げて突き放した。最終回に、１点差まで迫られたが辛うじて逃げ切って優勝を手中にした。他の４チームの実力は紙一重であったが、いずれも打高投低で、守備力、特に投手力の強化が望まれた。

二部リーグ戦はいつもの混戦となり、ノーガードの打ち合いで最終試合まで入れ替え戦出場校が決定しなかった。その中で、古豪名古屋大が二部を制してその勢いのまま入れ替え戦にも勝利して一部復帰を勝ち取った。新規加盟の大同大学を加えて５チームとなった三部リーグ戦は、常葉学園大学が格の違いを見せつけて優勝し、ようやく二部復帰を果たした。（東海地区大学ソフトボール連盟　水谷　博）

東海テレビ杯

平成23年度春季第57回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

－兼、第46回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選－

－兼、第43回西日本大学ソフトボール選手権大会予選－

会期：平成23年４月30日、５月３・４・５日

会場：愛知県幸田町／とぼね運動場・深溝運動場

一部リーグ戦

チーム	鈴鹿国際	東海学園	中　京	至学館	東海学院	日本福祉	勝	敗	失点率	順
鈴鹿国際		●０－７	●２－３	○８－１	○２－０	○４－０	3	2	2.29	3
東海学園	○７－０		○７－６	○７－０	●０－２	○８－０	4	1	1.70	1
中　京	○３－２	●６－７		○11－１	○10－０	○２－０	4	1	2.06	2
至学館	●１－８	●０－７	●１－11		●３－９	●０－２	0	5	9.14	6
東海学院	●０－２	○２－０	●０－10	○９－３		○３－２	3	2	3.76	4
日本福祉	●０－４	●０－８	●０－２	○２－０	●２－３		1	4	3.84	5

※１～２位、３～４位はリーグ戦規定の失点率による。

二部リーグ戦

チーム	中京学院	名古屋	静　岡	岐阜経済	愛知教育	常葉学園	浜　松	岐阜聖徳
中京学院		○７－１	○16－１	○６－１	＊	○12－５	＊	＊
名古屋	●１－７		●５－６	●３－10	＊	＊	＊	＊
静　岡	●１－16	○６－５		●２－20	＊	＊	＊	●２－５
岐阜経済	●１－６	○10－３	○20－２		○11－４	＊	＊	＊
愛知教育	＊	＊	＊	●４－11		△５－５	○10－０	○９－６
常葉学園	●５－12	＊	＊	＊	△５－５		○12－１	○４－１
浜　松	＊	＊	＊	＊	●０－10	●１－12		●０－11
岐阜聖徳	＊	＊	○５－２	＊	●６－９	●１－４	○11－０	

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。
※予選Ｂグループの１～２位はリーグ戦規定の失点率による。

二部最終成績：１位中京学院大学　２位常葉学園大学　３位岐阜経済大学　４位愛知教育大学
５位岐阜聖徳学園大学　６位静岡大学　７位名古屋大学　８位浜松大学

※７～８位はリーグ戦規定により、予選リーグ戦の失点率による。

一部×二部入れ替え戦

至学館大学(６位)３－４中京学院大学(１位)
※至学館大学二部降格、中京学院大一部昇格

日本福祉大学(５位)５－３常葉学園大学(２位)
※日本福祉大一部残留、常葉学園大学二部残留

代表

第８回東海地域大学ソフトボール選手権大会（第46回インカレ最終予選）：
東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・
東海学院大学・日本福祉大学・中京学院大学・
至学館大・常葉学園大学・

第43回西日本大学ソフトボール選手権大会：
東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・
東海学院大学・日本福祉大学・中京学院大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：結城　典子（東海学園大）
一部首位打者賞：相場　美穂（鈴鹿国際大）
記録７割７分８厘
一部打点賞：金子　歩惟（東海学園大）
金子　沙耶（東海学園大）
平松由梨香（中京大）
記録５
本塁打点賞：該当者なし
盗塁賞：該当者なし
一部最優秀防御率賞：柏木　菜奈（鈴鹿国際大）
記録１．６２
二部優秀選手賞：加藤ひかり（中京学院大）
二部首位打者賞：宮本　亜樹（中京学院大）
記録７割１分４厘
二部最優秀防御率賞：入野真由美（岐阜聖徳大）
記録２．６３
ベストスコアラー賞：杉田　華奈（鈴鹿国際大）
ベスト放送員賞：岡　菜菜美（中京大）
ベストナイン
投手　長谷川朋子（中京大学　２年）
捕手　新海真里奈（日本福祉大学２年）
一塁手：北林　彩（中京大学　４年）
二塁手：金子　歩惟（東海学園大学３年）
三塁手：村井　美穂（東海学園大学４年）
遊撃手：宮澤　早紀（鈴鹿国際大学３年）
外野手：相場　美穂（鈴鹿国際大学２年）
外野手：伊藤　莉乃（鈴鹿国際大学４年）
外野手：河合紗也香（中京大学　４年）
ＤＰＦＰ：栗田　杏奈（東海学院大学４年）

講評　春季リーグ戦は、第２日目以外は天候に恵まれ、予備日であった５月５日に無事終了することができた。リーグ戦を主管していただいた幸田町協会の皆さんに感謝申し上げます。

今回のリーグ戦では、昨年秋季に初優勝した鈴鹿国際大、新監督を迎えた東海学園大、インカレに26年連続出場中の伝統校・中京大の３強の優勝争いに、秋季４位・至学館大、５位・東海学院大、２部から昇格してきた日本福祉大の３チームがどこまで食い込むかが注目された。

初日は、鈴鹿国際大、東海学園大、中京大の３強が秋季の下位チームをそれぞれ完封し、ここ数年続いていた上位３チームと下位３チームの実力差を感じさせるスタートとなった。２日目には東海学園大が東海学院大にまさかの完封負けを喫した。３日目にはそれまで無敗であった鈴鹿国際大が中京大に逆転負けし、３強が共に１敗で並び、最終日を迎えた。最終日の第２試合で中京大が至学館大学に圧勝して１敗を守り、最終戦の鈴鹿国際大と東海学園大戦に優勝争いが持ち越された。最終戦では、初回に３点を入れた東海学園大が６回コールドゲームで鈴鹿国際大を下し、中京大と共に１敗で並び、失点率により東海学園大の２季ぶり７回目の優勝、中京大は準優勝となった。一部リーグ戦全体を見ると、最終戦まで優勝の行方が分からず、最後まで目が離せない非常に盛り上がったリーグ戦であった。なお、個人記録では、相場美穂選手が打率0.778でこれまでの最高打率0.750を約10年ぶりに更新し、ノーヒットノーランを達成した長谷川朋子投手が特筆される。

二部は中京学院大学が圧倒的な力で優勝した。入れ替え戦でも一部６位の至学館大学を接戦で制し、一季で一部復帰を果たした。二部準優勝の常葉学園大学は入れ替え戦では一部復帰は叶わなかったが、以前に一部で活躍していた頃の力を取り戻して来たように思われる。一部校の実力を上げることはもちろんのことであるが、今後一部と二部の実力が接近してくることが、東海地区全体のレベルを上昇させ、全国大会で活躍できるチームを育てることにつながると思う。（東海学連理事長　矢澤久史）

第８回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

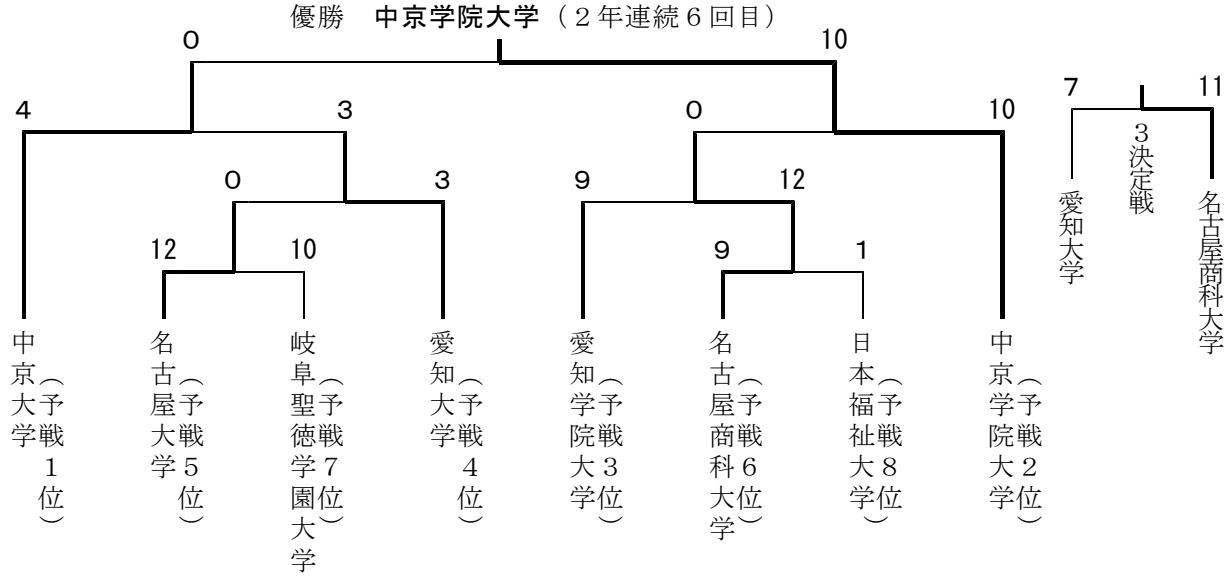
－兼、第46回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会－

会期：平成23年５月21日(土)、22日(日)

会場：亀山市関総合グラウンド（男子）

亀山市東野公園ソフトボール場・西野公園野球場（女子）

男子

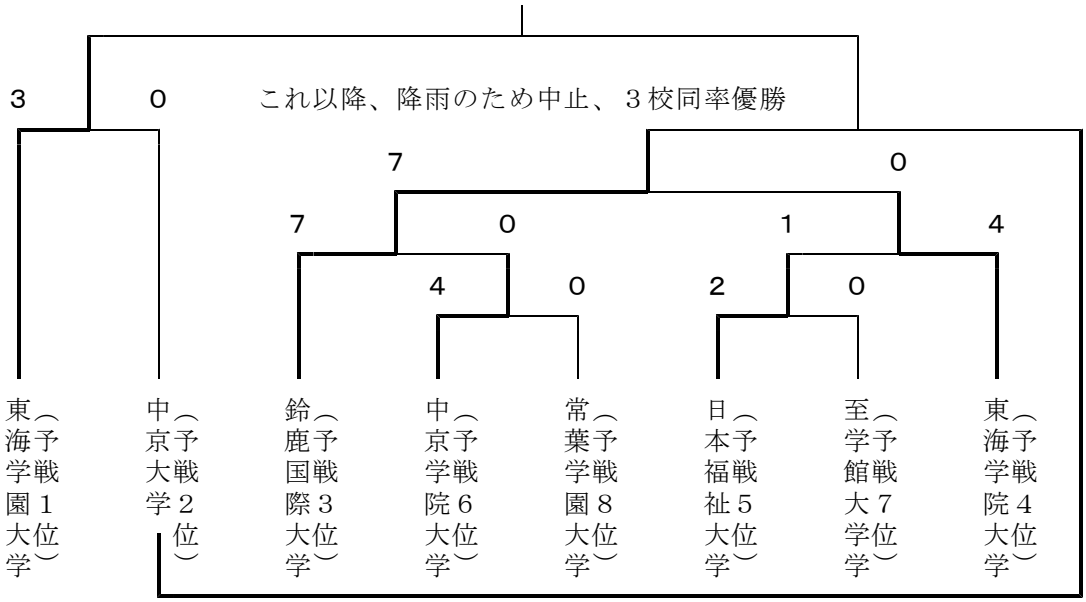


第46回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

・中京学院大学（７年連続８回目）
・中京大学（４年連続41回目）
・名古屋商科大学（初）
・愛知大学（２年ぶり19回目）

女子

東海学園大学(３年ぶり２回目)、**中京大学**(２年連続３回目)、**鈴鹿国際大学**(初)



第46回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

・中京大学（26年連続35回目）
・東海学園大学（３年連続９回目）
・鈴鹿国際大学（２年連続２回目）

東海テレビ杯

平成23年度秋季第69回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成23年10月８・23・29日、11月23・27日

会場：愛知県安城市／総合運動公園、刈谷市／亀城公園運動広場

一部リーグ戦

チーム	中京	中京学院	愛知学院	愛知	名古屋	名商	勝	分	敗	順位
中京		●２－３	○15－４	○２－１	○８－１	○９－０	4	0	1	２位
中京学院	○３－２		○12－４	○７－５	○11－１	○11－１	5	0	0	優勝
愛知学院	●４－15	●４－12		○４－３	○11－８	●６－10	2	0	3	４位
愛知	●１－２	●５－７	●３－４		○10－３	○７－０	2	0	3	３位
名古屋	●１－８	●１－11	●８－11	●３－10		●３－11	0	0	5	６位
名古屋商	●０－９	●１－11	○10－６	●０－７	○11－３		2	0	3	５位

※３～５位は当該チーム間の失点率による。

二部リーグ戦

チーム	岐阜聖徳	日本福祉	愛知教育	中部	静岡	常葉学園	勝	分	敗	順位
岐阜聖徳		○10－０	○９－６	○２－１	△12－12	●５－６	3	1	1	３位
日本福祉	●０－10		●５－12	○13－５	●０－８	○４－２	2	0	3	４位
愛知教育	●６－９	○12－５		●３－13	●３－12	●４－７	1	0	4	６位
中部	●１－２	●５－13	○13－３		●３－４	●０－８	1	0	4	５位
静岡	△12－12	○８－０	○12－３	○４－３		△７－７	3	2	0	１位
常葉学園	○６－５	●２－４	○７－４	○８－０	△７－７		3	1	1	２位

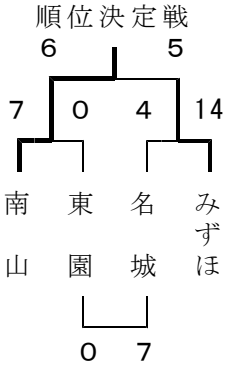
※２～３位、５～６位は直接対戦の結果による。

三部リーグ戦

予選ﾘｰｸﾞ	南山	みずほ	名城	東海学園	勝	敗	順
南山		●２－３	○15－12	○15－０	2	1	1
みずほ	○３－２		●14－16	○７－０	2	1	2
名城	●12－15	○16－14		○７－０	2	1	3
東海学園	●０－15	●０－７	●０－７		0	4	4

※１～３位は当該チーム間の失点率による。

順位決定戦



一部・二部入れ替え戦

名古屋商科大(５位)６－11常葉学園大(２位)

※常葉学園大一部昇格、名古屋商科大二部降格

名古屋大(６位)９－６静岡大(１位)

※名古屋大一部残留、静岡大二部残留

二部・三部入れ替え戦

愛知教育大（６位）０－６南山大（１位）

※南山大二部昇格、愛知教育大三部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：吉田　和史（中京学院大学）
一部首位打者賞：藤田　将和（愛知学院大学）
　　川原　　光（中京学院大学）
　　記録７割０分０厘
一部打点賞：藤田　将和（愛知学院大学）
　　記録９
本塁打賞：藤田　将和（愛知学院大学）
　　記録４
盗塁賞：該当者なし
一部最優秀防御率賞：深津　悠平（中京大学）
　　記録０．９８
二部優秀選手賞：加藤　将大（静岡大学）
二部首位打者賞：市川　拓也（常葉学園大学）
　　記録８割８分５厘
二部最優秀防御率賞：神薗　晃智（常葉学園大学）
　　記録２．６６
三部優秀選手賞：小川　祐貴（南山大学）
三部首位打者賞：清田　俊輔（名城大学）
　　記録７割２分７厘
三部最優秀防御率賞：向井　將吾（南山大学）
　　記録２．３３
ベストスコアラー賞：該当者なし
ベスト放送員賞：今荘　拓晟（東海学園大学）
ベストナイン
　投　　手：片岡　　涼（中京学院大学）
　捕　　手：和田　隆太（中京大学）
　一塁手：南谷　純也（愛知学院大学）
　二塁手：栗本　拓哉（愛知大学）
　三塁手：大井　英幸（中京学院大学）
　遊撃手：泉　　昌宏（名古屋商科大学）
　外野手：川上　貴寛（愛知大学）
　外野手：山田　将也（中京大学）
　外野手：村主　大輔（愛知学院大学）
　ＤＰＦＰ：川地　洋輔（名古屋大学）

講評　本リーグ戦は、10月８日に始ったものの雨にたたられて11月27日に終了するという長いものになってしまった。コンディションを維持するために、選手諸君は多大な努力を強いられたものと推察される。また、このような変則日程にもかかわらず、予備日を３日間もご提供いただき最後まで開催にご尽力いただいた刈谷市連盟に対しまして、まずもって御礼申し上げます。

さて、一部リーグ戦は大方の予想通り、インカレ優勝の中京学院大学と同３位だった中京大学が全勝で勝ち進み、最終試合での決戦となった。結果は、２点先行された中京学院大学が６回裏に集中打で逆転して２季ぶり９回目の東海チャンピオンに輝いた。３～５位は２勝３敗で失点率で順位が決まるという打高投低の低調なリーグ戦であった。一部唯一の国立大学である名古屋大学は、リーグ戦では全敗したものの、入れ替え戦で意地を見せたのが救いだった。なお、愛知学院大学の藤田君はリーグ戦初の三冠王に輝いた。

二部リーグ戦はいつものように、全勝チームも全敗チームもなく混戦となった。これは完封試合が３、10得点以上の試合が６ということに示されるように、各チームとも投手を中心とする守備力の弱さに起因するものと思われる。ただ、一部下位から三部上位までの実力差は紙一重で、この混戦から抜け出て全国を目指すためには、守備力の強化しかない。ソフトボール独特の緊張感とスピード感あふれる試合を期待する。

三部リーグ戦は、朝日大学と大同大学が当初から棄権し、東海学園大学も途中から出場できなくなるという寂しいものになった。まずは試合をすることでソフトボール楽しみ、リーグ戦をみんなで作り上げていくという気概を示してほしいものである。その中で、来季の登録が危ぶまれる愛知みずほ大学の健闘が光った。

最後に入れ替え戦だが、まず、伝統ある愛知教育大学の三部降格が悔やまれる。二部優勝を争った静岡の２大学は明暗を分けたが、来季校名変更の常葉学園大学には、これを弾みに一部での活躍が期待される。（東海学連事務局長　水谷　博）

東海テレビ杯

平成23年度秋季第58回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成23年９月24・25、10月１・２日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド他

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中　京	鈴鹿国際	東海学院	日本福祉	中京学院	勝	分	敗	順　位
東海学園		○２－１	●０－２	○７－０	○６－１	○９－０	４	０	１	優勝
中　京	●１－２		○７－４	○４－２	○８－０	○５－２	４	０	１	２位
鈴鹿国際	○２－０	●４－７		○７－３	○７－４	○７－０	４	０	１	３位
東海学院	●０－７	●２－４	●３－７		○５－０	○５－１	２	０	３	４位
日本福祉	●１－６	●０－８	●４－７	●０－５		○３－２	１	０	４	５位
中京学院	●０－９	●２－５	●０－７	●１－５	●２－３		０	０	５	６位

※１～３位は失点率による。

二部リーグ戦

チーム	至 学 館	愛知教育	岐阜聖徳	名 古 屋	常葉学園	岐阜経済	静　岡	順　位
至 学 館		○１－０	○７－０	○７－０	＊	○13－２	＊	１位
愛知教育	●０－１		○３－１	○５－４	●８－10	＊	＊	４位
岐阜聖徳	●０－７	●１－３		●２－３	＊	＊	＊	７位
名 古 屋	●０－７	●４－５	○３－２		＊	＊	○６－５	５位
常葉学園	＊	○10－８	＊	＊		●２－４	○11－１	３位
岐阜経済	●２－13	＊	＊	＊	○４－２		○10－０	２位
静　岡	＊	＊	＊	●５－６	●１－11	●０－10		６位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一・二部入れ替え戦

日本福祉大学(５位)３－２岐阜経済大学(２位)

※日本福祉大学一部残留、岐阜経済大学二部残留

中京学院大学(６位)０－１至学館大学(１位)

※至学館大学一部昇格、中京学院大学二部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：粕谷　朋世(東海学園大学)

一部首位打者賞：下山　実咲(中京大学)
記録５割５分６厘

打点賞：塚本　智名(中京大学)
記録７

本塁打賞：該当者なし

盗　　塁　　賞：該当者なし
一部最優秀防御率賞：河津かおり(東海学園大学)
　　記録０．６１
優秀選手賞：伊藤　里浦(至学館大学)
二部首位打者賞：川瀬　綾子(岐阜経済大学)
　　記録８割３分３厘
二部最優秀防御率賞：伊藤　里浦(至学館大学)
　　記録０．６０
ベストスコアラー賞：杉田　華奈(鈴鹿国際大学)
ベスト放送員賞：岡　菜菜美(中京大学)
ベストナイン
投　　手：河津かおり(東海学園大学)
捕　　手：久保亜希美（東海学園大学)
一 塁 手：河田　有加（鈴鹿国際大学)
二 塁 手：相場　美穂（鈴鹿国際大学)
三 塁 手：小泉　めい（東海学院大学)
遊 撃 手：下山　実咲（中京大学)
外 野 手：塚本　智名（中京大学)
外 野 手：後藤　美紀（東海学院大学)
外 野 手：平松由梨香（中京大学)
DP・DEFO：粕谷　朋世（東海学園大学)

講評

秋季第58回リーグ戦は天候に恵まれ、９月24・25日、10月１・２日の４日間に高浜市碧海グラウンドと流作グラウンドで実施され、無事終了した。大会実施にご尽力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

今リーグ戦では、８月のインカレで準優勝に輝いた鈴鹿国際大学、春季リーグ戦優勝の東海学園大学、伝統校中京大学の３チームのエースピッチャーが残っており、春季リーグと同様にこの３チームによる優勝争いが期待された。

１日目では、鈴鹿国際大学は日本福祉大学に３点リードされて迎えた５回裏に一挙５点を入れ、逆転勝ちを収め貫禄を示した。しかし、エース・平木彩佳（２年）がピッチャーライナーを顔面に受け、負傷により以後の試合への出場が不可能となり、２日目の中京大学戦では強打を抑えることができず、４－７で１敗を喫した。２日目が終了した段階では、東海学園大学と中京大学が共に３戦全勝を守っていたが、３日目に鈴鹿国際大学の近田知実投手が東海学園打線を完封し、２－０で勝利を収め、東海学園大学と共に１敗で並んだ。一方、中京大学は第３日目には中京学院大学を下し、唯一４戦全勝で最終日を迎えた。

最終日では、第２試合で鈴鹿国際大学が東海学院大学を延長８回で下して１敗を守り、優勝～３位の順位の決定は最終戦に持ち越された。最終戦では４回裏に東海学園大学が１点を先制したものの７回表に中京大学がしぶとく追いついた。１－１のまま延長戦に入り、延長９回裏に東海学園大学が１点を入れサヨナラ勝ちを収めた。この結果、上位３チームが共に４勝１敗で並び、失点率により、優勝・東海学園大学(失点率0.80)、準優勝・中京大学(1.80)、第３位・鈴鹿国際大学(2.60))と決定した。なお、４位は東海学院大学、５位日本福祉大学、６位・中京学院大学となった。

二部では、共に全勝で最終日を迎えた至学館大学と岐阜経済大学の接戦が予想された試合は、至学館大学が13－２で圧勝し、優勝を決めた。

ここ数年実力が拮抗し、一部と二部の入れ替えが激しく行われている入れ替え戦では、今年も熾烈な戦いが続いた。２試合とも最後の最後まで勝敗の行方がわからない熱戦となり、最終的には日本福祉大学（一部５位）が３－２で岐阜経済大学（二部２位）を下し一部残留を決め、もう１試合は至学館大学（二部１位）が中京学院大学（一部６位）を１－０で押し切り、一部復帰を決めた。

今回のリーグ戦でも、結果的には東海学園大学、中京大学、鈴鹿国際大学の３強が順調に上位を占めた。しかし、この３チームは、試合によっては下位チームにかなりの苦戦を強いられ、現時点では全国に通用する十分なチーム力を有しているとは言い切れなかった。インカレでは鈴鹿国際大学が昨年の第３位、今年の準優勝とこの２年間とも素晴らしい成績を収めているが、東海地区のチームが来年のインカレでも好成績をあげるためには、各チームの投手力の底上げが必要であると思われる。（東海学連理事長　矢澤久史）

【近畿地区】平成23年度　第43回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成23年４月10・16・17・29・30日、５月３・４・８・15日
会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

１部リーグ戦

チーム	立命館	関西	神戸学院	京都産業	大阪体育	京都	勝	分	敗	順位
立命館		○４－０	○８－５	△０－０	○16－１	○ 没収	4	1	0	優勝
関西	●０－４		○７－２	△０－０	○３－１	○ 没収	3	1	1	２位
神戸学院	●５－８	●２－７		○６－０	○８－２	○ 没収	3	0	2	３位
京都産業	△０－０	△０－０	●０－６		○11－１	○ 没収	2	2	1	４位
大阪体育	●１－16	●１－３	●２－８	●１－11		○ 没収	1	0	4	５位
京都	● 没収	● 没収	● 没収	● 没収	● 没収		0	0	5	６位

※立命館大学は２季ぶり13度目の優勝！　★京都大学は２部に自動降格

２部リーグ戦

A	大阪	佛教	大阪経済	神戸	近畿	勝	分	敗	点	順位
大阪		○９－３	○９－１	●２－３	○10－０	3	0	1	9	１位
佛教	●３－９		○７－６	○ 棄権	○12－０	3	0	1	9	２位
大阪経済	●１－９	●６－７		○７－４	○７－３	2	0	2	6	３位
神戸	○３－２	● 棄権	●４－７		○６－０	2	0	2	6	４位
近畿	●０－10	●０－12	●３－７	●０－６		0	0	4	0	５位

※１位と２位、３位と４位は、該当チーム間勝ち点規定により決定。

B	四天王寺	同志社	兵庫教育	龍谷	大阪産業	勝	分	敗	点	順位
四天王寺		○２－０	△３－３	○３－１	○ 没収	3	1	0	10	１位
同志社	●０－２		○12－２	○８－５	○ 没収	3	0	1	9	２位
兵庫教育	△３－３	●２－12		○７－６	○ 没収	2	1	1	7	３位
龍谷	●１－３	●５－８	●６－７		○ 没収	1	0	3	3	４位
大阪産業	● 没収	● 没収	● 没収	● 没収		0	0	4	0	５位

◎２部ブロック決勝　大阪大学５－６四天王寺大学　☆四天王寺大学は１部に自動昇格
★大阪産業大学は３部に自動降格

３部リーグ戦

A(順位)	関　学	市　立	京　学	大　工
関西学院（１位）		○ 11－２	○ 10－０	○ ９－０
大阪市立（２位）	● ２－11		● ６－10	○ ８－０
京都学園（３位）	● ０－10	○ 10－６		● ７－８
大阪工業（４位）	● ０－９	● ０－８	○ ８－７	

B(順位)	府　立	流　通	奈良教	和歌山
大阪府立（１位）		○ ９－４	○ 10－２	○ 13－０
流通科学（２位）	● ４－９		○ ６－１	○ 26－３
奈良教育（３位）	● ２－10	● １－６		○ ７－５
和 歌 山（４位）	● ０－13	● ３－26	● ５－７	

※２位と３位は失点規定により、４位は得失点差規定により決定。

◎３部ブロック決勝　関西学院大学３－２大阪府立大学　☆関西学院大学は２部に自動昇格

◎入れ替え戦

１部・２部　大阪体育大学０－２大阪大学　☆大阪大学は１部昇格　★大阪体育大は２部降格

２部・３部　近畿大学１－７大阪府立大学　☆大阪府立大学は２部昇格　★近畿大学は３部降格

【総評】イエローボールを導入して２シーズン目、各チームともボールに十分慣れて迎えた勝負の春リーグ。

１部は、戦前の予想通り、総合力で勝る立命館大学、関西大学が順当に優勝、準優勝となった。京都産業大学は４位に終わったが、この両チームと０-０の引き分けに終わっており、あともう一歩と思わせる内容であった。神戸学院大学を含めた、このインカレ出場常連の４チームにはインカレ本戦でも力を発揮してほしい。

２部は、ＡＢブロックとも接戦となったが、大阪大学と四天王寺大学がブロック優勝となり、そのまま入れ替え戦でも勝利し、両チームとも悲願の１部昇格を果たした。一方、３部は残念ながら例年よりも１チーム少ない４チームでの総当たりとなったが、関西学院大学と大阪府立大学が力の差を見せつけて全勝でブロック優勝し、また両チームとも２部昇格となった。

最後に、今回はリーグ全体を残念がらせた出来事があった。京都大学と大阪産業大学による未登録選手の出場である。どのような理由があるにせよ認められることではなく、発覚した時点で全試合０－７の没収試合、さらにその後のインカレ予選出場の権利剥奪という処分を連盟として下した。伝統と実績のあるチームだけに他チームに与えた動揺は図り知れない。両チームはもちろんであるが、すべてのチームがこれを他山の石とせず、襟を正してこれから正しい活動を展開していってほしい。

（理事長　森田啓之）

平成23年度第43回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成23年４月９・10・16・17・24・29日、５月１・３日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学

１部リーグ戦成績

チーム	園田学園	武庫川	神戸親和	大阪大谷	大阪国際	天理	立命館	関西外語
園田学園		○５－１	●３－６	○５－０	○10－０	○３－２	○10－０	○５－０
武庫川	●１－５		○２－１	○２－０	○４－０	○３－２	●１－２	○２－０
神戸親和	○６－３	●１－２		○４－２	●４－５	○７－６	○３－２	○５－１
大阪大谷	●０－５	●０－２	●２－４		○２－０	○13－３	○４－０	○５－１
大阪国際	●０－10	●０－４	○５－４	●０－２		○７－６	○４－３	●１－３
天理	●２－３	●２－３	●６－７	●３－13	●６－７		○４－０	○２－１
立命館	●０－10	○２－１	●２－３	●０－４	●３－４	●０－４		○１－０
関西外語	●０－５	●０－２	●１－５	●１－５	○３－１	●１－２	●０－１	

※２～３位、６～７位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

１部最終成績

優勝　園田学園女子大学（６勝０分１敗）
２位　武庫川女子大学（５勝０分２敗）
３位　神戸親和女子大学（５勝０分２敗）
４位　大阪大谷大学（４勝０分３敗）
５位　大阪国際大学（３勝０分４敗）
６位　天理大学（２勝０分５敗）
７位　立命館大学（２勝０分５敗）
８位　関西外国語大学（１勝０分６敗）

１部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
１位	西岡　宏華	園田学園女子大学	0.583
２位	近藤　琴美	園田学園女子大学	0.533
３位	末方　悠加	神戸親和女子大学	0.526
４位	石田　千紘	天理	0.478
５位	千葉　有紀	天理大学	0.455
５位	佐野由貴美	神戸親和女子大学	0.455
７位	樽谷　知香	大阪大谷大学	0.421
７位	稲田　和恵	関西外国語大学	0.421
７位	御輿　早貴	関西外国語大学	0.421
10位	西山　遙子	大阪国際大学	0.412

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
１位	内海　花菜	武庫川女子大学	1.069
２位	村井　紗希	関西外国語大学	1.400
３位	泉　礼花	園田学園女子大学	1.702
４位	笹山　彩夏	神戸親和女子大学	1.750
５位	若井　朋美	関西外国語大学	1.750

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	泉　礼花	投手
武庫川女子大学	川口亜祐美	内野手
神戸親和女子大学	末方　悠加	捕手
大阪大谷大学	樽谷　知香	内野手
大阪国際大学	西山　遙子	外野手
天理大学	黒田　湖歩	外野手
立命館大学	山澤　葵	捕手
関西外国語大学	池内　愛	捕手

盗塁賞：近藤　琴美 園田学園女子大学
　　湯口　実香 園田学園女子大学
　　記録４

ホームラン賞：末方　悠加　神戸親和女子大学
　　児玉　晶子　天理大学
　　記録２

２部リーグ戦対戦成績

チーム	龍　谷	大阪体育	奈良文化	大阪体育	びわこ成蹊	兵庫教育	勝	分	敗	順　位
龍　谷		○１－０	○７－０	○11－４	○６－０	○９－１	5	0	0	１位
太　成	●０－１		○８－１	○１－０	○７－０	○７－０	4	0	1	２位
奈良文化	●０－７	●１－８		○３－１	○５－１	○10－０	3	0	2	３位
大阪体育	●４－11	●０－１	●１－３		○４－０	○６－０	2	0	3	４位
びわこ成蹊	●０－６	●０－７	●１－５	●０－４		○７－１	1	0	4	５位
兵庫教育	●１－９	●０－７	●０－10	●０－６	●１－７		0	0	5	６位

２部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　学	打　率
１位	前出　由佳	龍谷大学	0.500
１位	塚本　栞	龍谷大学	0.500
１位	土井　美幸	大阪体育大学	0.500
４位	端野　恵理	大阪体育大学	0.461
５位	榊原　麗未	奈良文化女子短期大学	0.454
６位	今北　美紀	奈良文化女子短期大学	0.437
７位	島津あゆみ	龍谷大学	0.416
７位	高野　香	大阪体育大学	0.416
９位	灘井　周子	大阪体育大学	0.400
９位	小林明日香	奈良文化女子短期大学	0.400

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
１位	始澤　菜摘	龍谷大学	0.00
２位	山本　夢菜	太成学院大学	0.57
３位	楠　奈美	大阪体育大学	1.20

ベストプレイ賞

大　学	氏　名	守備位置
龍谷大学	内山　茜	投　手
太成学院大学	山本　夢菜	投　手
奈良文化女子短期大学	宮脇　実希	投　手
大阪体育大学	柳本　藍	投　手
びわこ成蹊ｽﾎﾟｰﾂ大	辻本　紗希	内野手
兵庫教育大学	柿本　詩織	投　手

盗塁賞：前出　由佳　龍谷大学　　記録４

３部対戦成績表

チーム	四天王寺	大阪府立	摂　南	京都女子	奈良教育	佛　教	勝	分	敗	順　位
四天王寺		●６－８	○11－３	○14－４	○９－０	○11－３	4	0	1	１位
大阪府立	○８－６		○12－４	●８－11	○11－４	●10－11	3	0	2	２位
摂　南	●３－11	●４－12		○６－５	○14－５	○11－８	3	0	2	３位
京都女子	●４－14	○11－８	●５－６		○11－６	○13－６	3	0	2	４位
奈良教育	●０－９	●４－11	●５－14	●６－11		○11－８	1	0	4	５位
佛　教	●３－11	○11－10	●８－11	●６－13	●８－11		1	0	4	６位

※２～４位は当該チームの失点差、５～６位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

３部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　学	打　率
１位	本多　由紀	四天王寺仏教大学	0.667
２位	堀尾　遙	京都女子大学	0.583
３位	伊野　梓	奈良教育大学	0.571
４位	小杉はるな	四天王寺仏教大学	0.571
５位	中山　静香	摂南大学	0.571
６位	緒方　泉	佛教大学	0.533
６位	谷川　美緒	奈良教育大学	0.533
８位	酒井　郁美	摂南大学	0.500
８位	弓山　美希	大阪府立大学	0.500
８位	森田　真依	京都女子	0.500
10位	入田　愛弓	四天王寺仏教大学	0.500

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
１位	入田　愛弓	四天王寺仏教大学	3.50
２位	則岡　英里	大阪府立大学	5.00
３位	長南　悠	摂南大学	8.00

ベストプレー賞

大　学	氏　名	守備位置
四天王寺仏教大学	入田　愛弓	投　手
大阪府立大学	森本　悠	内野手
奈良教育大学	谷川　美緒	内野手
京都女子大学	山口　千智	内野手
摂南大学	松尾　有起	外野手
佛教大学	川村　望	投　手

盗塁賞：市川　未来　大阪府立大学　記録５

春リーグ総評

【１部評価】

春リーグではインカレ出場権４枠をかけ、熾烈な戦いが繰り広げられた。１次予選リーグの順位が２次部別リーグの勝敗にて入れ替わり、インカレ出場を決めた大学もあった。改めてリーグ戦の面白さを感じた春リーグであった。関西代表として出場する４校が、全国の舞台で関西の強さを発揮し上位に名を連ねてもらうことを期待する。

文責：　阪井　あかね（園田学園女子大学）

【２部評価】

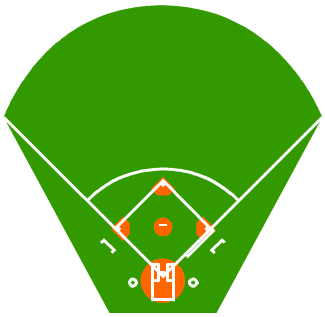
２部リーグは、３日間にわたって行われ、１日目、２日目は好天に恵まれ、熱戦が繰り広げられましたが、最終日はあいにくの雨で、試合が中断したりと、運営がたいへんでした。しかし、審判員、当番校の皆さんのおかげで整備もスムーズに行われ、無事に全日程を終えることができました。各チーム来季に向け日々の練習に励み、上位を目指し戦っていきたい。

文責：　前出　由佳（龍谷大学）

【３部評価】

各チームそれぞれ一生懸命にプレーしていた。しかし、3 部のチームほとんどが人数が少なく感じた。その為、1 チームもピッチャーの数が少なく、ピッチャーにかかる負担が多く感じた。3 部のチームも少しずつ順位を上げていき関西リーグを盛り上げれていければいいと思います。

文責：　重安　佳笑（四天王寺大学）



平成23年度　第43回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成23年10月２・８・９・10・16・23・29日、11月３・６・13日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

１部リーグ戦

チーム	神戸学院	大　阪	立命館	京都産業	四天王寺	関　西	勝	分	敗	順　位
神戸学院		●２－３	○５－０	○２－１	●３－４	○13－２	３	０	２	優勝
大　阪	○３－２		●０－２	●３－９	○11－６	○５－４	３	０	２	２位
立命館	●０－５	○２－０		○４－３	●１－７	○６－０	３	０	２	３位
京都産業	●１－２	○９－３	●３－４		○４－２	△２－２	２	２	１	４位
四天王寺	○４－３	●６－11	○７－１	●２－４		●１－８	２	０	３	５位
関　西	●２－13	●４－５	●０－６	△２－２	○８－１		１	１	４	６位

※１位、２位、３位は、得失点差規定により決定。

※神戸学院大学は２季ぶり７度目の優勝！

２部リーグ戦

A	同志社	京　都	龍　谷	神　戸	関西学院	勝	分	敗	点	順　位
同志社		○６－０	○７－２	○11－０	○10－３	４	０	０	12	１位
京　都	●０－６		●３－７	○６－０	○９－２	２	０	２	６	２位
龍　谷	●２－７	○７－３		●５－10	○４－０	２	０	２	６	３位
神　戸	●０－11	●０－６	○10－５		○６－３	２	０	２	６	４位
関西学院	●３－10	●２－９	●０－４	●３－６		０	０	４	０	５位

※２位、３位、４位は、得失点差規定により決定。

B	大阪体育	大阪府立	兵庫教育	佛　教	大阪経済	勝	分	敗	点	順　位
大阪体育		○11－１	●１－３	○５－３	○７－６	３	１	０	９	１位
大阪府立	●１－11		○10－３	●７－８	○８－４	２	０	２	６	２位
兵庫教育	○３－１	●３－10		○５－４	●１－２	２	０	２	６	３位
佛　教	●３－５	○８－７	●４－５		△５－５	１	１	２	４	４位
大阪経済	●６－７	●４－８	○２－１	△５－５		１	１	２	４	５位

※２位と３位、及び４位と５位はそれぞれ、該当チーム間勝ち点規定により決定。

◎２部ブロック決勝　同志社大学４－２大阪体育大学　☆同志社大学は１部に自動昇格

◎２部最下位決定戦　関西学院大学４－10大阪経済大学　★関西学院大学は３部に自動降格

３部リーグ戦

A	近　畿	流通科学	京都学園	大阪産業	和 歌 山	勝	分	敗	点	順　位
近　畿		○９－８	○６－４	○５－３	○18－７	4	0	0	12	１位
流通科学	●８－９		○11－３	○７－６	●４－８	2	0	2	6	２位
京都学園	●４－６	●３－11		○14－４	○14－３	2	0	2	6	３位
大阪産業	●３－５	●６－７	●４－14		○13－12	1	0	3	3	４位
和 歌 山	●７－18	○８－４	●３－14	●12－13		1	0	3	3	５位

※２位と３位、及び４位と５位はそれぞれ、該当チーム間勝ち点規定により決定。

B	市　立	甲　南	大　工	奈良教	順
大阪市立		○ 13－２	○ ５－１	○ ９－３	1
甲　南	● ２－13		○ ６－５	○ ７－６	2
大阪工業	● １－５	● ５－６		○ ９－４	3
奈良教育	● ３－９	● ６－７	● ４－９		4

◎３部ブロック決勝

近畿大学８－１大阪市立大学

☆関西学院大学は２部に自動昇格

◎入れ替え戦

１部・２部　　四天王寺大学４－３大阪体育大学　◇両大学とも残留

２部・３部　　大阪経済大学１－７大阪市立大学　☆大阪府立大学は２部昇格

【総評】夏のインカレにおいて、立命館大学が準優勝、神戸学院大学が３位という好成績を修めてから一か月。

１部のほとんどのチームは、新しいチームでの最初の公式戦となった。星取り表から明らかな通り、最後の最後まで順位が変動したリーグであった。最終日を迎えて、全く優勝も最下位の行方が分からない状況（国立の大阪大学の初優勝にも注目が集まった!?）の中で、辛くも神戸学院大学が３勝２敗での同率優勝を果たした。また、ここ数年安定した力を発揮していた関西大学は、レギュラー陣の引退でメンバーがほとんど変わったことが影響してか、最下位で自動降格となった。今季１部昇格を果たした四天王寺大学は最終試合で優勝の神戸学院大学に土をつける意地を見せて最下位を免れ、２部との入れ替え戦でも勝利して残留を決めた。

２部に眼をやると、Ａブロックでは同志社大学が春季の悔しさ（２部降格、さらにはインカレ出場も逃した）を晴らすかのように、全勝で危なげなく優勝を決めた。ブロック決勝は、Ｂブロックで接戦をものにして優勝した大阪体育大学との対戦となったが、全勝の勢いそのままに２部優勝を決めて、念願の１部昇格となった。また、両ブロック最下位となった、関西学院大学と大阪経済大学であるが、他チームとの差はほとんどないので、来季に期待したい。一方、３部は近畿大学と大阪市立大学が全勝優勝を果たし、その勢いで入れ替え戦にも勝利し、両チームとも２部昇格となった。

ここ一年ちょっとの傾向として、全体的に「投手力の低下」による「打者有利」の状況がみられ、１部、２部、３部の試合様相に大きな差がなくなっている。各チームとも投手の育成が来季に

向けて緊急の課題であるため、このオフシーズンに関西学連OB（岡住の馬場智久選手・京都産業大出身）を招いたピッチングクリニックを急きょ開催することになった。それが来季への起爆剤になることを強く期待している。

また、関西リーグに長らく参加してきた大阪経済法科大学、さらに姫路獨協大学が今年の春・秋とも出場できなかった。参加チームの減少は「リーグ力」にも影響するため、現在所属するチームの頑張りとともに、新規参入大学の可能性にも探りながら、リーグを盛り上げていく必要があるだろう。（理事長　森田啓之）

平成23年度第43回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成23年９月10・11・17・18・19・23・24、10月１・２日

会場：園田学園女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学・摂南大学

１部リーグ戦成績

チーム	園田学園	武庫川	大阪国際	大阪大谷	太成	天理	神戸親和	龍谷
園田学園		○３－１	○８－１	○３－１	○10－１	△２－２	○６－１	○６－０
武庫川	●１－３		○４－０	○２－０	○５－０	○２－０	○８－６	○３－１
大阪国際	●１－８	●０－４		△１－１	○３－２	○５－１	○12－１	○２－１
大阪大谷	●１－３	●０－２	△１－１		○６－４	●１－２	○３－２	○５－３
太成	●１－10	●０－５	●２－３	●４－６		○３－２	○１－０	○３－２
天理	△２－２	●０－２	●１－５	○２－１	●２－３		●３－５	○２－０
神戸親和	●１－６	●６－８	●０－12	●２－３	●０－１	○５－３		△４－４
龍谷	●０－６	●１－３	●１－２	●３－５	●２－３	●０－２	△４－４	

１部最終成績

優勝　園田学園女子大学（６勝１分０敗）
２位　武庫川女子大学（６勝０分１敗）
３位　大阪国際大学（４勝１分２敗）
４位　大阪大谷大学（３勝１分３敗）
５位　太成学院大学（３勝０分４敗）
６位　天理大学（２勝１分４敗）
７位　神戸親和女子大学（１勝１分５敗）
８位　龍谷大学（０勝１分６敗）

１部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
１位	近藤　琴美	園田学園女子大学	0.750
２位	川村可奈子	園田学園女子大学	0.476
３位	吉田　美姫	武庫川女子大学	0.466
４位	瀬田　美波	武庫川女子大学	0.421
４位	樽谷　知香	大阪大谷大学	0.421
６位	塚本　栞	龍谷大学	0.412
７位	古澤　春菜	園田学園女子大学	0.411
８位	大島あずさ	武庫川女子大学	0.400
９位	黒田　湖歩	天理大学	0.388
10位	佐藤亜紀子	天理大学	0.380

投手成績

順位	氏　名	大　　学	防御率
1位	泉　　礼花	園田学園女子大学	0.518
2位	森田由衣子	大阪国際大学	0.583
3位	池田　美樹	園田学園女子大学	0.765
4位	内海　花菜	武庫川女子大学	1.051
5位	勝山　絵未	大阪大谷大学	1.424

ベストプレイ賞

大　　学	氏　名	守備位置
園田学園女子大学	近藤　琴美	外野手
武庫川女子大学	内海　花菜	投　手
大阪国際大学	逢坂　亜依	捕　手
大阪大谷大学	松永　栞	内野手
太成学院大学	山本　夢菜	投　手
天理大学	梶尾祐女也	投　手
神戸親和女子大学	杉山　里奈	捕　手
龍谷大学	越川さつき	外野手

盗塁賞：近藤　琴美　園田学園女子大学
　　川村可奈子　園田学園女子大学
　　塚本　栞　龍谷大学
記録２

ホームラン賞：佐藤　友麻　神戸親和女子大学
記録３

２部リーグ戦対戦成績（１位～６位）

チーム	関西外語	立命館	大阪体育	奈良文化	兵庫教育	びわこ成蹊	勝	分	敗	順　位
関西外語		●１－３	●１－２	○４－１	○10－０	○６－５	３	０	２	３位
立命館	○３－１		○４－１	○１－０	○７－０	○６－０	５	０	０	１位
大阪体育	○２－１	●１－４		●１－２	○11－１	○６－４	３	０	２	２位
奈良文化	●１－４	●０－１	○２－１		○10－２	○８－１	３	０	２	４位
兵庫教育	●０－10	●０－７	●１－11	●２－10		●１－８	０	０	５	６位
びわこ成蹊	●５－６	●０－６	●４－６	●１－８	○８－１		１	０	４	５位

（７位～１０位）

チーム	佛　教	四天王寺	奈良教育	大阪府立	勝	分	敗	順　位
佛　教		●０－10	○12－２	●３－８	１	０	２	９位
四天王寺	○10－０		○７－０	○10－０	３	０	０	７位
奈良教育	●２－12	●０－７		●１－11	０	０	３	10位
大阪府立	○８－３	●０－10	○11－１		２	０	１	８位

２部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　　学	打　率
1位	木村　有紗	四天王寺大学	0.667
2位	中川　智絵	立命館大学	0.563
2位	加地　佐彩	びわこ成蹊スポーツ大学	0.563
4位	細見恵莉子	兵庫教育大学	0.550
5位	端野　恵理	大阪体育大学	0.500
6位	小林明日香	奈良文化短期大学	0.478
7位	渡辺　早紀	佛教大学	0.467

８位	辻本　沙希	びわこ成蹊ｽﾎﾟｰﾂ大学	0.462
９位	高野　香	大阪体育大学	0.450
10位	大久保朱莉	四天王寺大学	0.438

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
１位	宮脇　実希	奈良短期大学	0.98
２位	柳本　藍	大阪体育大学	1.38
３位	入田　愛弓	四天王寺大学	3.97

ベストプレイ賞

大　学	氏　名	守備位置
立命館大学	中川　智絵	内野手
大阪体育大学	柳本　藍	投　手
関西外国語大学	徳原　千里	捕　手

奈良文化短期大学	小林明日香	遊撃手
びわこ成蹊スポーツ大学	辻本　紗希	二塁手
兵庫教育大学	細見恵莉子	外野手
四天王寺大学	入田　愛弓	内野手
大阪府立大学	則岡　英里	投　手
佛教大学	川村　望	内野手
奈良教育大学	伊野　梓	捕　手

盗塁賞：　西岡　薫未　びわこ成蹊スポーツ大学　記録８

３部対戦成績表

チーム	京都女子	摂　南	関　西	同志社	流通科学	勝	分	敗	順　位
京都女子		●０－７	●０－10	●０－10	○12－１	１	０	３	４位
摂　南	○７－０		●０－10	●０－２	●７－８	１	０	３	３位
関　西	○10－０	○10－０		●４－７	○７－０	３	０	１	２位
同志社	○10－０	○２－０	○７－４		○７－０	４	０	０	１位
流通科学	●１－12	○８－７	●０－７	●０－７		１	０	３	５位

３部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　学	打率
１位	林　妙香	関西大学	0.538
１位	高政　栄里	関西立大学	0.538
３位	山本　夏生	関西大学	0.500
４位	杉山　遥	同志社大学	0.461
５位	大西　夏美	流通科学大学	0.454
６位	竹内　祥子	関西大学	0.411
７位	米田　幸栄	関西大学	0.400
８位	島田　茉莉	京都女子大学	0.375
９位	浅井みゆき	同志社大学	0.357
10位	金田　麗那	同志社大学	0.333
10位	松尾　有起	摂南大学	0.333
10位	難波　望	流通科学大学	0.333

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
１位	高政　栄里	関西大学	2.00
２位	長南　悠	摂南大学	3.85
３位	杉浦亜衣子	同志社大学	4.06

ベストプレー賞

大　学	氏　名	守備位置
同志社大学	杉浦亜衣子	投　手
関西大学	米田　幸栄	遊撃手
摂南大学	中山　静香	内野手
京都女子大学	堀尾　遥	投　手
流通科学大学	大西　夏美	遊撃手

盗塁賞：杉林　遥　　同志社大学　記録４

秋**リーグ戦総評**

【１部評価】

秋リーグ戦では、23大学が参加し今までにない最多チーム数となった。

１部では４回生が残る大学と新チームで挑む大学とでチーム状況は違ったがどの試合も熱戦が繰り広げられた。最終日、お互い４回生が残る園田学園女子大学と武庫川女子大学が優勝をかけて戦った。この2チームは今年のインカレでも熱戦を繰り広げた相手で、秋リーグが2度目の対決だった為、お互いがお互いを意識しているように感じた。試合の展開はどちらに流れるか最後まで分からない状況だったが結果は園田学園女子大学が勝利をつかみ取った。今回最多加盟数で天候にも多少左右された秋リーグであったが、多くの方々に支えられて選手全員が大きな怪我なく無事終えることが出来た。今後、一層の関西リーグの発展に期待をしている。

文責：　阪井　あかね（園田学園女子大学）

【２部評価】

試合開始時間が１部より早いことに疑問を感じる。またアップが満足にできないグラウンドもあり、怪我の発生にも繋がるので改善を求める。加えて1部にオーバーフェンスのホームランがあるのに二部にないのは不平等だと思う。全体としては当番校の認識が違いすぎると思った。一部ではたくさん仕事があるが、二部ではライン引きも整備も審判の方がしておられ、また整備道具の数も十分とはいえない数であった。学生の試合である以上、学生同士で協力して当番校を行うべきだと思うので、もし当番校の人数が不十分である場合は試合チームの協力を得て行った方がよいと思う。

文責:　中野 智子　（立命館大学）

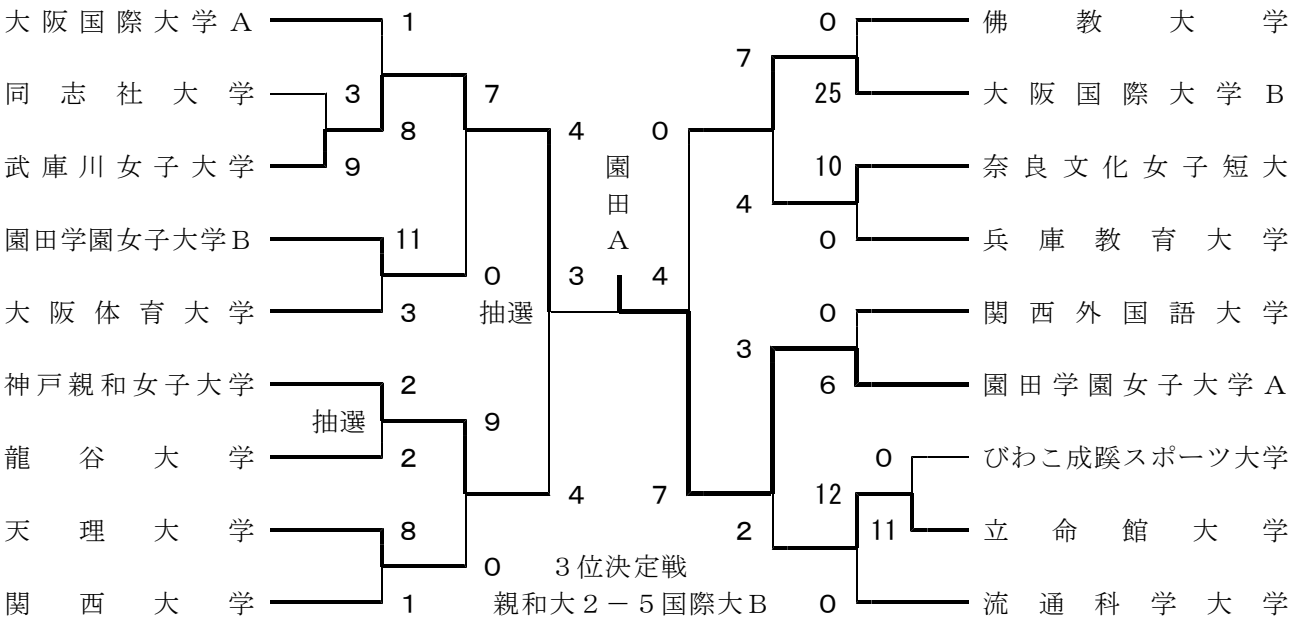
【３部評価】

３部の試合では、各チーム守備の乱れからの失点が目立った。一球一球を大切にする気持ちを強く持ち、試合での堅実な一つのプレーにつなげられるように、これからの練習に励んでいきたい。そして、３部のチームのレベルアップが更なる関西リーグの盛り上がりに繋がることを期待する。

文責：　金田　麗那（同志社大学）

第28回関西学生ソフトボール新人戦

会期：平成23年10月29・30日
会場：兵庫教育大学・武庫川女子大学

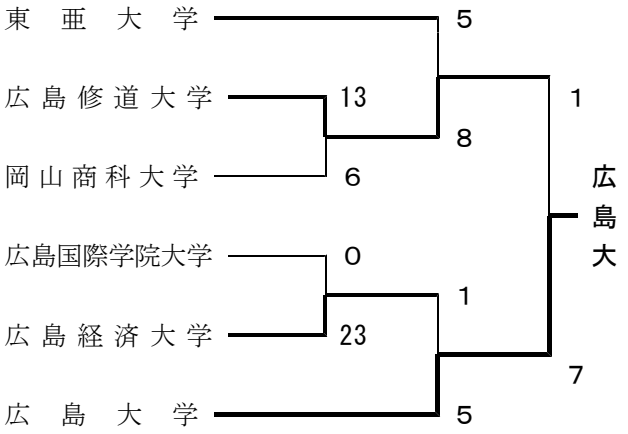


【中国地区】

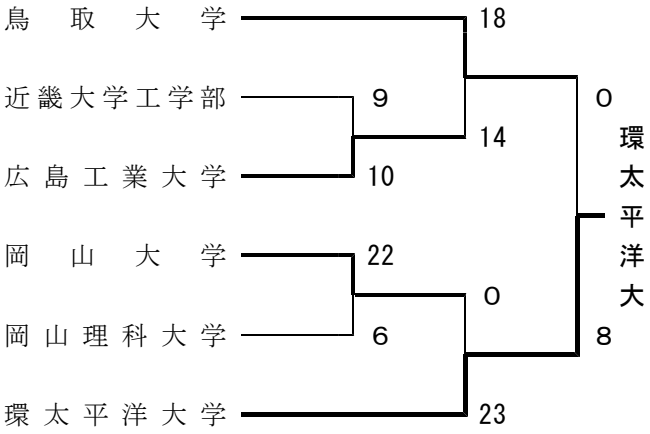
第46回全日本大学・第43回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成23年５月21日(土)・５月22日(日)
会場：広島県東広島市／中核工業団地グラウンド

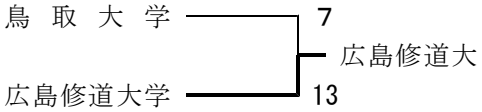
男子Ａゾーン



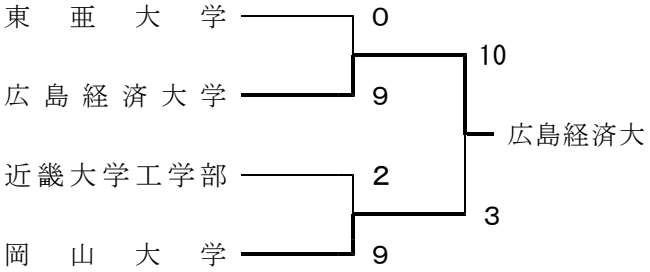
男子Ｂゾーン



全日本大学選手権大会第三代表決定戦
（Ａ・Ｂゾーン決勝戦敗退チーム）

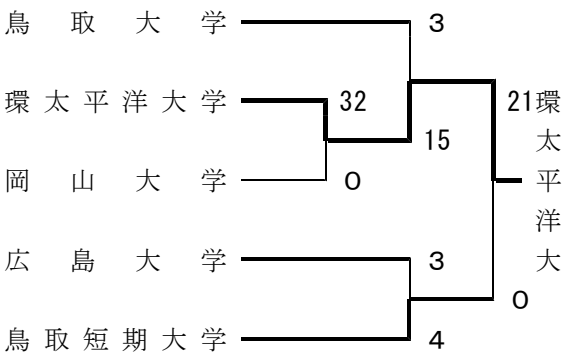


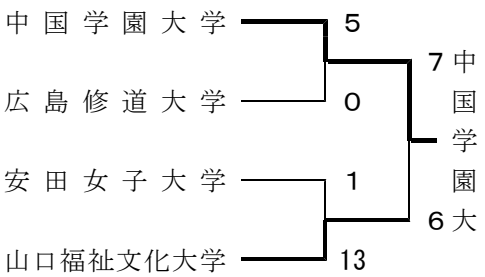
西日本大学選手権大会第５代表決定戦
（Ａ・Ｂゾーン準決勝戦敗退チーム）



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島大学(３年ぶり13回目)・環太平洋大学(５年連続５回目)
広島修道大学(４年ぶり25回目)
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島大学・環太平洋大学・広島修道大学・
鳥取大学・広島経済大学

女子



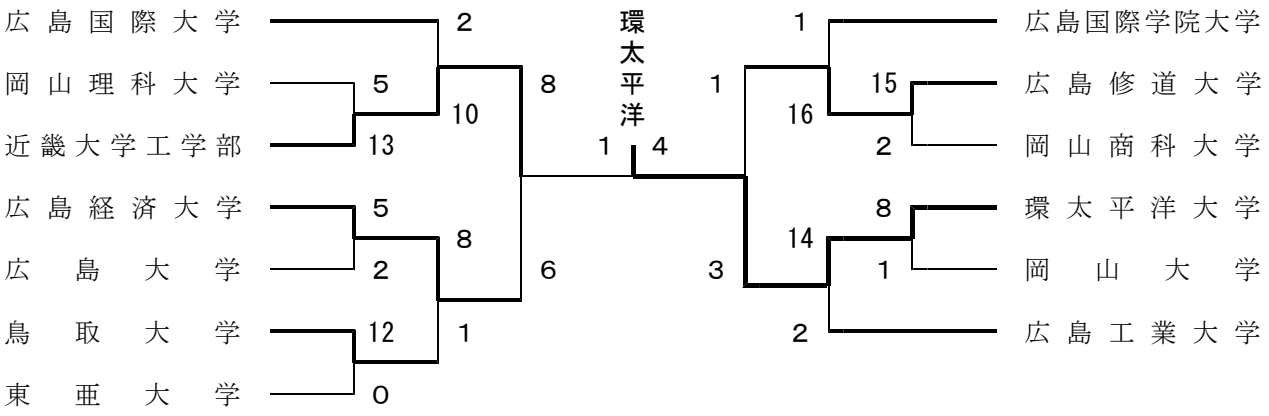


全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学(５年連続５回目)
中国学園大学(３年ぶり３回目)
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・中国学園大学・鳥取短期大学・
山口福祉文化大学広島校

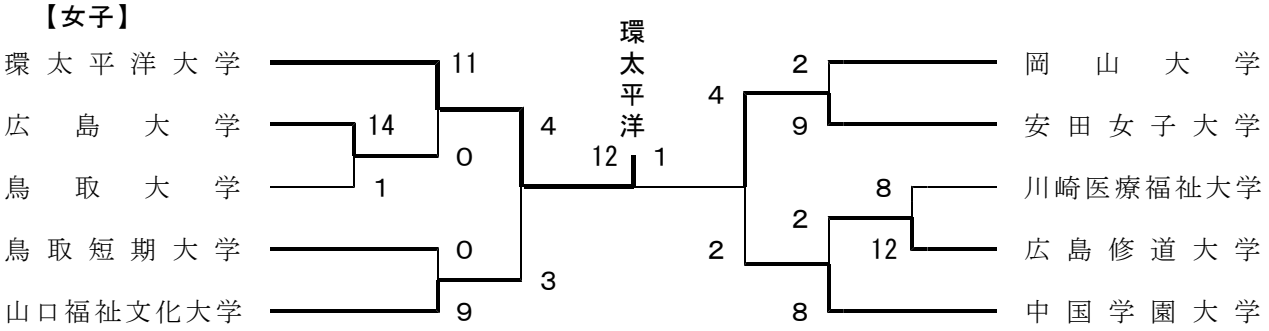
第11回中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成23年11月12日(土)・13日(日)
会場：広島市／広島修道大学グラウンド

【男子】



【女子】



【四国地区】　平成23年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

会期：平成23年４月23日(土)・24日(日)
会場：徳島県徳島市／吉野川北岸運動広場ソフトボール場

A	四　学	高　工	徳　島	松　山	順
四国学院			○ 11－6	○ 3－1	－
高知工科			● 1－7	● 6－13	－
徳　島	● 6－11	○ 7－1			－
松　山	● 1－3	● 13－6			－

B	愛　媛	香　川	高　知	四　国
愛　媛			○ 9－4	○ 10－6
香　川			● 4－6	○ 20－16
高　知	● 4－9	○ 6－4		
四　国	● 6－10	● 16－20		

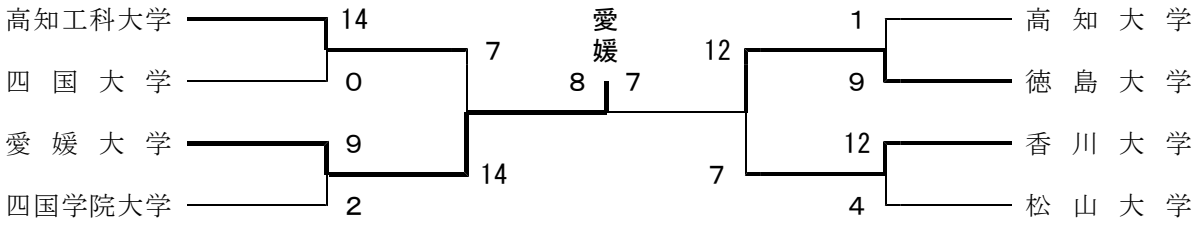
※４月23日雨天中止のため、翌24日に初日の予選リーグ戦を実施し、今年度は順位をつけなかった。

第46回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会
－兼、第42回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会－

会期：平成23年５月21日(土)・22日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸運動広場ソフトボール場

【男子】



全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学(６年連続11回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学・徳島大学

【女子】

チ ー ム	四 国	愛媛女短	香 川	勝	敗	順位
四 国 大 学		●０－21	●０－７	０	２	３位
愛媛女子短期大学	○21－０		○11－０	２	０	１位
香 川 大 学	○７－０	●０－11		１	１	２位

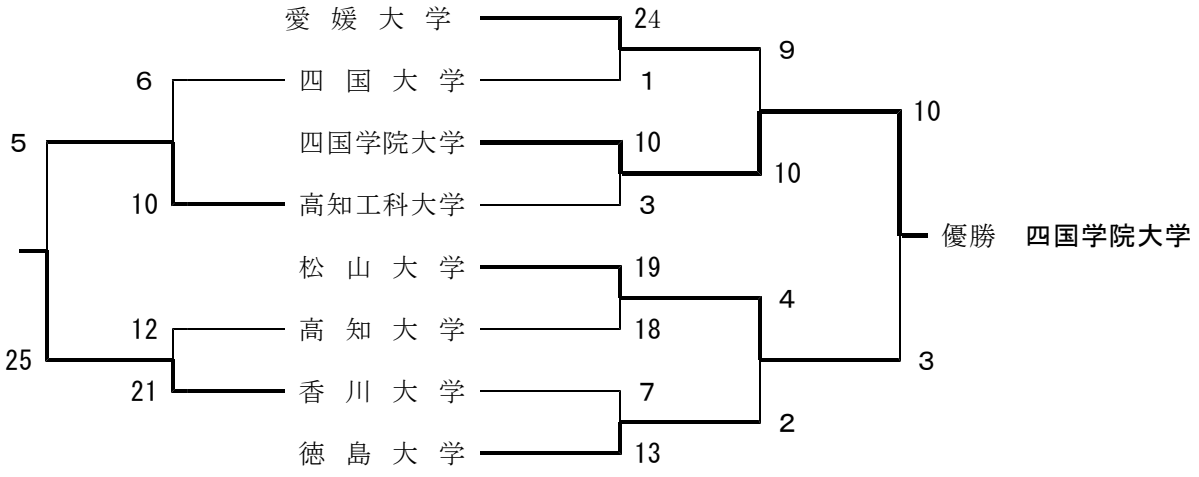
全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学
(14年連続14回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学・香川大学

平成23年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成23年10月15日(土)・16日(日)

会場：香川県坂出市／トクヤマ坂出グラウンド他



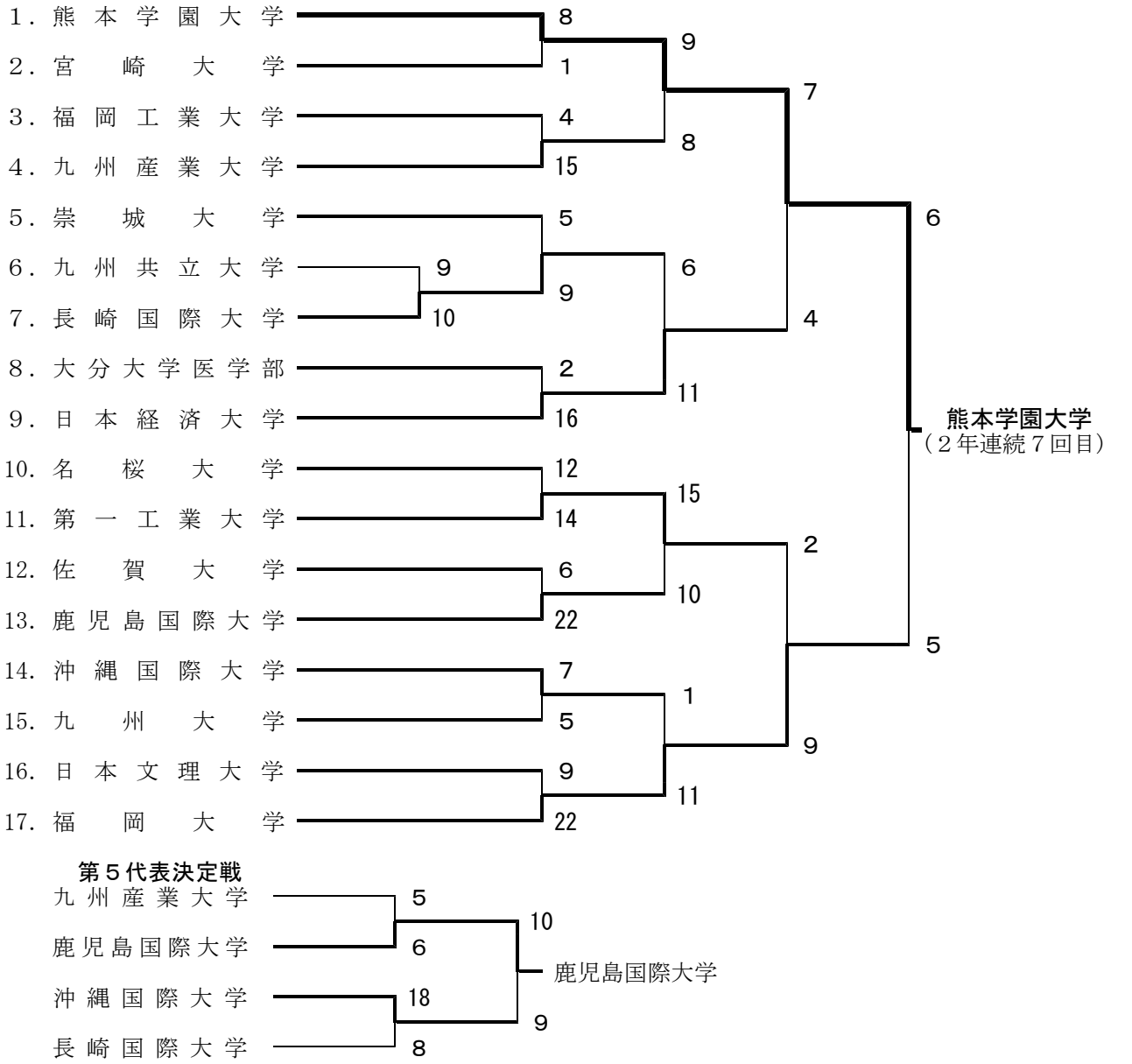
【女子】

チーム	愛媛女短	香川	四国	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
愛媛女子短期大学		○47－1	○14－3	2	0	0	61	4	57	1位
香川大学	●1－47		●5－15	0	0	2	6	62	－56	3位
四国大学	●3－14	○15－5		1	0	1	18	19	－1	2位

【九州地区】第29回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
（兼、第45回全日本大学(男子・女子)ソフトボール選手権大会予選会）

会期：平成23年５月28日(土)・29日(日)
会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

【男子】



第５代表決定戦

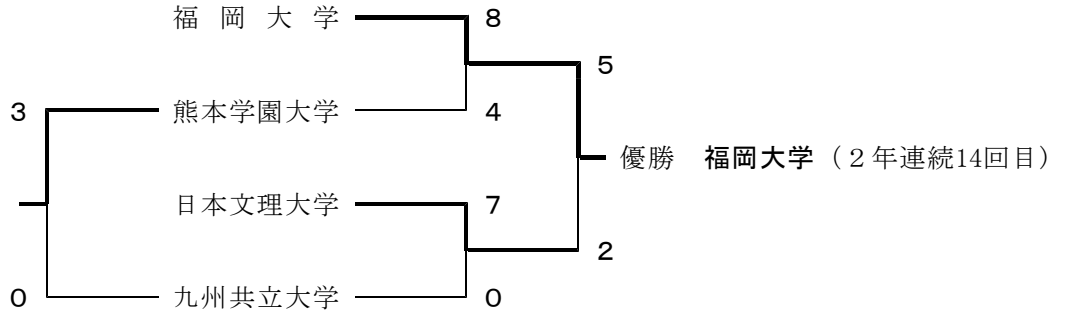
※第46回全日本大学(男子)選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学・福岡大学・日本経済大学・第一工業大学・鹿児島国際大学

【女子】

予選リーグA	福　岡	名　桜	九　共	順位
福 岡 大 学		○ 10－1	○ 15－6	1位
名 桜 大 学	● 1－10		● 1－9	3位
九州共立大学	● 6－15	○ 9－1		2位

予選リーグB	熊　学	日　文	沖　国	順位
熊本学園大学		● 0－14	○ 7－1	2位
日本文理大学	○ 14－0		○ 6－2	1位
沖縄国際大学	● 1－7	● 2－6		3位

［決勝トーナメント］



※全日本大学選手権の出場権獲得校：福岡大学・日本文理大学

第11回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成23年11月12日・13日

会場：鹿児島県知覧町／知覧平和運動公園多目的球場

【男子】

［予選リンク戦］

Aリンク（4チーム、1位：福岡大学）

長崎国際大学　5－0　宮 崎 大 学
福 岡 大 学　7－6　九 州 大 学
九 州 大 学　5－4　長崎国際大学
福 岡 大 学　15－1　宮 崎 大 学

Bリンク（3チーム、1位：九州共立大学）

九州共立大学　9－1　熊本学園大学
九州共立大学　10－1　琉 球 大 学
熊本学園大学　0－10　熊本学園大学

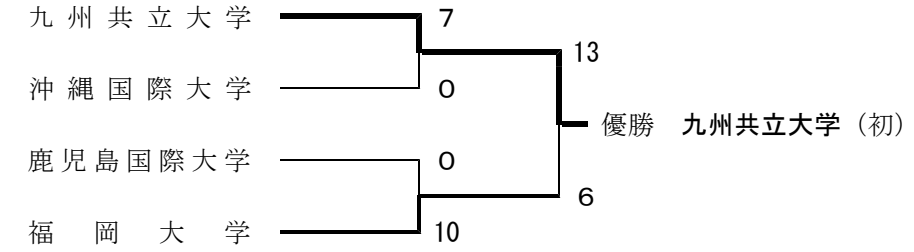
Cリンク（4チーム、1位：沖縄国際大学）

沖縄国際大学　10－3　佐 賀 大 学
第一工業大学　4－3　九州産業大学
沖縄国際大学　10－9　第一工業大学
第一工業大学　4－3　九州産業大学

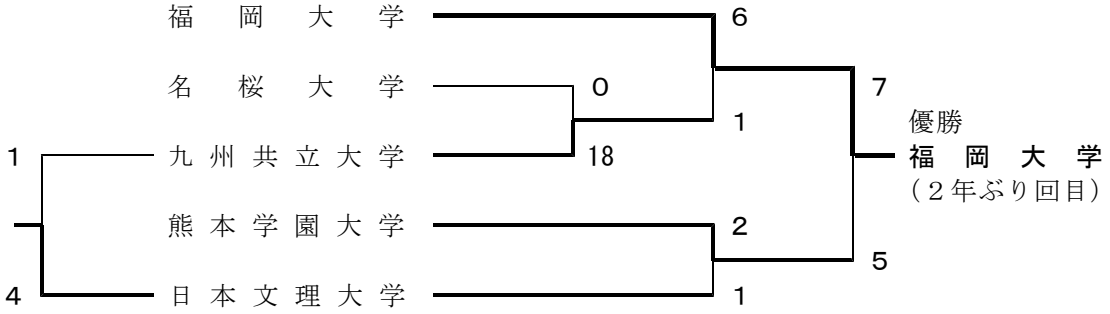
Dリンク（4チーム、1位：鹿児島国際大学）

鹿児島国際大学　13－4　福岡工業大学
崇 城 大 学　11－2　日本経済大学
鹿児島国際大学　9－1　崇 城 大 学
日本経済大学　3－2　福岡工業大学

[決勝トーナメント]



【女子】



－平成23年度－

大学連盟加盟チームによるソフトボール普及活動の実績報告

事務局長　森　田　啓　之

大学連盟のミッションは、大学ソフトボールチームの競技力向上を図ることと同時に、競技種別を問わず地域社会にソフトボールを普及することも重要な責務です。

一昨年に続いて、加盟大学のソフトボール普及活動を把握しましたところ、大学チーム単体で普及事業を実施しているところ、関係諸団体と協働して新たな事業をスタートさせたところなど、その活動のありかたも多様なものに広がっています。今年から新加盟したチームがさっそく普及に取り組んだり、大震災に見舞われた地域への指導に赴いた大学もあったりしたことはうれしい限りです。これからも多くの加盟大学が積極的に地域と連携して普及活動を行っていってほしいと考えています。

なお、以下に掲載しましたものは、年度内実施予定事業も含めて、今回各地区・チームより報告があったものです。また紙面の都合上、実施内容については「概要」として簡単にまとめています。

【関東地区】

◎新島学園短期大学（女子）

事業名：健大ピッチングクリニック

日程：毎週水曜、年20回

会場：群馬県高崎健康福祉大学高崎高等学校グラウンド

対象：小学生～大人約50名
概要：群馬・埼玉県のピッチャーや野手を対象のピッチングやバッティングの講習会

事業名：安中少女ピッチングクリニック

日程：月曜日（年10回）
会場：信越化学グランド
対象：小学生～中学生約40名
概要：安中市全域の小学・中学校のチームを対象としたバッテリーと内外野に分かれての練習会

事業名：群馬県児童養護施設ソフトボール大会

日程：平成23年７月
会場：前橋市民会館
対象：群馬県児童養護施設利用者
概要：児童養護施設利用者のソフトボール大会に審判員並びに補助員として参加

事業名：埼玉県児童養護施設ソフトボール大会

日程：平成23年８月
会場：深谷市
対象：埼玉県児童養護施設利用者
概要：児童養護施設利用者のソフトボール大会に審判員並びに補助員として参加

◎山梨学院大学（女子）

事業名：山梨県小学生ソフトボールフェスティバル

日程：平成23年11月３・５・６日
会場：山梨学院大学砂田ツインソフトボール場
対象：山梨県内の小学生200人
概要：上記大会の開催・運営、並びに大会期間中に技術指導講習を実施

事業名：小中学生ソフトボール育成事業

日程：毎月２回（隔週の木曜日）
会場：山梨学院大学砂田ツインソフトボール場
対象：山梨県内の小中学生50～60人
概要：山梨県内の小中学生を対象とした練習会の開催と技術指導

【北信越地区】

◎松本大学

事業名：2011・金の卵プロジェクト

日程：７月３日を皮切りに10月９日まで８日間
会場：長野県内各地
対象：県内12チーム、総計約200名
概要：松本大学ソフトボール部が長野県ソフトボール協会に提案し、小学生委員会と普及委員会と共催する形でスタートさせた事業。その特徴は学生が各チームの練習場所に出向き、チーム単位で子どもたちの指導をしたこと。子どもにも学生にも多くの成果が得られた。なお、本事業の活動は下記URL（長野県ソフトボール協会のHP)も参照されたい。http://www.nagano-softball-j.com/

◎金沢学院大学

事業名：高等学校強化練習会

日程：８月下旬
会場：金沢学院大学・専光寺ソフトボール場
対象：高等学校・新チーム
概要：練習試合の運営

【東京地区】

◎早稲田大学男子部・女子部

事業名：福島県と宮城県の中高生へのソフトボール指導

日程：平成23年11月19・20日
会場：19日福島県・十六沼公園、20日宮城県・山本町立山下中学校
対象：福島県と宮城県の中高生350人ほど
概要：学生と監督、職員で震災の被災地を訪れ、バッテリーと野手に別れてのグループ指導とバッティング指導を実施。

【東海地区】

◎東海学園大学

事業名：ソフトボール講習会

日程：平成23年12月11日
会場：東海学園大学名古屋キャンパス
対象：小学生、中学生、高校生、一般で145人
概要：アップの仕方、及び守備、打撃、ピッチングについての講習会。

◎日本福祉大学

事業名：スポーツクリニック

日程：平成23年７月３日、10月29日
会場：布土小学校

対象：小学生(ソフトボール少年団チーム)約50名
概要：バッティングやピッチングの指導

事業名：美浜地区小学生ソフトボール大会

日程：平成23年８月23日
会場：美浜町第一グラウンド
対象：小学生約30名
概要：小学生を対象にしたソフトボール大会の審判及び運営への協力

事業名：土曜講座

日程：平成23年11月５日
会場：日本福祉大学
対象：中・高校生約30名
概要：ソフトボールに興味のある中・高校生男女に対して、ゴムボールを使ったキャッチボールやトスバッティング、ゲームを実施

【近畿地区】

◎関西大学（女子）

事業名：ピッチングクリニック＆合理的なカラダの使い方実践セミナーin関西大学

日程：平成23年７月24日
会場：関西大学堺キャンパス
対象：小学生～大学生、一般約200人
概要：増渕まり子投手によるピッチング指導と小田伸午教授による「ソフトボール選手の合理的なカラダの使い方」実践セミナーの企画と運営

事業名：百舌鳥校区(堺市北区)小学生対象ソフトボールクリニック

日程：平成23年24年１月14日
会場：関西大学堺キャンパス
対象：小学生、小学生指導者約100人
概要：ソフトボールに必要な基礎練習の考え方とその実践方法についての講習会

◎大阪国際大学

事業名：守口市との教育連携事業（平成21年から継続事業）
概要：守口市の中学校(２校)へ学生指導者を派遣しての実技指導(週２～３回、２時間程度)

事業名：大阪市中学校運動部種目別合同練習会

日程：平成23年１月23日
会場：新生野中学校
対象：大阪市第５ブロックの中学生約100人
概要：ウォーミングアップ・ピッチング・守備・打撃の実技講習会

事業名：京都府両丹地区ソフトボール部実技講習会

日程：平成23年11月19日
会場：福知山成美高等学校
対象者：京都府両丹地区の高校生約100人
概要：ウォーミングアップ・ピッチング・守備・打撃の実技講習会

事業名：北河内中体連ソフトボール部実技講習会

日程：平成23年12月３日
会場：守口市立梶中学校
対象：北河内地区の中学生約250人
概要：ウォーミングアップ・ピッチング・守備・打撃の実技講習会

◎園田学園女子大学

事業名：競技力向上講習会（中体連）

日程：12月第２週の土・日
会場：京都市立洛南中学校
対象者：中学生約350人
概要：部員が中心的指導者となって２日間にわたる、トレーニング・基礎・応用等を含めたソフトボール技術講習

事業名：ソフトボールクリニック

日程：平成24年２月４・５日
会場：但馬ドーム
対象：小学校・中学校・高等学校・一般約200名
概要：部員が中心的指導者となった、カテゴリー別に時間を設定してのソフトボールの技術講習

事業名：ソフトボールクリニックＩＮ園田

日程：平成24年１月21日
会場：園田学園女子大学
対象：小学校・中学校・高校生200名
概要：部員が中心的指導者となった、ソフトボールの技術講習

◎大成学院大学

事業名：ソフトボール教室

日程：平成23年11月19・20日

会場：兵庫県立日高高校ほか

対象：但馬地区の中・高校生約120名

概要：ソフトボールにおける基本的な動き及び技術を取得するためのドリルの紹介及び実践指導

◎びわこ成蹊スポーツ大学

事業名：東日本大震災復興ボランティア

日程：平成23年７月22～27日

会場：岩手県大槌町

対象者：現地の小学生・びわこ成蹊スポーツ大学

概要：ソフトボール部員が現地にボランティアとし赴き、キッズプログラム(子供と運動を楽しむ)としてソフトボールを指導するとともに、瓦礫の撤去、薪割りなどにも従事した。

【四国地区】

◎愛媛女子短期大学

事業名：ソフトボール教室

日程：平成23年１月30日、平成24年１月22日

会場：宇和島市吉田球場、宇和島市丸山球場

対象：小・中学生約150～200名

概要：市内ソフトボールチームに対する基本技術や練習法等の指導

事業名：地域総合型スポーツクラブ「宇和島AITANスポーツクラブ」

日程：平成23年４月～翌年２月の毎月１～２回

会場：愛媛女子短期大学グラウンド

対象者：小学生10名～

概要：地域総合型スポーツクラブの会員である小学生を対象にボール遊びや楽しい球技等を通じ、ソフトボール競技への興味を高め、地域のソフトボールチームへの加入を促進し、底辺拡大につなげている。

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付ておりますので、下記までお問い合わせください。

森　田　啓　之

〒673-1494　兵庫県加東郡社町下久米９４２－１　兵庫教育大学

ＴＥＬ＆ＦＡＸ：（０７９５）４４－２２２７

E-mail:hmorita@hyogo-u.ac.jp

投　稿　規　程

平成11年７月30日交付

１．投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

２．投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌４ページ以内（巻頭言、提言の場合は１ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

３．投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

４．原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

執　筆　要　項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、Ａ４版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の２段組（上下余白25mm・左右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録委員会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、小川幸三前常任理事（日本体育大学）に対し、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜りましたので、平成23年３月８日の総合役員会において「功労表彰」を贈りました。

第11回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場のお申し込みは、次の大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

なお、出場の申し込みは学連ＨＰ　http://www.sgk.ac.jp/ajc-softball/　上のみから、受け付けています。「大会要項」必ず熟読してからお願いいたします。

第11回大学ソフトボール東海オープン大会要項

１．主　　催　東海地区大学ソフトボール連盟
２．主　　管　愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・豊田市ソフトボール協会・
安城市ソフトボール協会
３．後　　援　全日本大学ソフトボール連盟
４．特別協賛　ダイワマルエス㈱
５．大会期間　平成24年３月21日（水）・22日（木）、予備日３月23日（金）
６．大会会場　男子：豊田市運動公園ソフトボール場、多目的広場（３球場）
女子：安城市総合運動公園ソフトボール球場、野球場（３球場）
７．チーム数　男子12、女子12、計24チーム
８．参加資格　全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
なお、出場申し込み多数の場合は、各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に主催者が選抜する。
９．出場資格　主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された選手に限る。このうち試合ごとにベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長１名、監督１名、コーチ２名、トレーナー１名、記録員の資格を有するスコアラー１名、主務１名の計32名以内とする。なお、新１年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10．参 加 料　１チーム20,000円
11．申込方法　E-mailアドレスmztn@sgk.ac.jpへmailの件名を「○○大学(男女)東海オープン参加申込」とし、１月末日までに申込書を請求すること。また、出場が認められた後、申込書ファイルを返信し、参加料を次の口座へ２月17日(金)までに振り込むこと。
【振込口座】
銀行：三菱東京ＵＦＪ銀行大府支店　口座番号(普通)００********
名義：ミズタニヒロシ
12．競技方法　男女各12チームを３チームずつ４グループに分けて予選リーグ戦を１日で実施し、翌日１位グループ・２位グループ・３位グループ各４チームによる順位決定トーナメント戦を行う。
13．競技規則　2012年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。
なお、第一日の予選リーグ戦においては、90分を過ぎて次のイニングに入らない。また、サスペンデッドゲームを採用する。
14．使 用 球　ダイワマルエス社製公認革ボールとし、試合毎に新球を２個提出すること。
15．審 判 員　(財)日本ソフトボール協会公認審判員
16．表　　彰　優勝チームに対し賞状と優勝杯・優勝旗杯を、準優勝チームに対し賞状と盾を授与する。なお、優勝杯と優勝旗は持ち回りとする。
17．組合抽選　２月22日(水)午後５時から安城市総合運動公園体育館会議室において公開代理抽選を

行う。

18. 費　　用　参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。

19. 傷 病 等　主催者・主管者は大会期間中における傷害・疾病並びに事故等について一切の責任を負わない。保険証を持参すること。なお、プレイによって損害賠償が生ずるような場合は、保険の範囲内で主催者が対応する。

20. 宿泊弁当　主催者は斡旋しない。ただし、宿泊・弁当については関係機関を紹介する。

21. 備　　考　出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。

22. 問合せ先　至学館大学　水谷　博　E-mail　mztn@sgk.ac.jp

23. そ の 他　本大会は、開閉会式や監督会議など競技会の形式を極力省略し、限られた時間と会場において、最大の実質的な成果が得られるよう大会運営を行います。その点をご理解のうえ、ご参加ください。

第９回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会参加募集!!

今年も標記大会を下記の通り実施しますので、各大学チームの参加を募集いたします。
ゲームでの勝敗はもちろんですが、「国公立大学チーム間の交流」を大切にした雰囲気で行える運営を心がけますので、ご参加・協力をお願いします。

第９回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボール大会要項

１．期　日

平成24年３月24日(土)・25日(日)

※３／24の夕方に簡単な交流会を予定

※できるだけ両日参加下さい（両日参加できない場合も可能な限り対応します。）

２．大会会場

兵庫教育大学ソフトボール場、加東町グランド他（計５球場を予定）

３．募集チーム数

男子10チーム程度　　女子４チーム程度（申込多数の場合はお断りする場合もあります。）

４．参加費（チーム参加料＋傷害保険料）

チーム参加料（１日の場合：3,500円、２日の場合：6,000円）

傷害保険料（１人につき200円）　☆交流会参加の場合は、１人300円を別途徴収。

５．試合数

１大学１日１～２試合、１会場１日４～５試合を予定

※ 組み合わせに関しましては、参加チーム数等を勘案しながら決定します。

※ 詳細については開催側にお任せいただけますようお願い申し上げます。

６．試　合

全試合７回戦（コールドゲームあり。80分ゲーム）

７．ルール

2012年オフィシャルソフトボールルール

８．審　判

公認審判員（主審のみ）、学生審判（塁審は参加チームで行いますのでご協力下さい。）

９．宿 泊

原則として関西学生リーグ所属大学以外のチームに斡旋します（4,000～6,500円くらい）。

最も安いのが大学近くの宿泊研修センターで、料金は「宿泊のみで3,700円、食事付き＋2,500円（夕食1,800円、朝食700円）（若干の変更あり）」です。遠距離のチームにはできる限り安い宿舎を！と考えていますが、原則、先着順ですのでお早めにご連絡下さい。

10．食 事（昼食）

食堂・弁当屋等は斡旋しますので、各大学でご判断ください。（後日案内）

11．参加申し込み

必要事項を入力して下記アドレスにメールを送って下さい。受付後、折り返し登録用紙等を添付ファイルで送信します。なお、添付ファイルのやり取りがあるので、ＰＣ端末から必ず申し込んで下さい。

【申し込みに際して必要な事項】

1)チーム名（男子or女子）、2)参加希望日、3)宿泊希望日と人数（男･女､及び監督等）

4)申込責任者の氏名、携帯電話番号とアドレス及びＰＣアドレス、5)その他要望など

12．申込締め切り

平成24年２月17日(金)

13．申し込み先（連絡・問い合わせ先）

総務（男子チーム）中嶋紘也：兵庫教育大学２年　u10111f@hyogo-u.ac.jp

総務（女子チーム）秋枝文絵：兵庫教育大学２年　u10002k@hyogo-u.ac.jp

白馬カップ大学女子ソフトボール大会について

昨年で、第３回を数えた「HAKUBA CUP大学女子ソフトボール大会」の大会事務局から以下のような案内と大会プログラムが広報記録部会に送られてきましたので、転載します。

長野県白馬村で毎年夏に開催されている「HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会」は今年で３回目を迎えることになりました。
HAKUBA CUPは毎年試合をするだけでなく、期間中にイベントを取り入れておりますが、今回は「五輪開催地・白馬から、ソフトボール競技の五輪復活を呼び掛けよう！」をテーマとして取り組むことにしており、８月17日の開会式を白馬ジャンプ台の下（ブレーキングトラック）で行います。ソフトボールは2008年の北京五輪を最後に、五輪競技から除外されました。2020年五輪の復活を目指して関係団体も活動しておりますが、1998年長野五輪の感動の舞台となったジャンプ台で開会式を行うことにより、選手たちにも「五輪」を意識していただこうという思いで企画しました。
開会式には、北京五輪で金メダルを獲得した日本チームの監督・齊藤春香さんにご臨席していただき、さらに国際ソフトボール連盟・ドン・ポーター会長のメッセージも紹介いたします。
式の途中では、ソチ五輪から正式種目になる女子スキージャンプの日本代表候補選手である山田優梨菜選手（小谷中）にジャンプを飛んでもらう予定です。
以上のように、競技を越えてソフトボールの五輪復活をアピールしていきます。
趣旨をご理解の上、ぜひご支援いただければ幸いです。

白馬カップ大学女子ソフトボール大会実行委員会
事務局　江成康明）

大会開催に向けて

大会名誉顧問　宇　津　木妙子

白馬村での大学女子ソフトボール大会が３回目を迎えたことに対し、心よりお慶び申し上げます。ソフトボールの普及と競技力の向上を目指している私にとってはこの上ない喜びであり、次代を担う選手がこの大会から出てきてくれることを祈っています。

今大会は、五輪開催地である白馬村からソフトボールの五輪復活を呼びかけようという趣旨で開かれる、と聞いています。五輪の素晴らしさを知っている白馬村からこのような発信をしていただけることに私たちは何よりも心強さを感じています。ソフトボールは必ずや五輪の舞台に戻ると信じています。このたびの「なでしこジャパン」のワールドカップ優勝が、たくさんの女性選手に夢と希望を与えてくれました。「あきらめない」という彼女たちの思いを、若い選手たちは引き継いでほしいと願っています。

白馬カップは地域の方々と心のキャッチボールをすることから始まりました。一心にボールを追い続ける姿は見てくださる人たちにきっと伝わり、ソフトボールを愛する輪が広がっていくはずです。みんなで力を合わせて、ソフトボールの普及、発展に努めましょう。

今大会の開催にあたり、白馬村や周辺地域の方々に厚く御礼申し上げるとともに、大会が成功裏に運営されていくことを心より祈念いたします。

大会戦績

第１回優勝：大阪国際大　準優勝：松本大
第２回優勝：東海学園大　準優勝：山梨学院大
第３回参加校：東海学園大・松本大・山梨学院
大阪国際大・清和大・至学館大
東京国際大・金沢学院大・
新島学園短期大学・岐阜経済大
（第２日雨のため順位決定できず）

平成22・23年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職　名	氏　　名	所　　属	氏　　名	所　　属
会　　長	一　谷　宣　宏	園田学園女子大学	－	
副会長	武　藤　幸　政	城西大学	中　野　　元	熊本学園大学
	吉　野　みね子	東京女子体育大学	丸　山　　悟	日本福祉大学
顧　　問	坂　井　正　郎	国士舘大学名誉教授	角　田　真一郎	早稲田大学名誉教授
	水　野　信　義	ＷＳＭ教育研究所	斎　藤　滋　雄	学習院大学名誉教授
	大　内　敬　哉	中京大学名誉教授	中　野　紀　明	国士舘大学名誉教授
	末　井　健　作	姫路県立大学名誉教授	－	
理事長	高　橋　伸　次	高崎経済大学	－	
副理事長	逢　坂　秀　樹	鳥取短期大学	岩　間　英　明	松本大学
常任理事	森　田　啓　之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大　塚　健　樹	盛岡大学	小　川　幸　三	日本体育大学
	黒　田　重　靖	富山大学	大　塚　　隆	東海大学
	矢　澤　久　史	東海学院大学	久保田　豊　司	大阪国際大学
	宮　尾　直　海	愛媛女子短期大学	濱　　貴　一	熊本学園大学
理　　事	小　嶋　高　良	八戸工業大学	舟　山　健　一	東北福祉大学
	岡　田　万　嗣	山梨学院大学	丸　山　克　俊	東京理科大学
	立　山　利　治	国際武道大学	水　谷　　博	至学館大学
	山　本　英　弘	朝日大学	石　井　賀一郎	中京学院大学
	二　瓶　雄　樹	中京大学	鈴　木　正　明	四天王寺大学

理　　事	板　谷　昭　彦	園田学園女子大学	但　尾　哲　哉	神戸親和女子大学
	山　本　孔　一	IPU環太平洋大学	新　垣　　實	沖縄国際大学
	富　田　国　興	（広島修道大学）	－	
評 議 員	飯　島　　隆	盛岡大学	高　橋　知　美	富士大学
	友　坂　敏　信	富山大学	櫻　井　佳代子	新島学園短期大学
	石　井　雅　章	城西大学	清　水　　正	山梨学院大学
	高　橋　流　星	日本体育大学	谷　口　佳津宏	南山大学
	松　井　　健	日本福祉大学	大　矢　隆　二	常葉学園大学
	菅　野　貴　広	静岡大学	河　崎　　靖	京都大学
	児　玉　公　正	大阪大谷大学	浅　野　浅　春	関西外国語大学
	秋　澤　俊　史	摂南大学	落　合　　功	広島修道大学
	山　中　　卓	鹿児島国際大学	－	
監　　事	平　野　義　明	関西大学	細　田　きみ子	東京女子体育大学
事 務 局	〒370-0801　高崎市上並榎町1300　高崎経済大学　高橋伸次			
	ＦＡＸ：（０２７）３４３－４８４０		E-mail：takahas@tcue.ac.jp	

学生委員長	徳　田　政　隆	東京大学	－	
学生副委員長	坂　井　佳　文	関西大学	金　山　美　穂	中央大学
学 生 委 員	宮　下　翔　太	東京理科大学	大　崎　柚　果	東海大学
	千須和　翔　平	専修大学	生　野　裕　樹	慶應義塾大学
	吉　田　英　真	愛知大学	近　藤　雄　太	関西大学
	阪　井　あかね	園田学園女子大学	田　原　　茜	園田学園女子大学

平成23年度　男子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地区	数	加盟大学名
北海道・東北	10	仙台大学　東北大学　東北学院大学　日本大学工学部　八戸工業大学 弘前大学　福島大学　北海道大学　宮城教育大学　盛岡大学
関東	20	茨城大学　関東学園大学　国際武道大学　埼玉大学　芝浦工業大学　城西大学 高崎経済大学　千葉大学　筑波大学　中央学院大学　都留文科大学　獨協大学 大東文化大学　東海大学　東京国際大学　東京理科大学 日本大学生物資源科学部　日本大学生産工学部　文教大学　山梨学院大学
北信越	7	石川県立大学　金沢大学　信州大学　富山大学　長野大学　福井大学 福井県立大学
東京	21	桜美林大学　学習院大学　慶應義塾大学　国際基督教大学　国士舘大学 専修大学　成蹊大学　中央大学　帝京大学　東京大学　東京学芸大学 東京農業大学　東洋大学　日本大学　日本体育大学　文教大学湘南 東京都市大学　明治大学　明星大学　立教大学　早稲田大学
東海	18	愛知大学　愛知学院大学　愛知教育大学　愛知みずほ大学　朝日大学 岐阜聖徳学園大学　静岡大学　大同大学　中京大学　中京学院大学　中部大学 東海学園大学　常葉学園大学　名古屋大学　名古屋商科大学 南山大学　日本福祉大学　名城大学
近畿	27	大阪大学　大阪経済大学　大阪経済法科大学　大阪工業大学　大阪産業大学 大阪市立大学　大阪体育大学　大阪府立大学　関西大学　関西学院大学 京都大学　京都学園大学　京都産業大学　近畿大学　神戸大学　神戸学院大学 甲南大学　四天王寺大学　同志社大学　奈良教育大学　兵庫教育大学 兵庫県立大学　佛教大学　立命館大学　龍谷大学　流通科学大学　和歌山大学
中国	14	岡山大学　岡山商科大学　岡山理科大学　川崎医科大学　環太平洋大学 近畿大学工学部　東亜大学　鳥取大学　広島大学　広島経済大学 広島工業大学　広島修道大学　広島国際大学　広島国際学院大学
四国	8	愛媛大学　香川大学　高知大学　高知工科大学　四国大学　四国学院大学 徳島大学　松山大学
九州	20	沖縄国際大学　大分大学医学部　鹿児島国際大学　九州大学　九州共立大学 九州産業大学　熊本学園大学　久留米工業大学　佐賀大学　崇城大学 第一工業大学　長崎県立大学　長崎国際大学　日本文理大学　日本経済大学 福岡大学　福岡工業大学　宮崎大学　名桜大学　琉球大学

平成23年度　女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地区	数	加盟大学名
北海道・東北	7	仙台大学　東北福祉大学　弘前大学　富士大学　北翔大学　宮城教育大学 盛岡大学
関東	17	茨城大学　関東学園大学　国際武道大学　埼玉大学　淑徳大学　順天堂大学 城西大学　城西国際大学　清和大学　千葉大学　筑波大学　東海大学 東京国際大学　日本大学生物資源科学部　新島学園短期大学　文教大学 山梨学院大学
北信越	7	金沢大学　金沢学院大学　上越教育大学　信州大学　富山大学　福井大学 松本大学
東京	19	桜美林大学　学習院大学　慶應義塾大学　国士舘大学　国際基督教大学 駒澤大学　実践女子大学　専修大学　成蹊大学　創価大学　中央大学 東京学芸大学　東京女子体育大学　東洋大学　日本大学　日本女子体育大学 日本体育大学　明治大学　早稲田大学
東海	14	愛知教育大学　至学館大学　岐阜経済大学　岐阜聖徳学園大学　静岡大学 鈴鹿国際大学　中京大学　中京学院大学　東海学院大学　東海学園大学 常葉学園大学　名古屋大学　日本福祉大学　浜松大学
近畿	23	大阪国際大学　大阪体育大学　大阪府立大学　大阪大谷大学　関西大学 関西外国語大学　京都女子大学　神戸親和女子大学　四天王寺大学　摂南大学 園田学園女子大学　太成学院大学　天理大学　同志社大学　奈良教育大学 奈良文化女子短期大学　兵庫教育大学　びわこ成蹊スポーツ大学　佛教大学 武庫川女子大学　立命館大学　龍谷大学　流通科学大学
中国	10	岡山大学　川崎医療福祉大学　環太平洋大学　中国学園大学　鳥取大学 鳥取短期大学　広島大学　広島修道大学　安田女子大学　山口福祉文化大学
四国	4	愛媛女子短期大学　香川大学　四国大学　四国学院大学
九州	6	沖縄国際大学　九州共立大学　熊本学園大学　日本文理大学　福岡大学 名桜大学

男　子　145大学
女　子　107大学
合　計　252大学　　平成23年11月１日現在

編　集　後　記

昨年は忘れられない年になりました。否、忘れてはいけない年です。東日本大震災により被災された皆様に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。これにより中止を余儀なくされた大会もありましたが、日々ソフトボールを楽しめることがどんなに幸せなことかを改めて感じさせられました。

被災者の救援活動にボランティアとして活動されたチームや義援金の募金活動に励まれた学生諸君諸姉も多いと思います。「情けは人の為ならず」とは「情けをかけることは、結局はその人のためにならない(のですべきではない)」という意味ではありません。「人に情けをかけるのは、その人のためになるばかりでなく、やがては巡り巡って自分に返ってくる。人には親切にせよ。」という教えです。極論すれば、ボランティアは自分のためにするものだということです。それらの活動はきっと将来生きていくうえでの糧になるでしょう。

ところで、定年により今期限りで役員を退任される先生方が多数おられます。代表して３名の方にご挨拶をいただきました。特に、吉野先生はインカレ46回連続出場、内優勝15回を誇る東京女子体育大学の監督で、学連創設を知る唯一の役員です。学連50周年に向けてもうしばらくお力添えをいただきたいと存じております。

最後になりましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷　博（至学館大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙デザイン：川北卓史（長野県安曇野市在住）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌　*ウインドミル*　第15号

2012年１月15日発行

発　行　者　　全日本大学ソフトボール連盟会長　一谷　宣宏

編集責任者　　広報記録部長　水谷　博

E-mail：mztn@sgk.ac.jp

発　行　所　　全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801　高崎市上並榎町1300　高崎経済大学

ＦＡＸ　（０２７）３４３-４８４０

ＵＲＬ http://www.sgk.ac.jp/ajc-softball/

E-mail：takahas@tcue.ac.jp

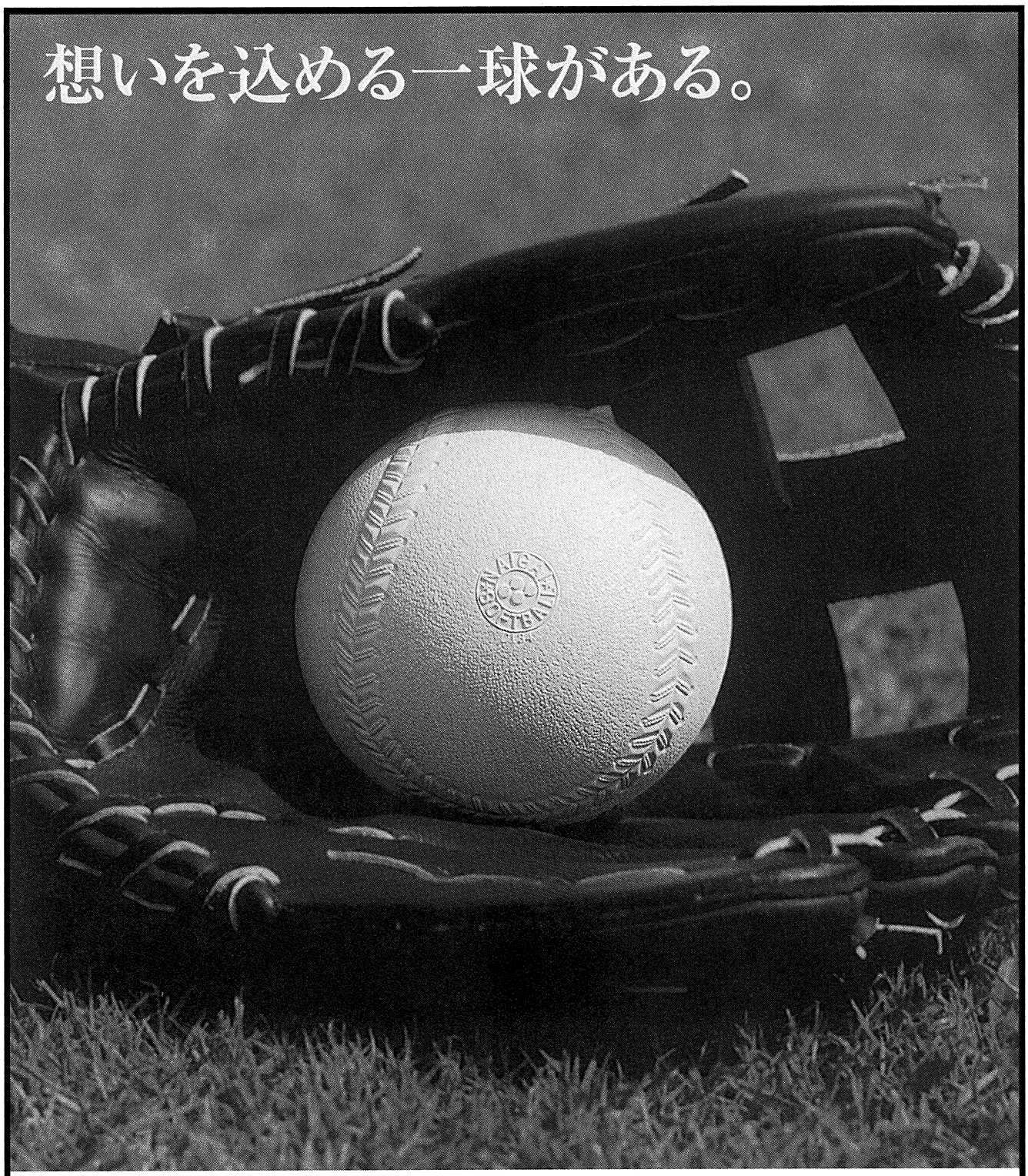
印　　刷　　西濃印刷㈱

〒500-8074　岐阜市七軒町15番地

ＴＥＬ　（０５８）２６３－４１０１

ＩＳＳＮ　１３４３－４３９Ｘ

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球　検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ

NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球　A号・B号・C号・D号・H号

naigai

内外ゴム株式会社

「ボールのロゴマークカラーはイメージで実際の商品とは異なります」

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社　www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代)　[大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代)　[九州営業所] TEL(092)471-5381(代)
[名古屋営業所] TEL(052)734-8886　[広島営業所] TEL(082)850-1260　[札幌営業所] TEL(011)598-7435

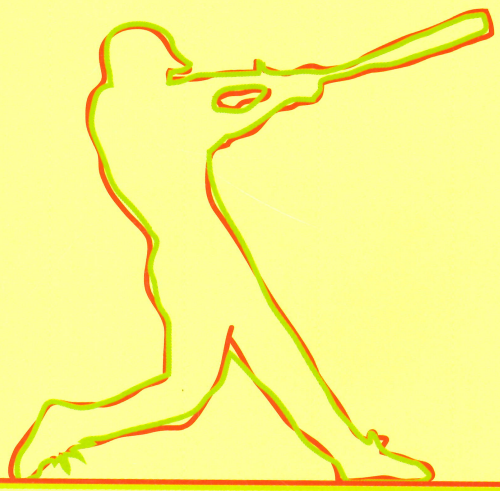
Rawlings®
Est. 1887

こだわりを包み込むカタチ。

自分自身のパフォーマンスを最大に活かすため、生まれる用具への強い「こだわり」。
アシックス&ローリングスは、そのさまざまな「こだわり」に応え、
プレーヤーがパフォーマンスを発揮できる用具を届けていきたい。「こだわり」を「カタチ」に変えて。

asics®
sound mind, sound body

株式会社アシックス
http://www.asics.co.jp/yakyu/ 0120-77-6338
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。



ウインドミル　NO.15（２０１１）

ISSN　1343－439X